

尾鷲市まちづくりに関するアンケート調査 結果報告書

令和8年7月

【目 次】

I	調査の概要	1
1	調査の目的	2
2	調査概要	2
3	報告書の見方	2
II	調査の結果	3
1	回答者について	4
2	本市での生活について	8
3	これからのまちづくりについて	19
4	暮らしの満足度と今後の重要度について	61
5	市民の Well-Being について	68
6	総合計画について	70

I 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、「第7次尾鷲市総合計画」の進行管理にあたり、市民の皆さまのご意見を反映するために、これからのまちづくりに関してどう考えているのかを把握するため、毎年、実施しているものです。

また、令和7年度は、第7次尾鷲市総合計画後期基本計画策定の時期にあたり、本調査によって明らかになる傾向を、後期基本計画に反映することも目指しています。

2 調査概要

調査区域 : 尾鷲市全域

調査対象 : 18歳以上80歳以下の市民から1,000人を無作為抽出

調査時期 : 令和8年2月～3月

配布数 : 1,000票

回収数 : 424票

(内訳 WEBによる回収100票 郵送による回収324票)

回収率 : 42.4%

3 報告書の見方

回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。

複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。

図表中において、「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が著しく困難なものです。

グラフ及び表の「N数 (number of case)」は、有効標本数（集計対象者総数）を表しています。

また、以前の調査と比較可能な設問のうち、適切と思われる設問について前回、前々回の調査によって得られた結果と比較して分析しています。

(参考)

前回調査 : 令和7年2月 (回収数372票 回収率37.2%)

前々回調査 : 令和6年2月 (回収数374票 回収率37.4%)

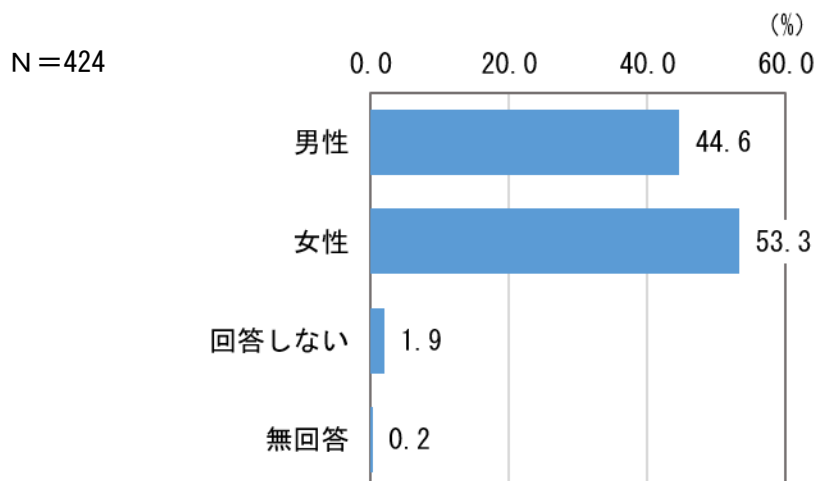
※調査区域、調査対象、配布数の条件は同じです。

II 調査の結果

1 回答者について

問1 あなたの性別をお聞かせください。

回答者の性別は、「男性」が44.6%、「女性」が53.3%となっています。

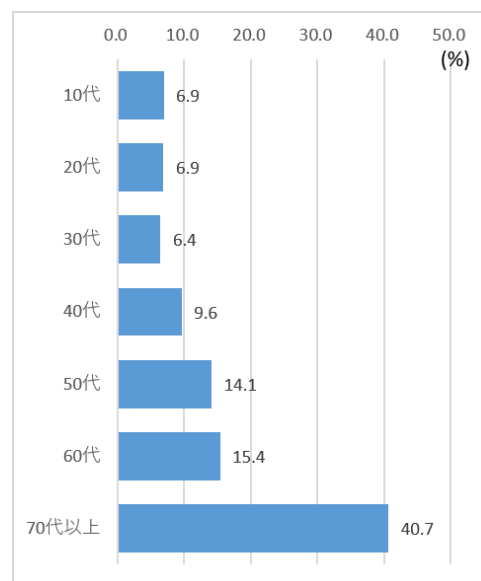
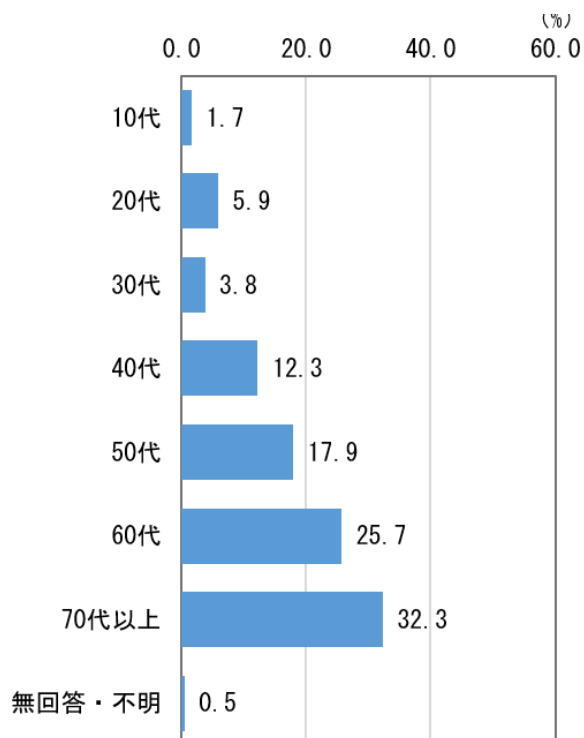


問2 あなたの年齢をお聞かせください。

回答者の年齢は、「60代」が25.7%、「70代以上」が32.3%と、60代以上が約6割を占めています。右図の住民基本台帳の人口割合と比較すると、「40代」「50代」「60代」で実際の割合より高く、その他の年代では低い割合となっています。

N = 424

※調査対象である18歳以上の人口の年齢構成比

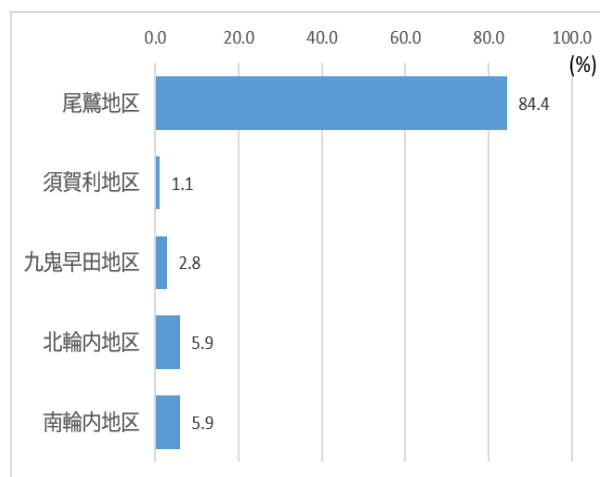
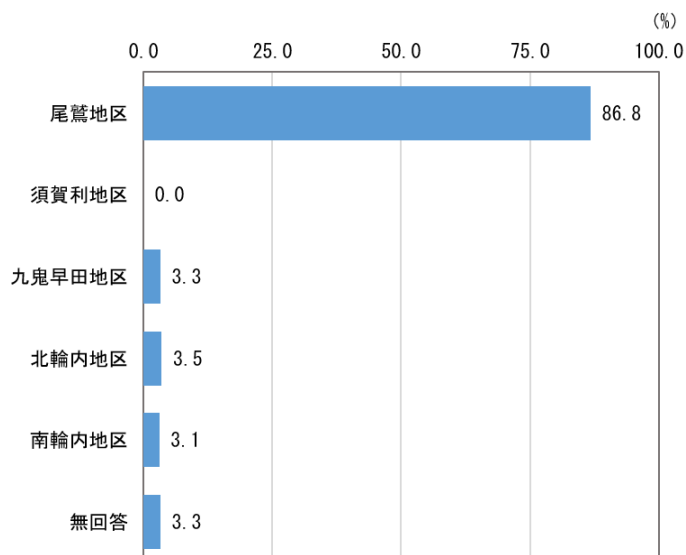


(参考) : 住民基本台帳令和8年1月現在

問3 あなたは、尾鷲市のどの地区にお住まいですか。

回答者の居住地区は、「尾鷲地区」が 86.8%を占めています。右図の住民基本台帳の人口割合と比較すると、「尾鷲地区」「九鬼早田地区」で割合がやや高くなっています。

N = 424

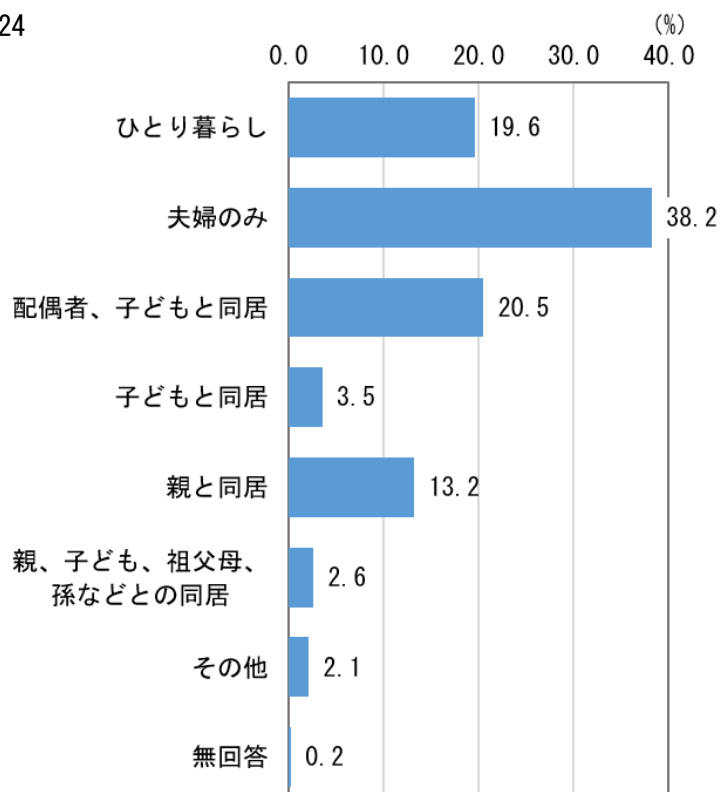


(参考) : 住民基本台帳令和 8 年 1 月現在

問4 あなたの世帯の状況を教えてください。

回答者の世帯の状況は、「夫婦のみ」が 38.2%、「ひとり暮らし」が 19.6%、「配偶者、子どもと同居」が 20.5%となっています。

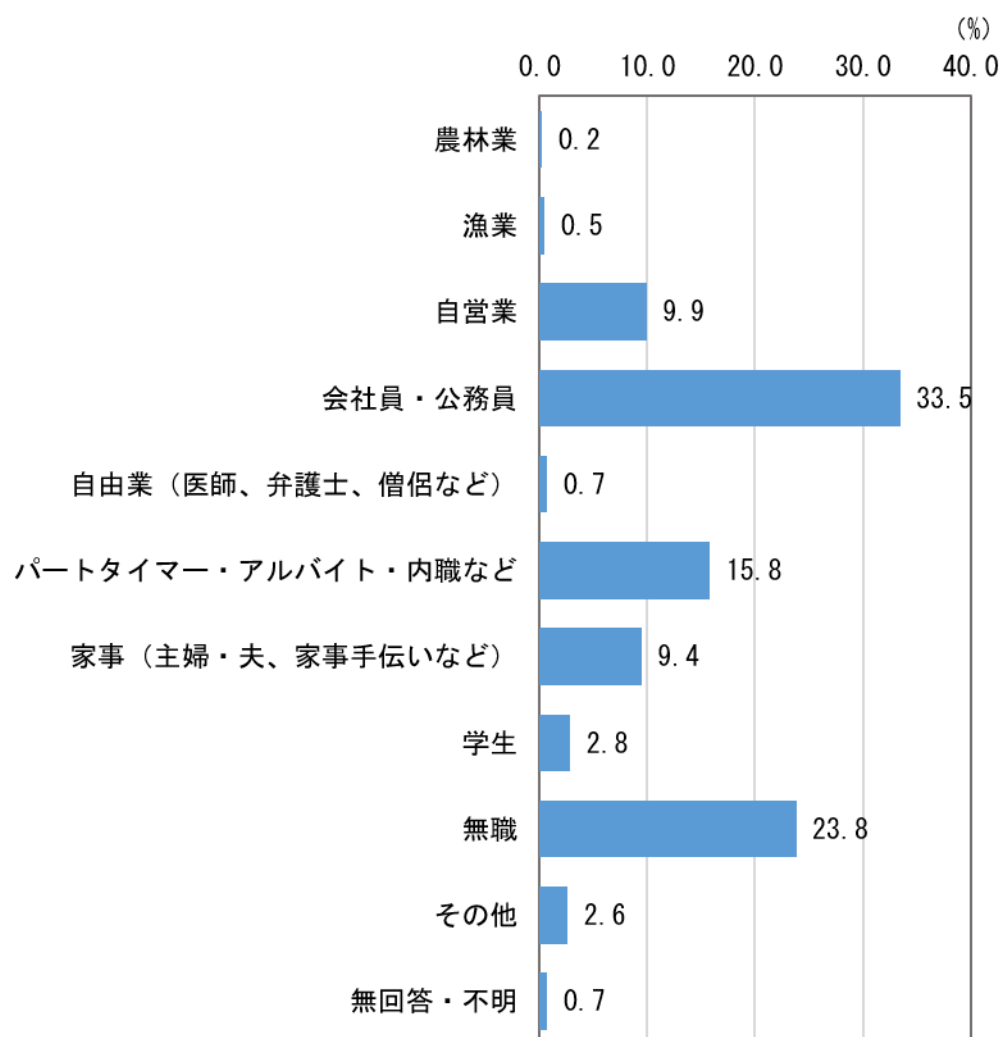
N = 424



問5 あなたの主な職業をお聞かせください。

回答者の職業は、「会社員・公務員」が 33.5%、「無職」が 23.8%、「パートタイマー・アルバイト・内職など」が 15.8%となっています。

N=424

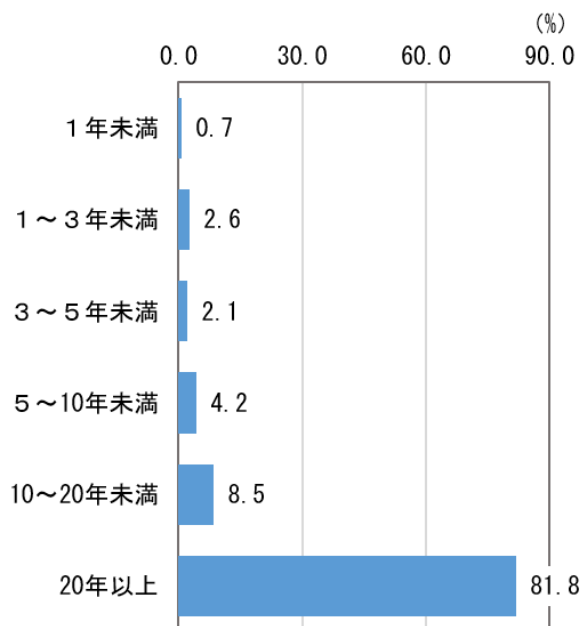


問6 あなたが尾鷲市にお住まいになってから何年経過していますか。

回答者の居住年数は、「20 年以上」が 81.8%となっています。

過去 2 か年の調査結果でも、前回 (83.1%)、前々回 (80.2%) となっており、「20 年以上」がいずれも 8 割を超えています。

N = 424



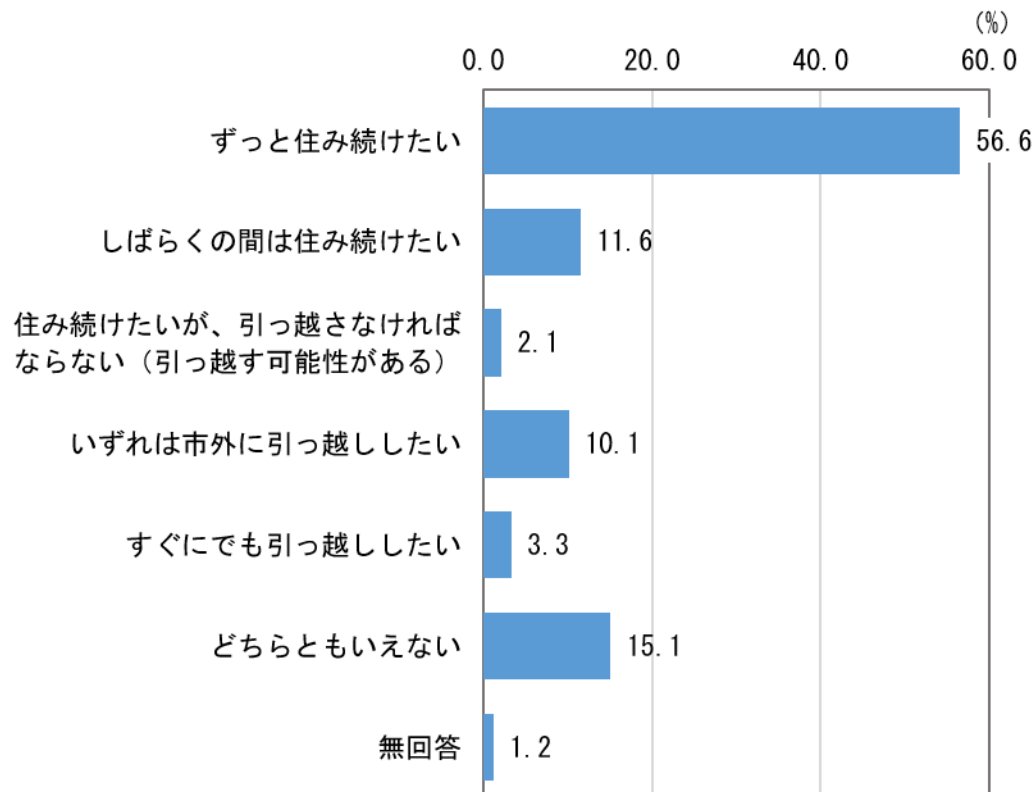
2 本市での生活について

問7 あなたは、これからもずっと尾鷲市に住み続けたいとお考えですか。

定住意向は、「ずっと住み続けたい」が56.6%、「しばらくの間は住み続けたい」が11.6%であり、両者を合わせた「住み続けたい」と答えた方の合計が68.2%となっています。

過去2か年の調査結果でも、前回(72.6%)、前々回(68.2%)ともにほぼ同じとなっており、ここ3年間はおおむね7割前後の方が「住み続けたい」と答えています。

N=424

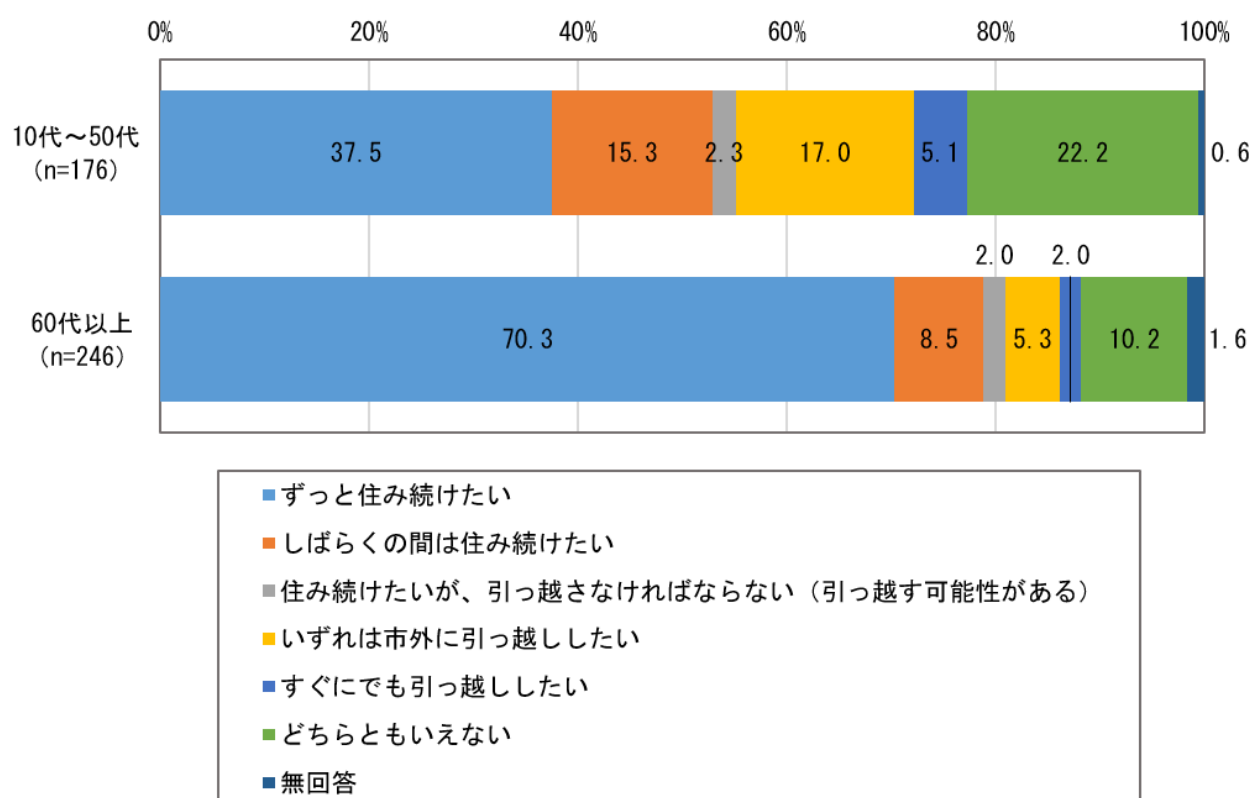


問7×年代

定住意向を年代別に見ると、「ずっと住み続けたい」は、「60代以上」では70.3%であるのに対し、「10代～50代」では37.5%であり、年代により大きな差が見られます。

また、「10代～50代」の「いずれは市外に引っ越ししたい」「すぐにでも引っ越ししたい」が合計22.1%となっています。

過去2か年の調査結果では、前回(14.6%)、前々回(17.6%)となっており、3年間で初めて合計20%を超えており、「10代～50代」の方の、転出希望が高まっている可能性があります。

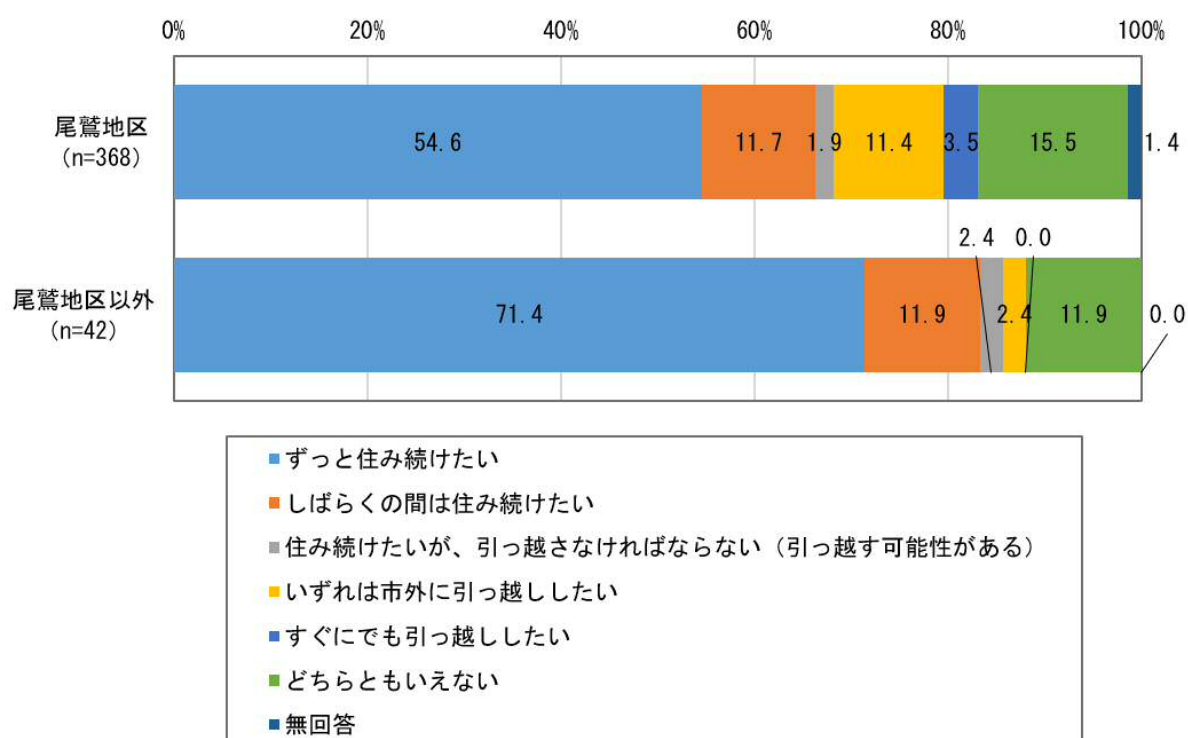


問7×居住地区

定住意向を地区別に見ると、「ずっと住み続けたい」は、尾鷲地区 54.6%、尾鷲地区以外 71.4%となっており、尾鷲地区以外の定住意向割合が高くなっています。また、「しばらくの間住み続けたい」は、尾鷲地区 11.7%、尾鷲地区以外 11.9%とほぼ同じ割合となっています。

過去2か年の調査結果では、「ずっと住み続けたい」と回答した割合は、前回は尾鷲地区(61.3%)、尾鷲地区外(61.3%)と同数となっており、前々回が尾鷲地区(56.1%)、尾鷲地区外(65.9%)となっています。

前回と前々回の結果と比べ、今回、尾鷲地区と尾鷲地区外での「ずっと住み続けたい」と答えた人の割合の差が更に開いたこととなります。



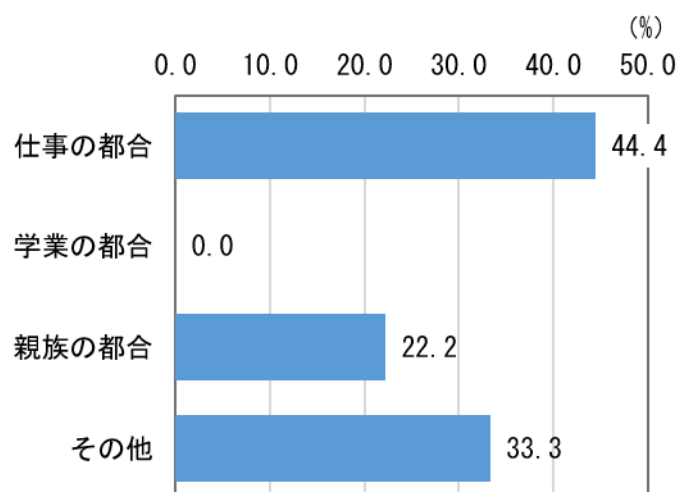
問8 【問7で「住み続けたいが、引っ越さなければならない(引っ越す可能性がある)」とお答えになった方におうかがいします。】引っ越す可能性がある理由は何ですか。

引っ越さなければならない理由は、「仕事の都合」が44.4%と最も高く、次に、「親族の都合」が22.2%、「その他」が33.3%となっています。

過去2か年の調査結果では、前回、「仕事の都合(75.0%)」が最も高く、前々回では、「学業の都合(33.3%)」と「親族の都合(33.3%)」が同じ割合で高くなっており、異なる傾向となっています。

ただ、回答数が、今回9人、前回(16人)、前々回(12人)と少ないため、単純に傾向の違いを読み取ることは難しいと考えます。

N=9



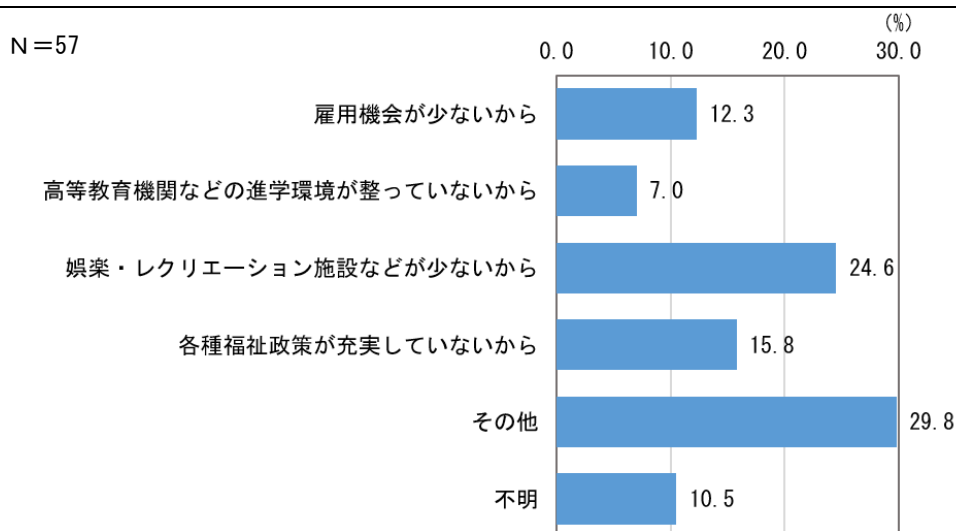
「その他」の回答（抜粋）
自分自身の老後
車がないと生活できないから老後は引っ越ししたい。
高齢で1人住まいが難しくなったら子供の住んでいる所に行く事になると思う。

問9【問7で「いずれは市外に引っ越したい」または「すぐにでも引っ越したい」とお答えになった方におうかがいします。】市外に引っ越したい理由は何ですか。

引っ越したい理由は、「その他」を除き、「娯楽・レクリエーション施設などが少ないから」が24.6%と最も高く、次に、「各種福祉政策が充実していないから」が15.8%、「雇用機会が少ないから」が12.3%となっています。

過去2か年の調査結果では、前回、「娯楽・レクリエーション施設などが少ないから」(34.5%)と「雇用機会が少ないから」(20.7%)が高くなっています。また、前々回では、「各種福祉政策が充実していないから」(20.8%)と「娯楽・レクリエーション施設などが少ないから」(16.7%)が高くなっています。

今回の回答数は、前回の29人から倍増の57人となっています。



※複数回答があったため、合計が100%を超えています。

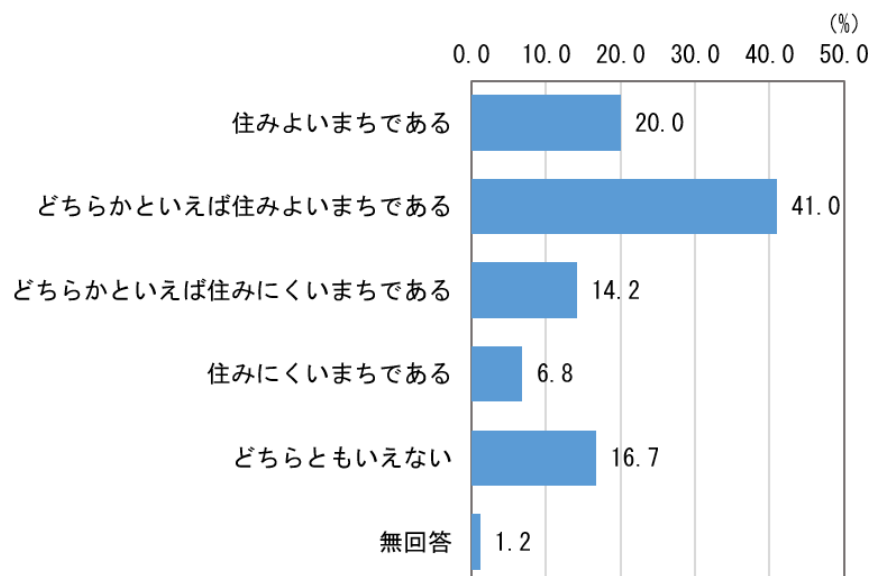
「その他」の回答（抜粋）
専門及び高度な医療機関が無いため。
色々な面でもっと便利な土地でくらしたい。
医療への不安
医療の事を考えた時、尾鷲病院で対応できないと、市外へ搬送されると聞くので、医療が整った地域に住みたいです。
希望がない。
市民ファーストでないから （例）たとえば野球場でも子供達の事を考えず海拔4mのところへ建てるとか避難所も中京銀行跡で取り壊しに費用がかかる。
津波・病院
高齢夫婦だけでは、生活しづらい。
とても住みにくくて。
娘夫婦に同居させてもらう。
病院が無いから。
家が高台にあり、生活が大変。
家族の都合の為。

問 10 あなたは、尾鷲市を全体としてどのようにお考えですか。

尾鷲市全体の評価（住みやすさ）として、「どちらかといえば住みよいまちである」が 41.0%と最も高く、次に、「住みよいまちである」が 20.0%となっており、合計で 61.0%が「住みよいまち」としています。

過去 2 か年の調査結果では、「住みよいまち」「どちらかといえば住みよいまち」と回答した割合は、前回 (62.1%)、前々回 (57%) となっており、3 か年の傾向としてほぼ 6 割程度の方が「住みよいまち」と考えていることが分かります。

N = 424



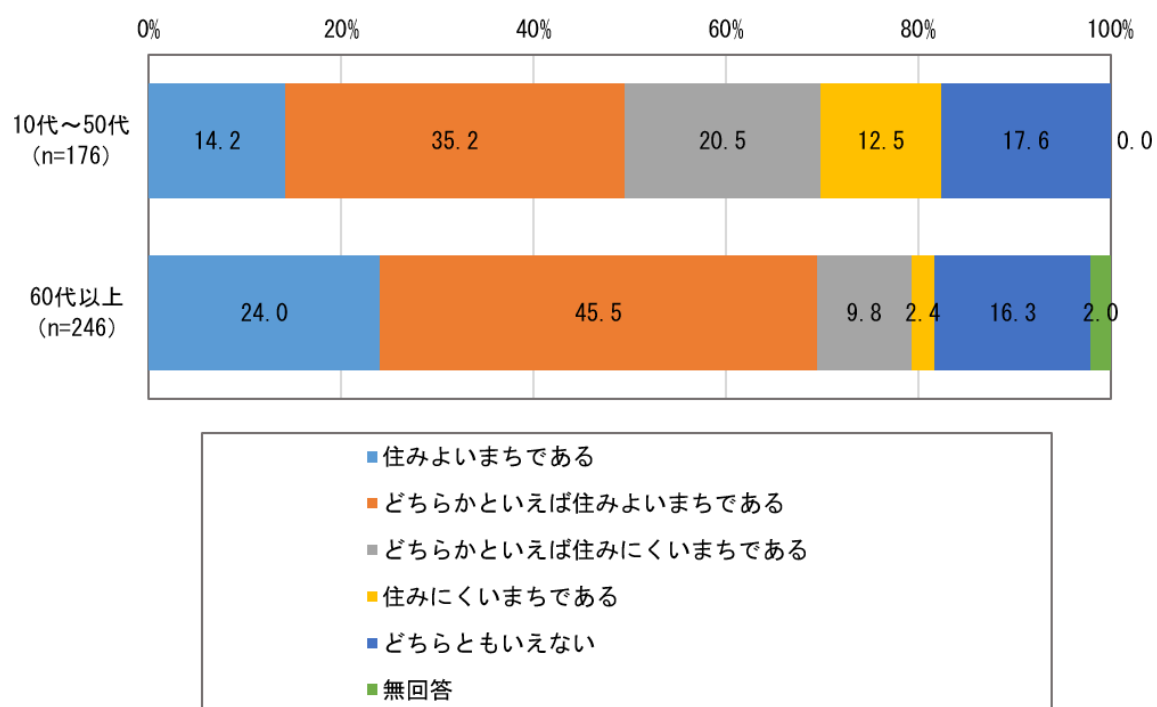
問 10×年代

尾鷲市全体の評価を年代別に見ると、「住みよいまちである」について「10代～50代」が14.2%、「60代以上」が24.0%、「どちらかといえば住みよいまちである」について「10代～50代」が35.2%、「60代以上」が45.5%となっています。両者の合計では、「60代以上」では69.5%であるのに対し、「10代～50代」では49.4%であり、高年齢層において住みやすいと感じている人の割合が半数を超え、若年齢層では住みやすいと感じている人が約半数にとどまっています。

また、「住みにくいまちである」については、「10代～50代」が12.5%、「60代以上」が2.4%となっており、住みにくさを感じる人の割合も年代で差があります。

過去2か年の調査結果では、「住みよいまちである」「どちらかといえば住みよいまちである」の合計について、「10代～50代」では、前回(50.7%)、前々回(53.3%)であるのに対し、「60代以上」では、前回(69.5%)、前々回(59.8%)となっています。

この3年間で、「10代～50代」と「60代以上」の住みやすさに対する評価の差が開いていると考えられます。

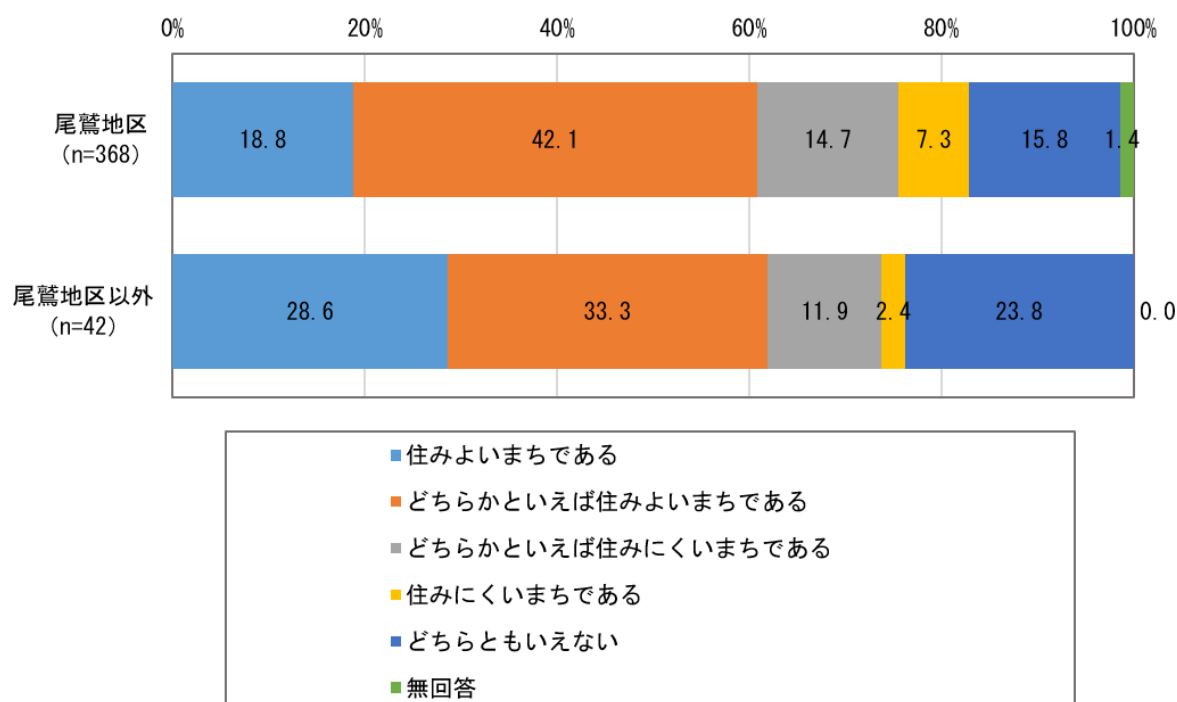


問 10×居住地区

尾鷲市全体の評価を地区別に見ると、「住みよいまちである」が、尾鷲地区で 18.8%、尾鷲地区以外で 28.6%と、尾鷲地区以外の割合が高くなっています。また、「どちらかといえば住みよいまちである」が、尾鷲地区で 42.1%、尾鷲地区以外で 33.3%と、尾鷲地区の方が高くなっています。両者の合計では、尾鷲地区で 60.9%、尾鷲地区以外で 61.9%とほぼ同じとなっています。

過去2か年の調査結果では、「住みよいまちである」「どちらかといえば住みよいまちである」の合計が、尾鷲地区で、前回(62.6%)、前々回(58.1%)、尾鷲地区以外で、前回(59.7%)、前々回(47.7%)となっています。

3年間の傾向として、「住みよいまちである」「どちらかといえば住みよいまちである」の割合について、尾鷲地区以外が尾鷲地区を逆転しています。

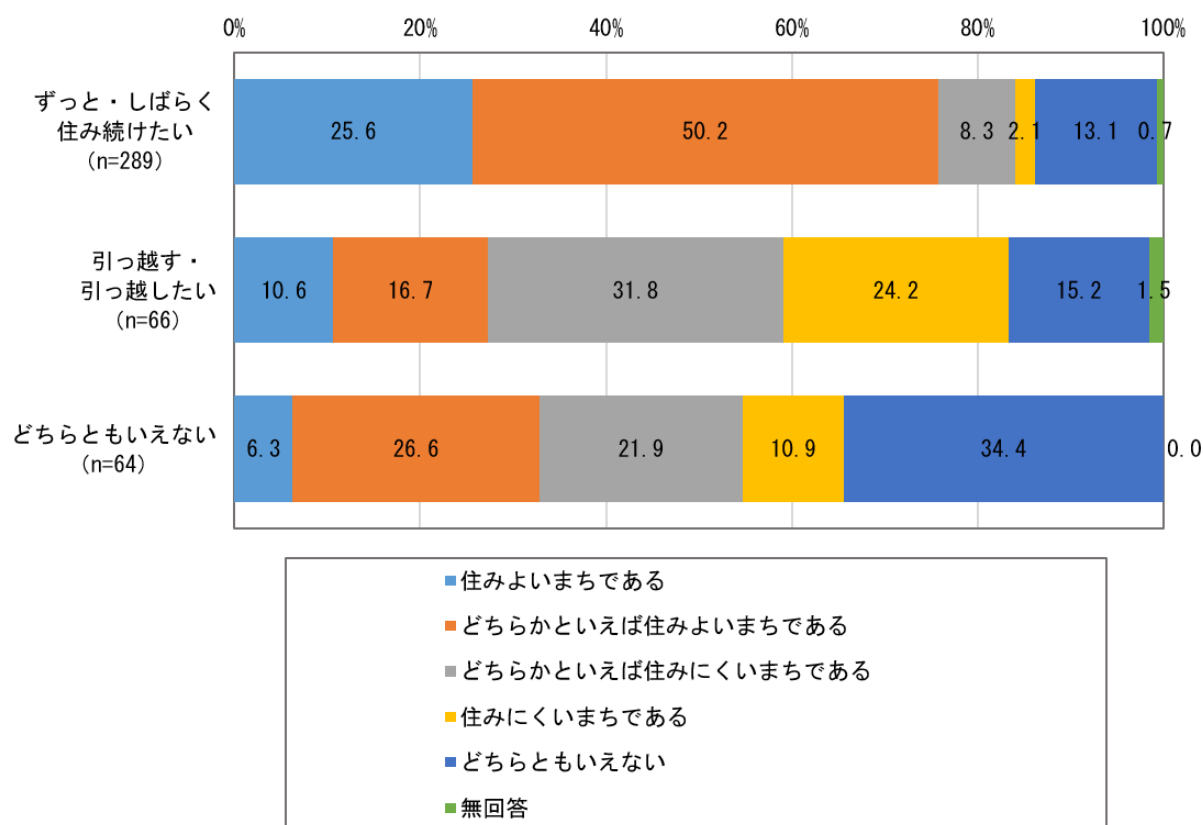


問 10×定住意向

尾鷲市全体の評価を定住意向別に見ると、「住みよいまちである」と「どちらかといえば住みよいまちである」の合計は、「ずっと住み続けたい」と答えた方では 75.8%となっているのに対し、「引っ越す・引っ越したい」と答えた方では 27.3%となっています。

過去2か年の調査結果では、「ずっと住み続けたい」と答えた方の「住みよいまちである」と「どちらかといえば住みよいまちである」の合計は前回(71.8%)、前々回(72.9%)となっています。また、「引っ越す・引っ越したい」と答えた方の「住みよいまちである」と「どちらかといえば住みよいまちである」の合計は、前回(44.5%)、前々回(25.0%)となっています。

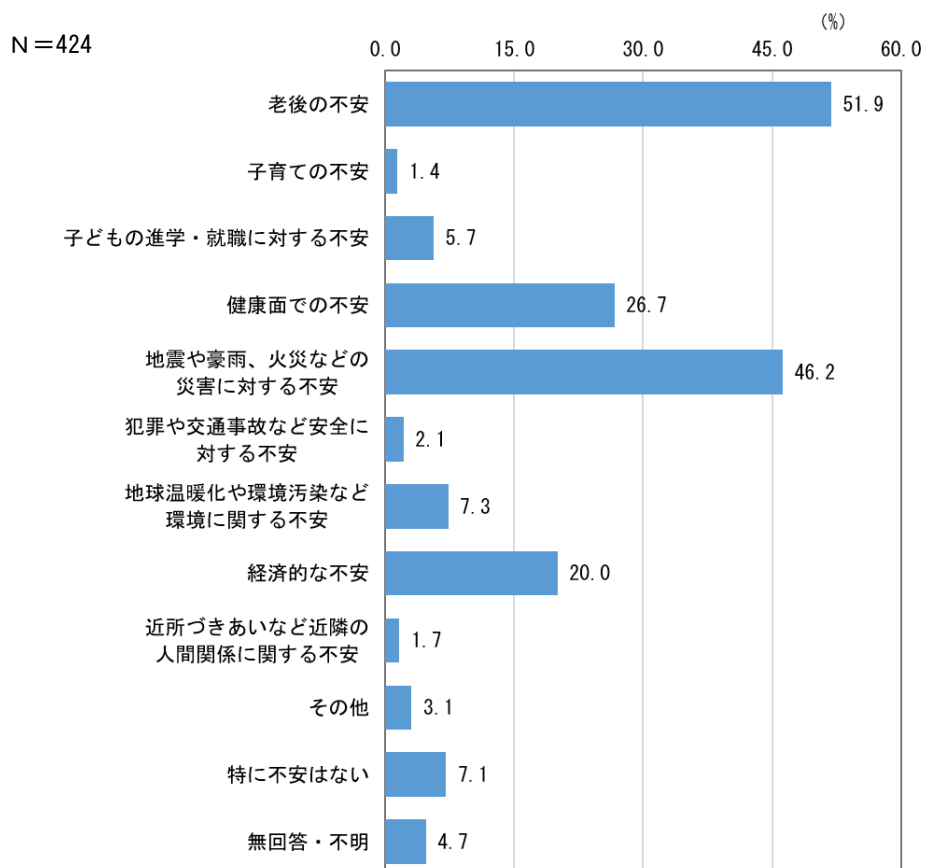
このことから、定住意向により住みやすさの評価に差があること、「ずっと住み続けたい」と答えた方の評価は3年間で大きく変わりませんが、「引っ越す・引っ越したい」と答えた方の評価は年によって変動があることが分かります。



問 11 現在、あなたが不安に感じていることは何ですか。(複数回答)

現在不安に感じていることとして、「老後の不安」が51.9%と最も高く、次に、「地震や豪雨、火災などの災害に対する不安」が46.2%、「健康面での不安」が26.7%、「経済的な不安」が20.0%となっています。

過去2か年の調査結果では、上位4つの順位は変わりませんが、「老後の不安」が前回(52.7%)、前々回(50.3%)、「地震や豪雨、火災などの災害に対する不安」が前回(47.8%)、前々回(50.0%)と非常に高くなっています。



※複数回答があったため、合計が100%を超えています。

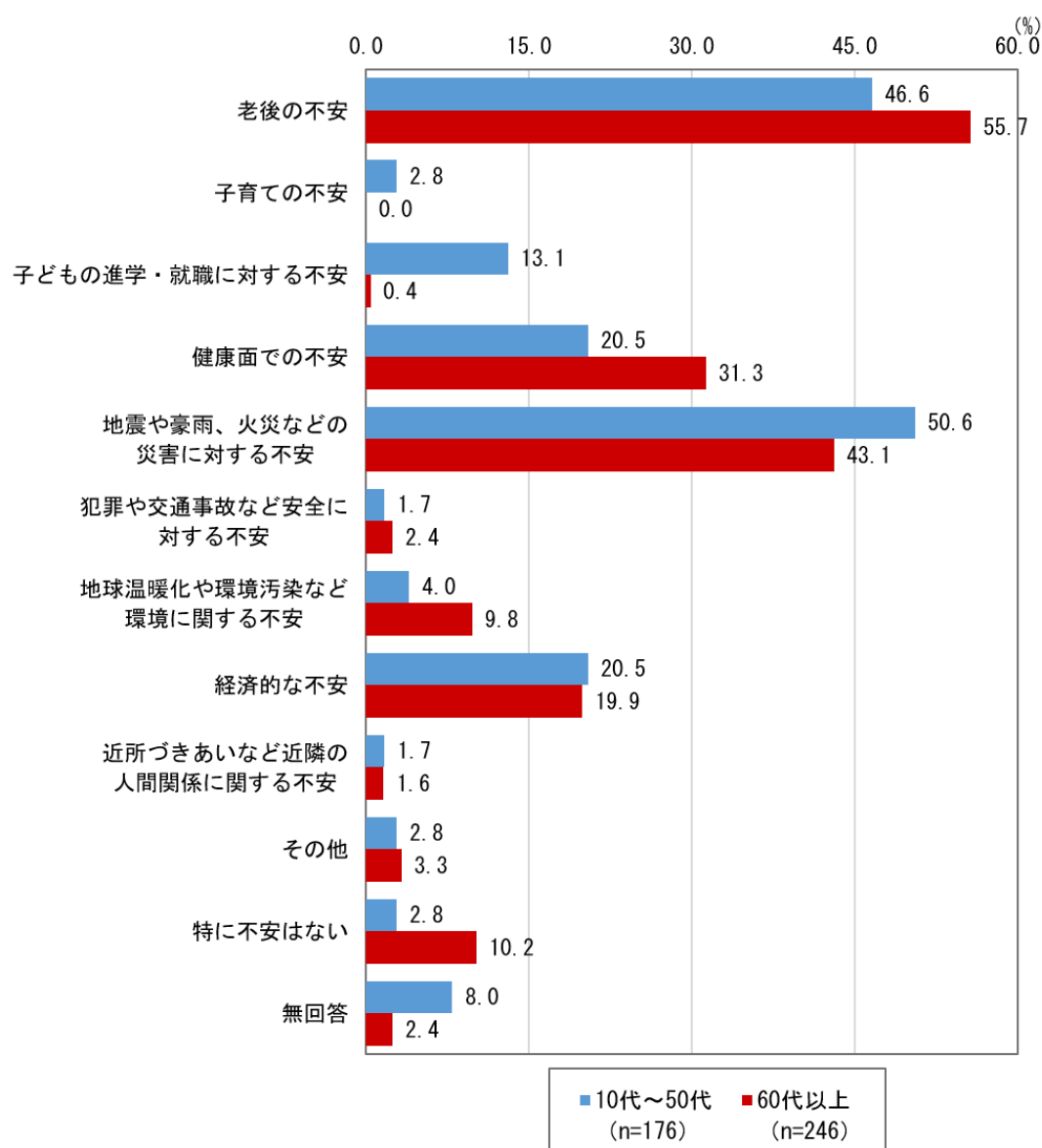
「その他」の回答 (抜粋)
地区の急激な過疎化による町内会などの機能低下。
国難
空き家が多い
市の財政
医者がいない
スーパーなど店舗数
ゴミ処理施設と、尾鷲の生活用水への不安。ものすごく不透明な議論しかしてないのに、あとすこしで稼働するかと

問 11×年代

現在不安に感じていることを年代別に見ると、「10代～50代」では、「地震や豪雨、火災などの災害に対する不安」50.6%と最も高く、次に、「老後の不安」46.6%、「健康面での不安」と「経済的な不安」が20.5%で同じ割合となっています。「60代以上」では、「老後の不安」55.7%、「地震や豪雨、火災などの災害に対する不安」43.1%、「健康面での不安」31.3%、「経済的な不安」19.9%となっています。上位4つの選択肢については、順位の変動はあるものの共通しています。

「10代～50代」では、「60代以上」と比べ、「子どもの進学・就職に対する不安」や「子育ての不安」が高くなっています。

過去2か年の調査結果でも、同じ傾向となっています。

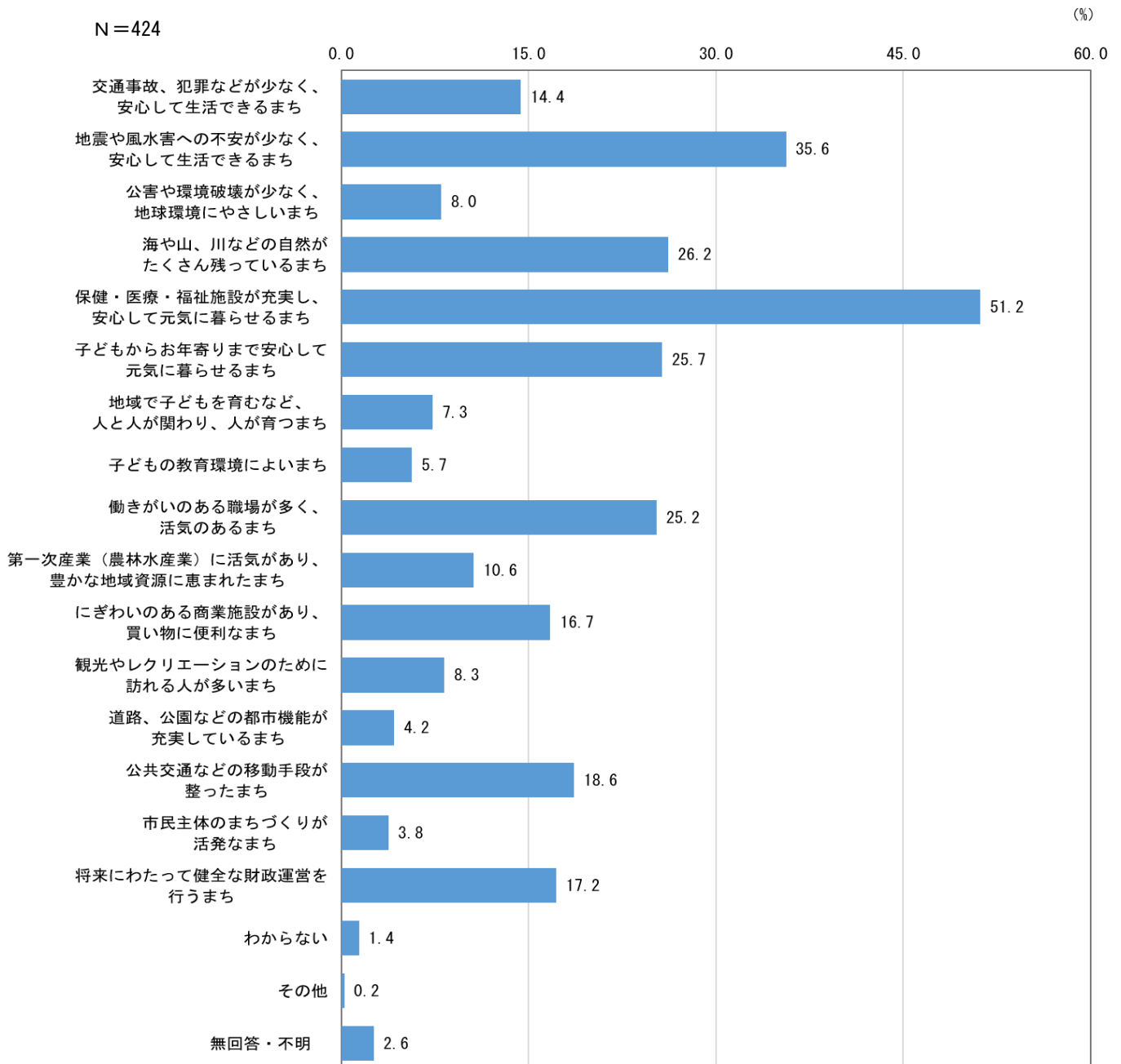


※複数回答があったため、合計が100%を超えています。

3 これからのまちづくりについて

問 12 あなたは、尾鷲市が将来どのようなイメージのまちになってほしいと思いますか。
(複数回答)

「保健・医療・福祉施設が充実し、安心して元気に暮らせるまち」が 51.2%と最も高く、次に、「地震や風水害への不安が少なく、安心して生活できるまち」が 35.6%、「海や山、川などの自然がたくさん残っているまち」が 26.2%、「子どもからお年寄りまで安心して元気に暮らせるまち」25.7%、「働きがいのある職場が多く、活気のあるまち」25.2%となっています。

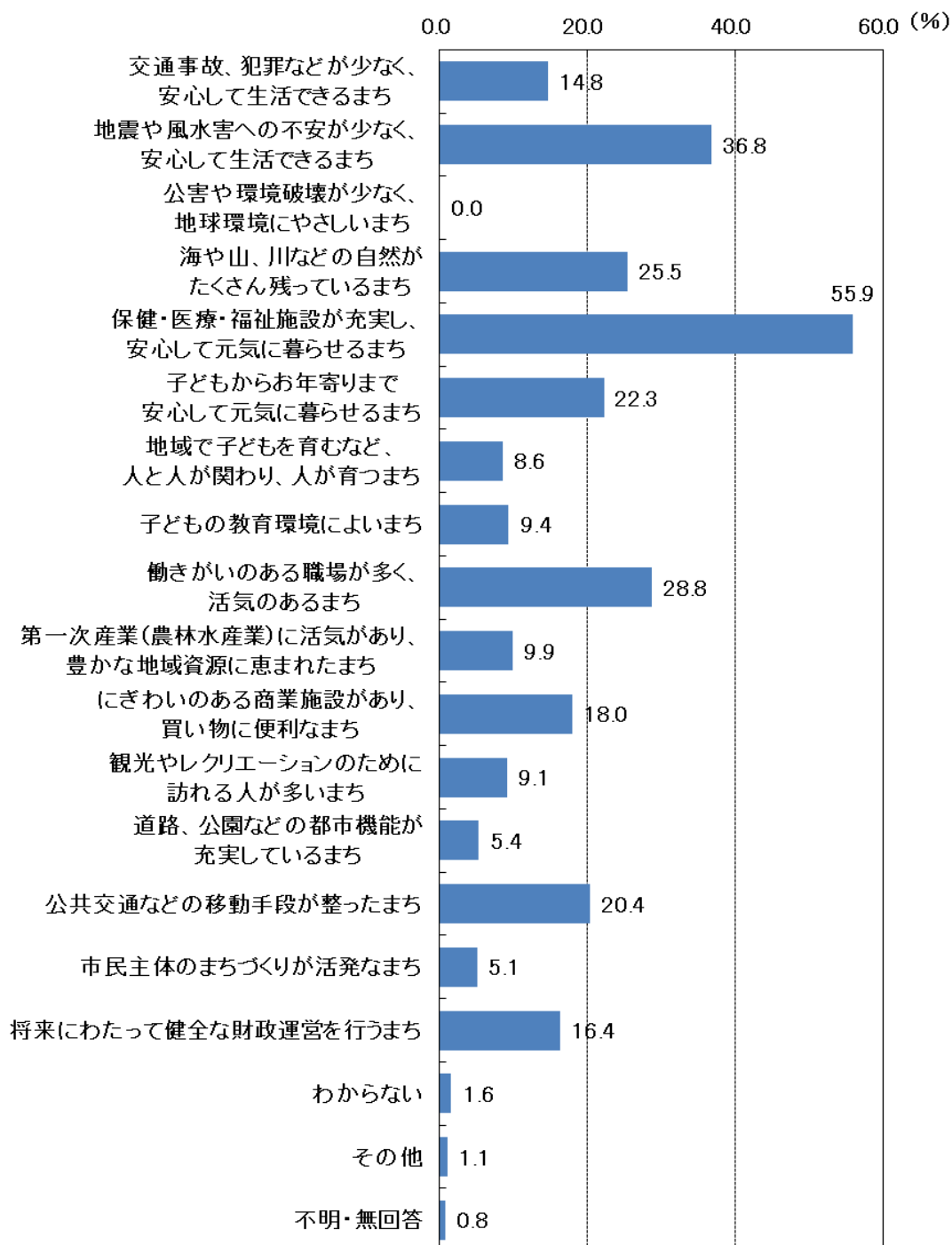


※複数回答があったため、合計が 100%を超えています。

「その他」の回答（抜粋）
もっと海とか山、を大切に考えてくれる人が沢山住んでいて、そんな方たちが働いているまち。
市民病院が5億の赤字で将来不安。環境改善、県内ワーストワンではいけない。

過去2か年の調査結果でも、上位の選択肢について順位の変動はあるものの、おおむね傾向は変わりません。

<参考> 令和6年度 市民アンケート 第12問



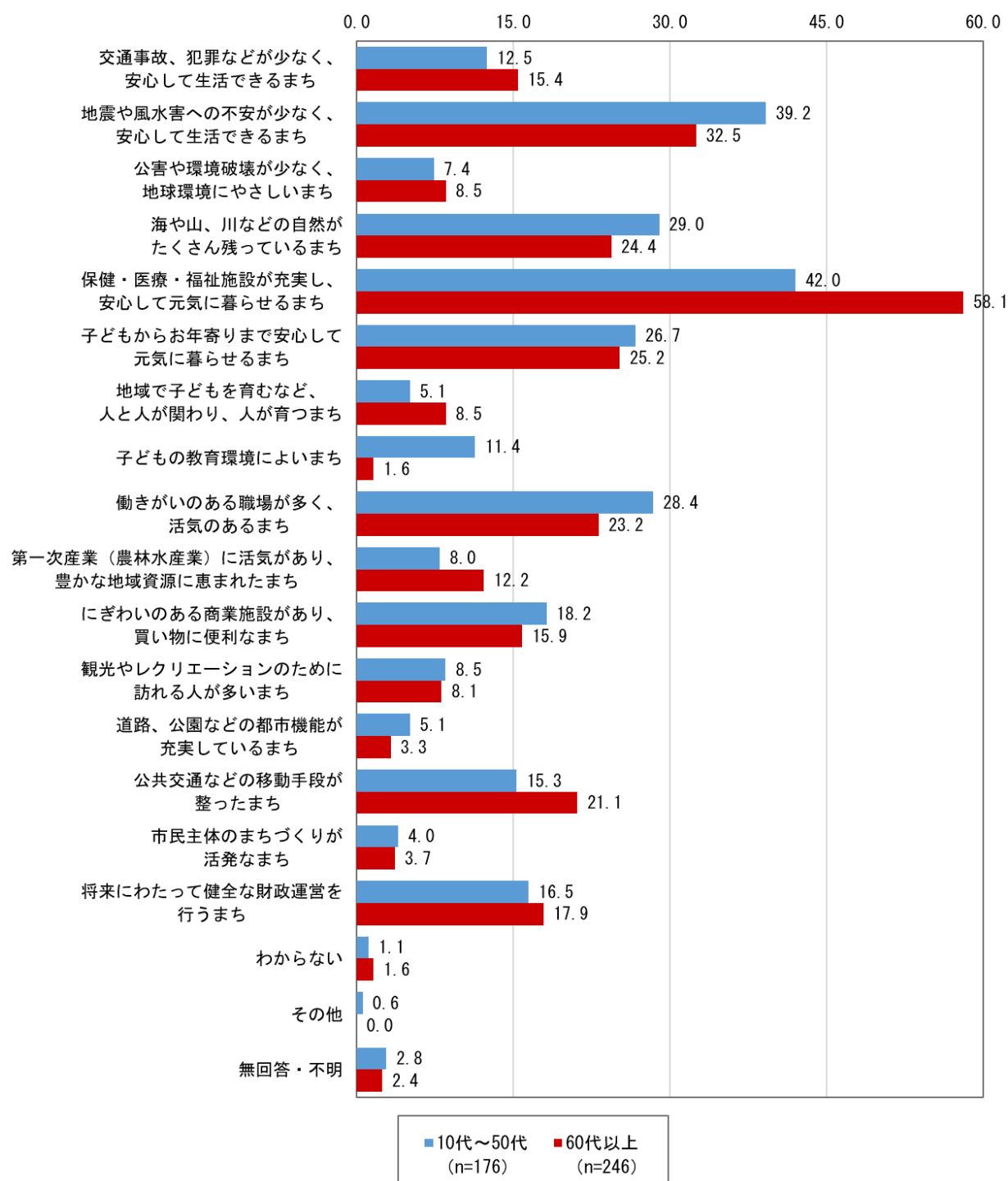
※複数回答があったため、合計が100%を超えています。

問 12×年代

尾鷲市の将来イメージで希望するものを年代別に見ると、「10代～50代」では、「保健・医療・福祉施設が充実し、安心して元気に暮らせるまち」が 42.0%と最も高く、次に、「地震や風水害への不安が少なく、安心して生活できるまち」39.2%となっています。「60代以上」では、「保健・医療・福祉施設が充実し、安心して元気に暮らせるまち」が 58.1%と最も高く、次に、「地震や風水害への不安が少なく、安心して生活できるまち」32.5%、となっています。

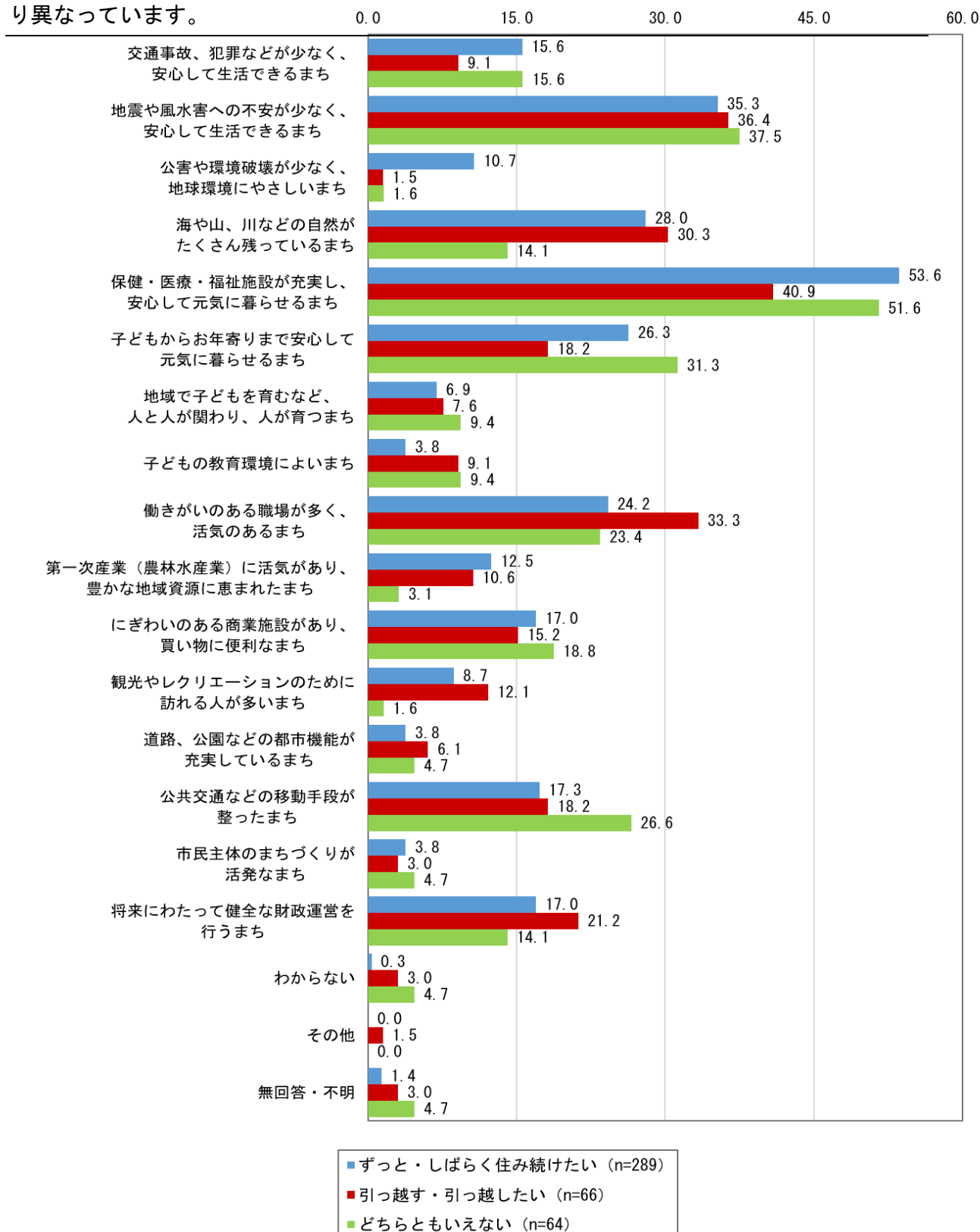
上位2つの選択肢については、割合は変わりますが共通しています。

(%)



問 12×定住意向

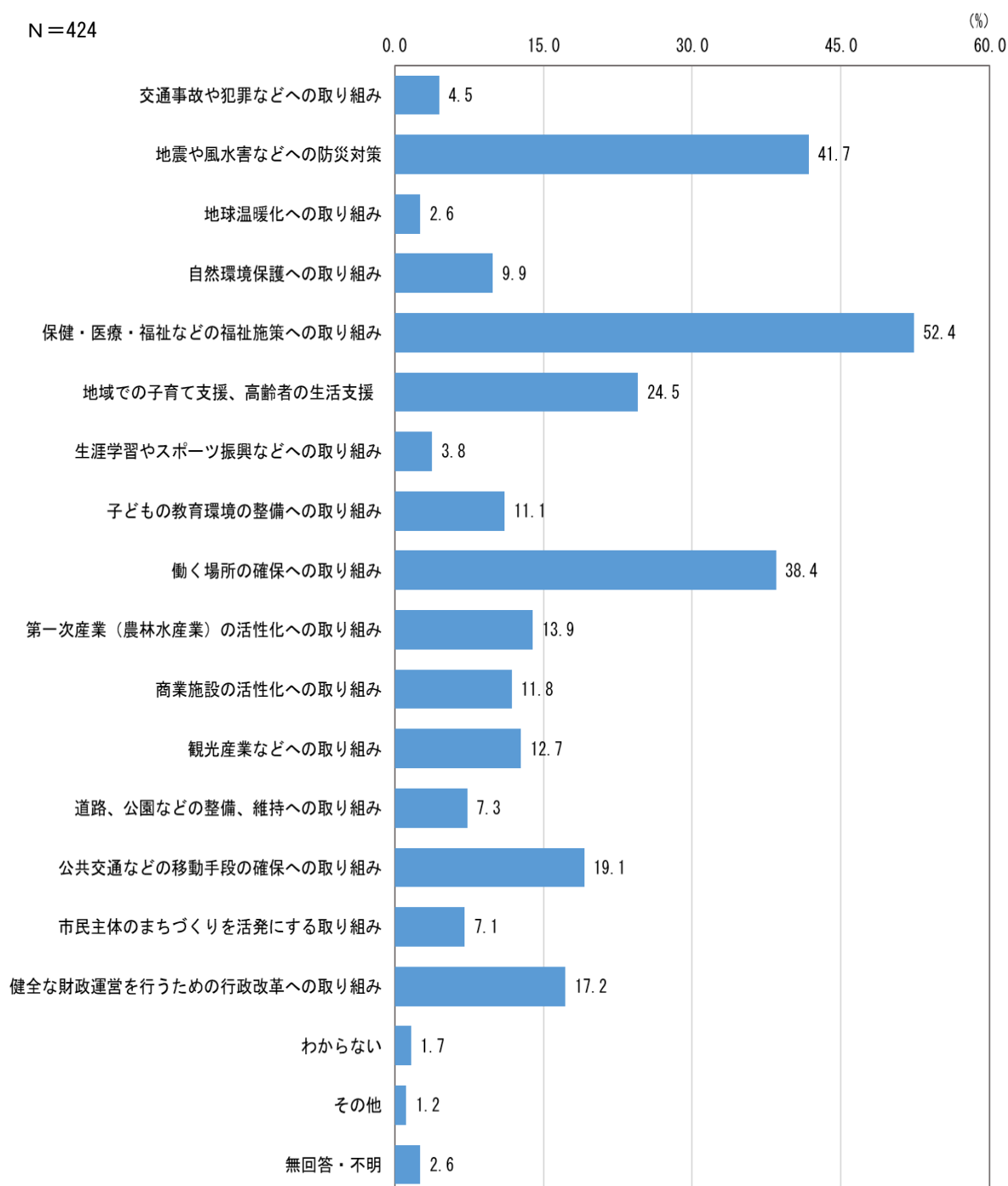
尾鷲市の将来イメージで希望するものを定住意向別に見ると、全ての意向で「保健・医療・福祉施設が充実し、安心して元気に暮らせるまち」が最も高く、次に、「地震や風水害への不安が少なく、安心して生活できるまち」となっています。その他の項目では、定住意向により異なっています。



問 13 あなたは、尾鷲市がこれからまちづくりを進めるうえで、市が積極的に進めるべき取り組みは何であるとお考えですか。（複数回答）

これからのまちづくりで尾鷲市が進めるべき取り組みとして、「保健・医療・福祉などの福祉施策への取り組み」が52.4%と最も高く、次に、「地震や風水害などへの防災対策」が41.7%、「働く場所の確保への取り組み」が38.4%の順となっています。

過去2か年の調査結果でも、「保健・医療・福祉などの福祉施策への取り組み」が前回(53.2%)、前々回(55.6%)、「地震や風水害などへの防災対策」が前回(42.7%)、前々回(38.8%)、「働く場所の確保への取り組み」が前回(39.5%)、前々回(38.8%)で、ほぼ同じ結果となっています。



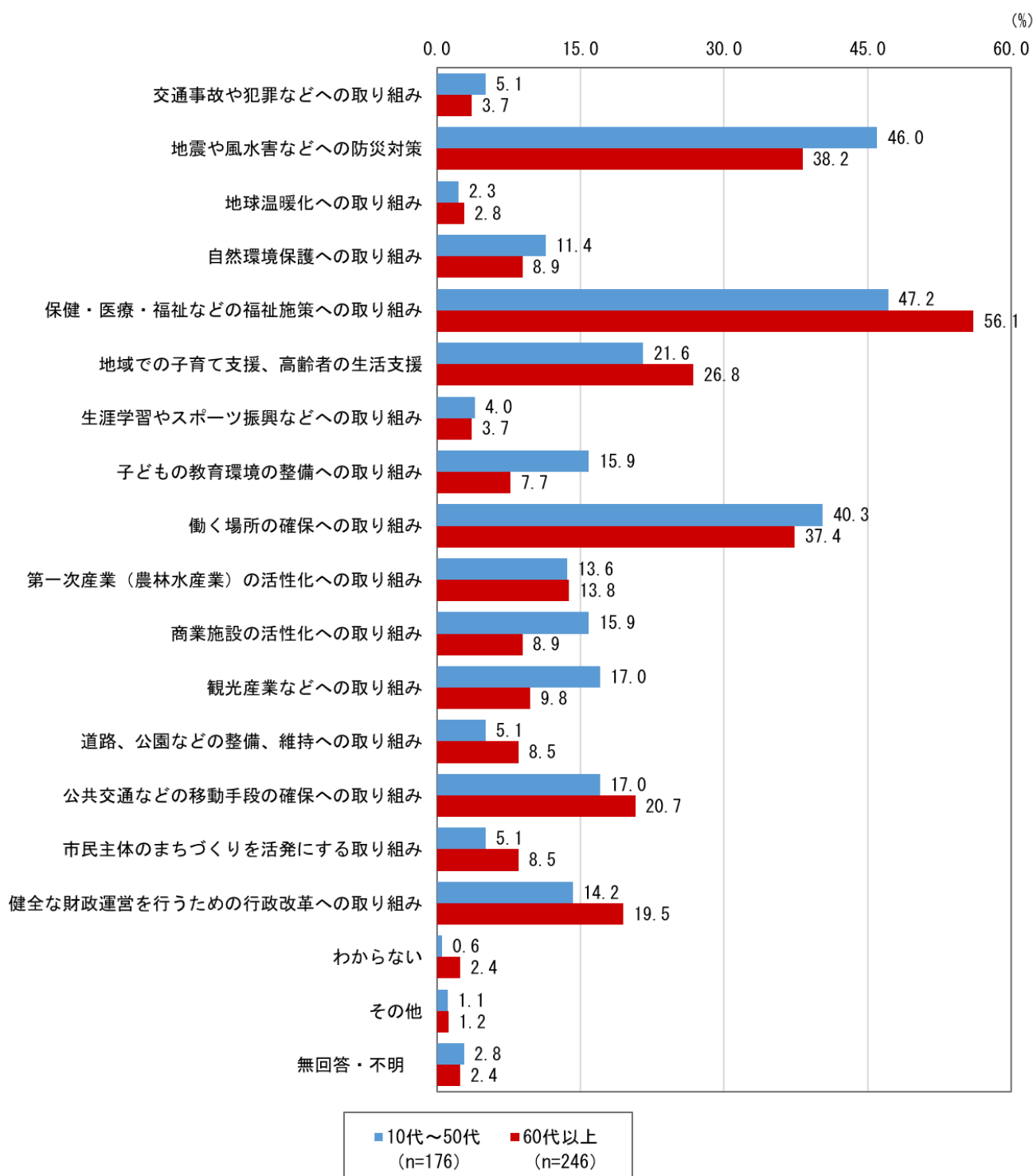
※複数回答があったため、合計が 100%を超えています。

「その他」の回答（抜粋）
人口を増やし、経済力をあげる。
まず交流人口を増やし、尾鷲にお金を落としてもらい、税収を上げる それから上記取組みを進めるイメージ。
何十年後の尾鷲の海、山、川を今よりもっと良い状態で、この先の子供たちに残す、託す取り組み。思うと、市民を人間と思ってくれてるのか。人間にとって水と、山、海はすごく大切だと思う。
議員さんも市民の要望を聞くだけでなく自分の目で市各地をまわりいろんな事を知ってほしいです。
尾鷲市は今一生懸命やってくれてると思います。

問 13×年代

これからのまちづくりで尾鷲市が進めるべき取り組みを年代別に見ると、全年代で「保健・医療・福祉などの福祉施策への取り組み」が最も高く、次に、「地震や風水害などへの防災対策」、「働く場所の確保への取り組み」の順となっています。

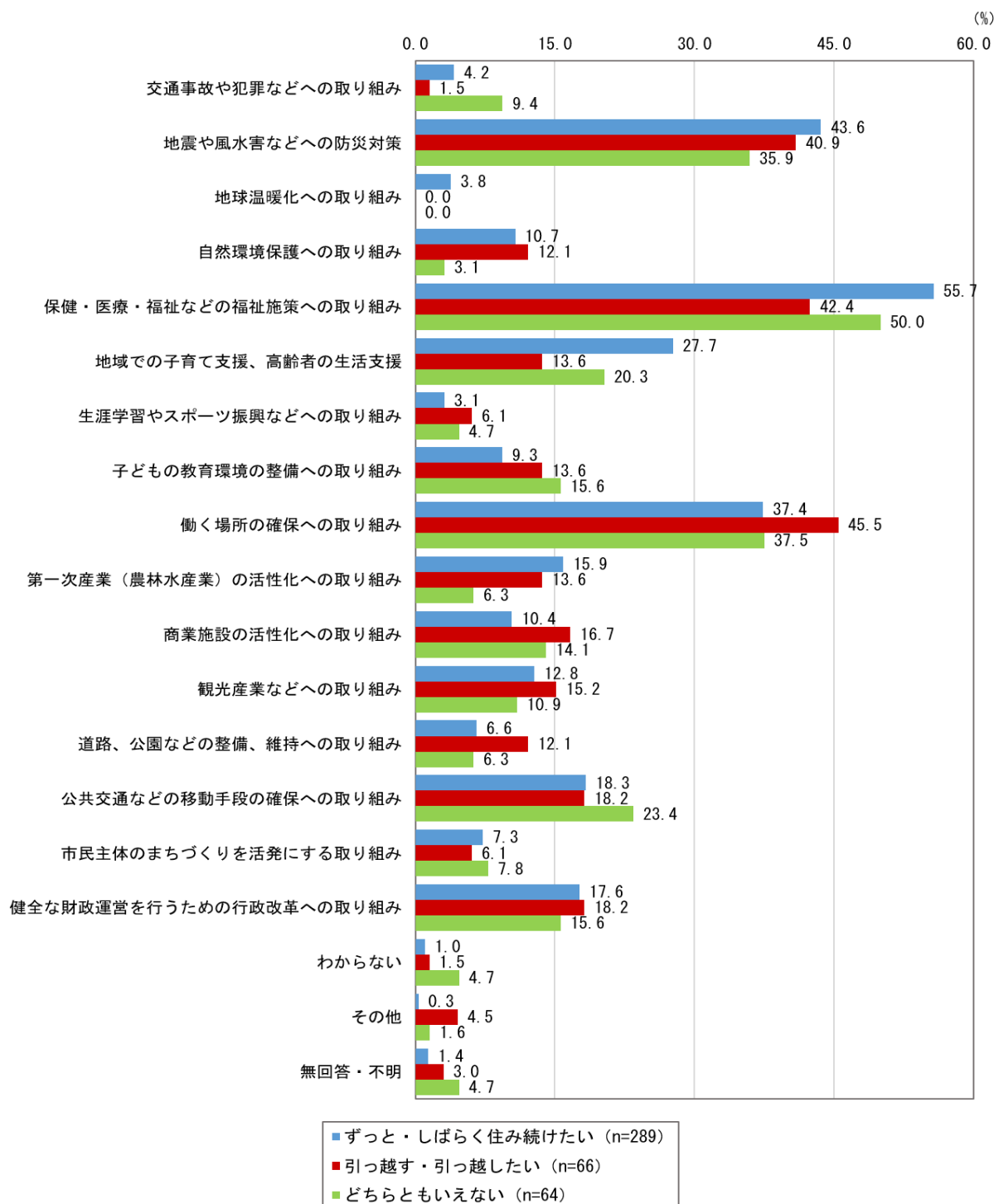
過去2か年の調査結果でも、上位3つの選択肢については、順位の変動はあるものの、同じ結果となっています。



問 13×定住意向

これからのまちづくりで尾鷲市が進めるべき取り組みを定住意向別に見ると、上位の選択肢については、順位の変動があるものの、同じとなっています。「ずっと・しばらく住み続けたい」と答えた人では、「保健・医療・福祉などの福祉施策への取り組み」が 55.7%と最も高く、「引っ越す・引っ越したい」と答えた人では、「働く場所の確保への取り組み」が 45.5%と最も高くなっています。

過去2か年の調査結果でも、全定住意向で「保健・医療・福祉などの福祉施策への取り組み」の割合が最も高くなっています。

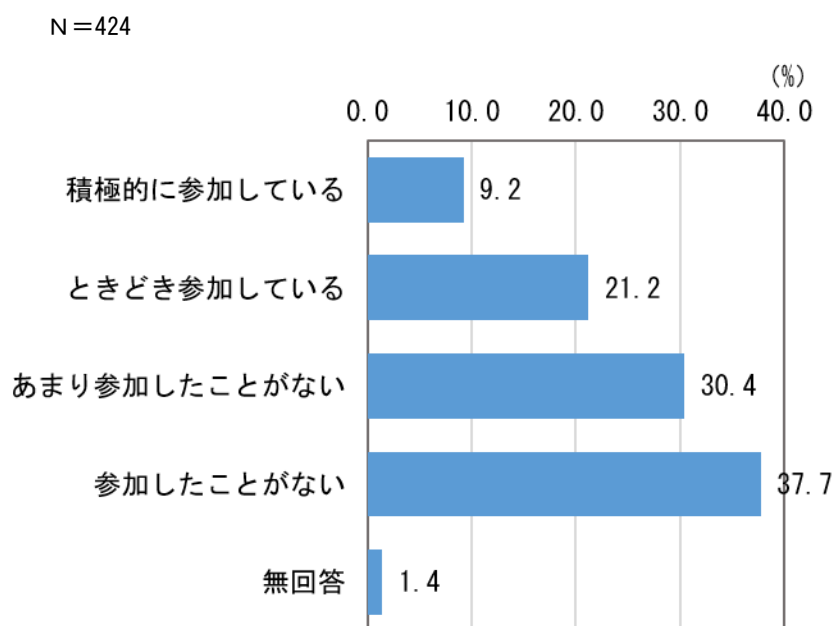


問 14 あなたは、地区の行事やボランティアなどの活動に参加したことがありますか。

地区の行事やボランティアなどの活動への参加状況として、「積極的に参加している」が9.2%、「ときどき参加している」が21.2%となっており、両者の合計では、30.4%となっています。

過去2か年の調査結果でも、「参加している」の割合が、前回(32.8%)、前々回(32.1%)となっており、ほぼ同じ傾向となっています。

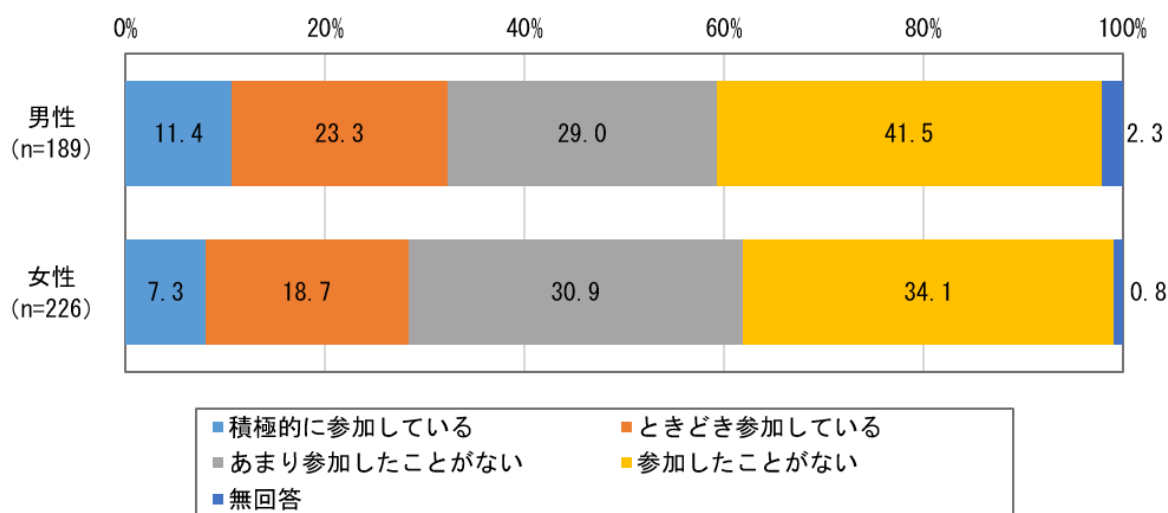
そのうち、「積極的に参加している」の割合は、前回(7.8%)、前々回(7.8%)であり、今回の調査では9.2%となっていますので、若干増加しています。



問 14×性別

地区の行事やボランティアなどの活動への参加状況を性別で見ると、「積極的に参加している」と「ときどき参加している」の合計は、「男性」の方が高くなっています。

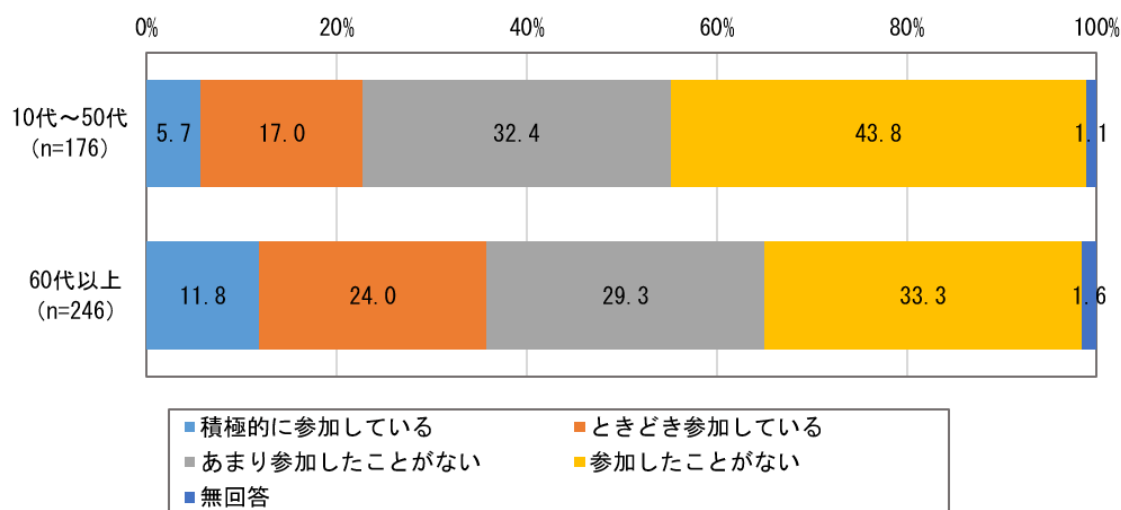
過去2か年の調査結果でも、「参加している」の割合は、前回は男性(39.9%)、女性(27%)、前々回は男性(32.9%)、女性(31.4%)となっており、男性の割合が高くなっています。



問 14×年代

地区の行事やボランティアなどの活動への参加状況を年代別に見ると、「積極的に参加している」と「ときどき参加している」の合計が、「10代～50代」では22.7%であるのに対し、「60代以上」では35.8%となっています。

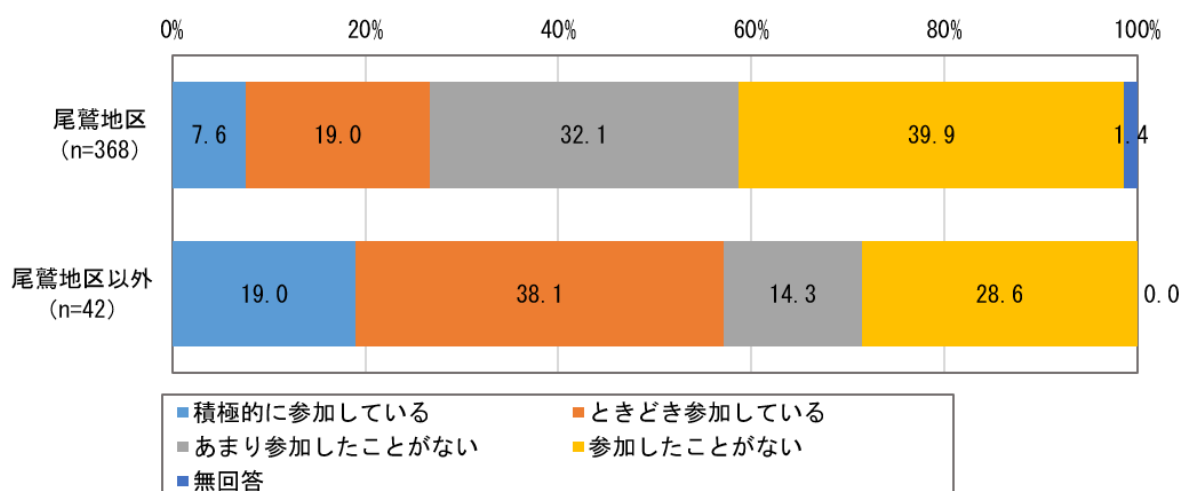
過去2か年の調査結果でも、「参加している」の割合は、「10代～50代」で前回(24.3%)、前々回(26.6%)、「60代以上」で前回(38.1%)、前々回(36.3%)とほぼ同じ結果となっています。



問 14×居住地区

地区の行事やボランティアなどの活動への参加状況を地区別に見ると、「積極的に参加している」と「ときどき参加している」の合計が、「尾鷲地区」では26.6%、「尾鷲地区以外」では57.1%となっています。

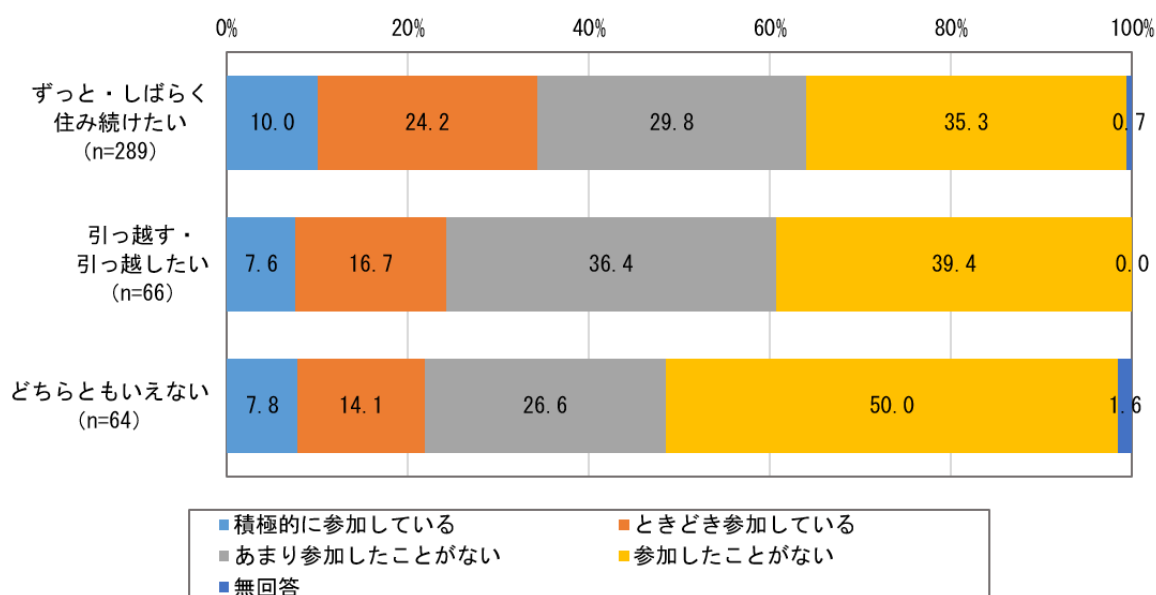
過去2か年の調査結果でも、「参加している」の割合は、「尾鷲地区」で前回(29.1%)、前々回(28.8%)、「尾鷲地区以外」で前回(51.6%)、前々回(56.8%)と同じ結果となっています。



問 14×定住意向

地区の行事やボランティアなどの活動への参加状況を定住意向別に見ると、「引っ越す・引っ越したい」と答えた方に対し、「ずっと・しばらく住み続けたい」と答えた方の「積極的に参加している」と「ときどき参加している」の両者の合計が高くなっています。

過去2か年の調査結果でも、「ずっと・しばらく住み続けたい」と答えた方の「参加している」の割合は、前回(36%)、前々回(36.1%)であり、ほぼ同じ結果となっています。

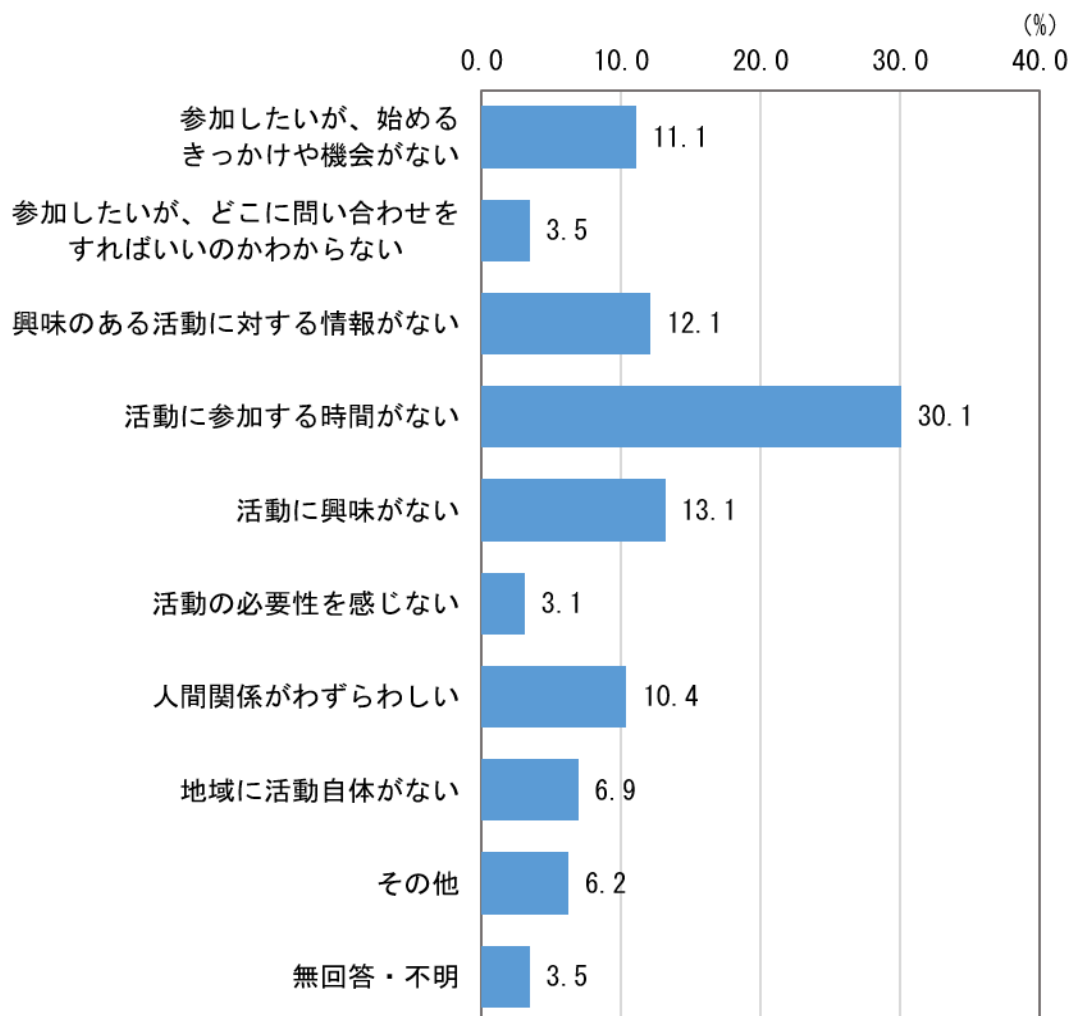


問 15 【問 14 で「あまり参加したことがない」または「参加したことがない」とお答えになった方におうかがいします。】「あまり参加したことがない」「参加したことがない」と回答された理由は何ですか。

地区の行事やボランティアなどの活動に参加したことがない理由として、「活動に参加する時間がない」が 30.1%と最も高く、次に、「活動に興味がない」が 13.1%、「興味のある活動に対する情報がない」が 12.1%、「参加したいが、始めるきっかけや機会がない」が 11.1%の順となっています。

過去 2 か年の調査結果でも、同じ結果となっています。

N=289



「その他」の回答（抜粋）

私はボランティアが嫌いです。少しでも有償にすべきです。

仕事をしているから。

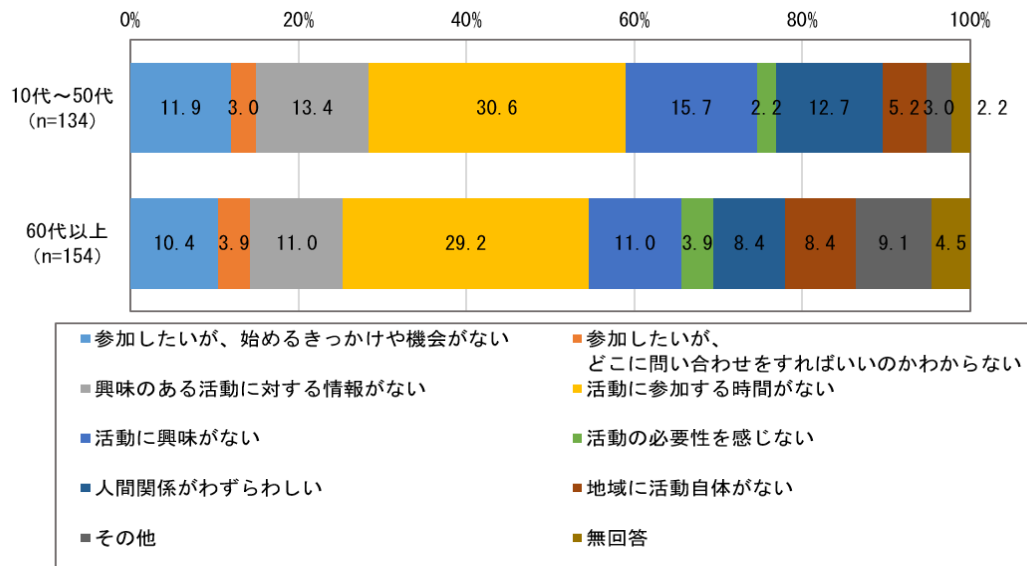
参加したいけど体力がつかれてます。

自分のできる人間関係の中でできることを少しずつしていく。(公協のボランティアにはなっていないかも)

問 15×年代

地区の行事やボランティアなどの活動に参加したことがない理由を年代別に見ると、全年代で「活動に参加する時間がない」の割合が最も高く、「10代～50代」では「活動に興味がない」が、「60代以上」では「活動に興味がない」と「興味のある活動に対する情報がない」が同じ割合となっています。

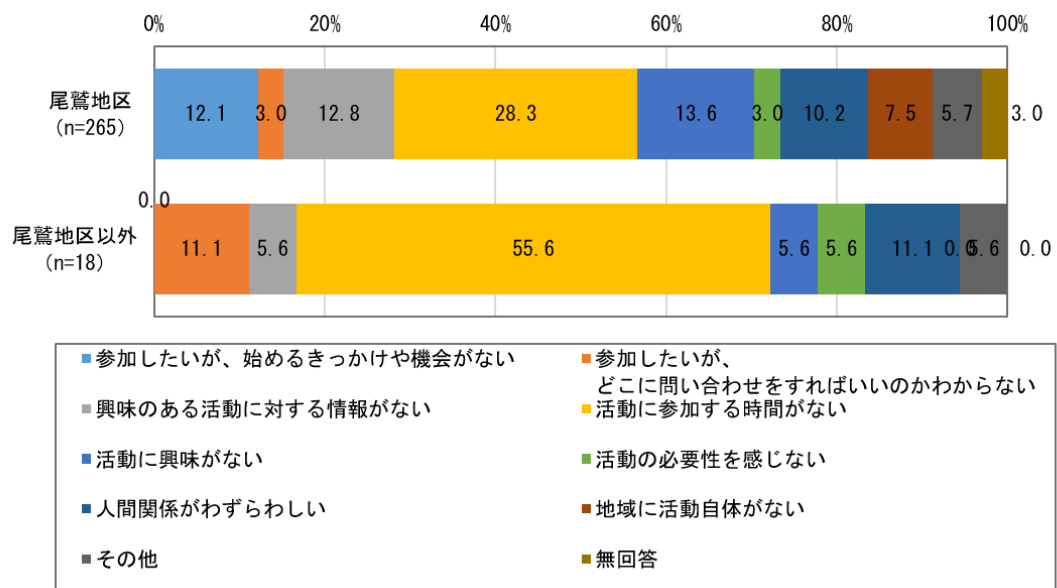
過去2か年の調査結果でも、同じ結果となっています。



問 15×居住地区

地区の行事やボランティアなどの活動に参加したことがない理由を地区別に見ると、「尾鷲地区」と「尾鷲地区以外」のいずれでも「活動に参加する時間がない」の割合が最も高くなっています。次いで「尾鷲地区」は、「活動に興味がない」、「尾鷲地区以外」は、「人間関係がわずらわしい」の順となっています。

上位の選択肢については、前回とほぼ同じ結果となっています。

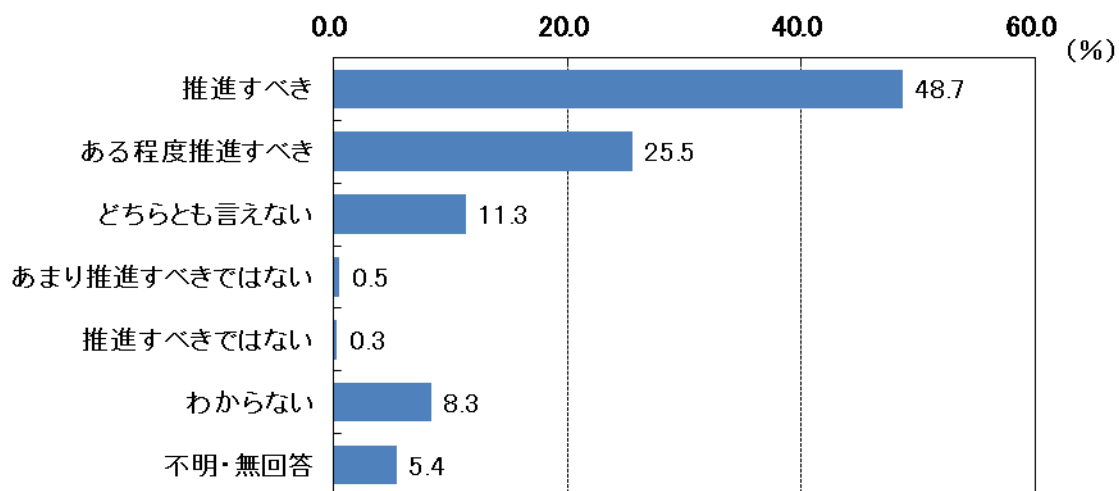


問 16 尾鷲市ではこれから、市役所を含む市民みんなで地域の課題を解決するために、目標を共有して、その目標達成のために取り組むことを進めたいと考えています。このことについてあなたはどのように考えますか。

市民みんなで目標達成のために取り組むことについて、「推進すべき」が48.7%、「ある程度推進すべき」が25.5%となっており、両者の合計では、74.2%となっています。

過去2か年の調査結果でも、「推進すべき」が、前回(74.2%)、前々回(76.4%)となっており、ほぼ同じ結果となっています。

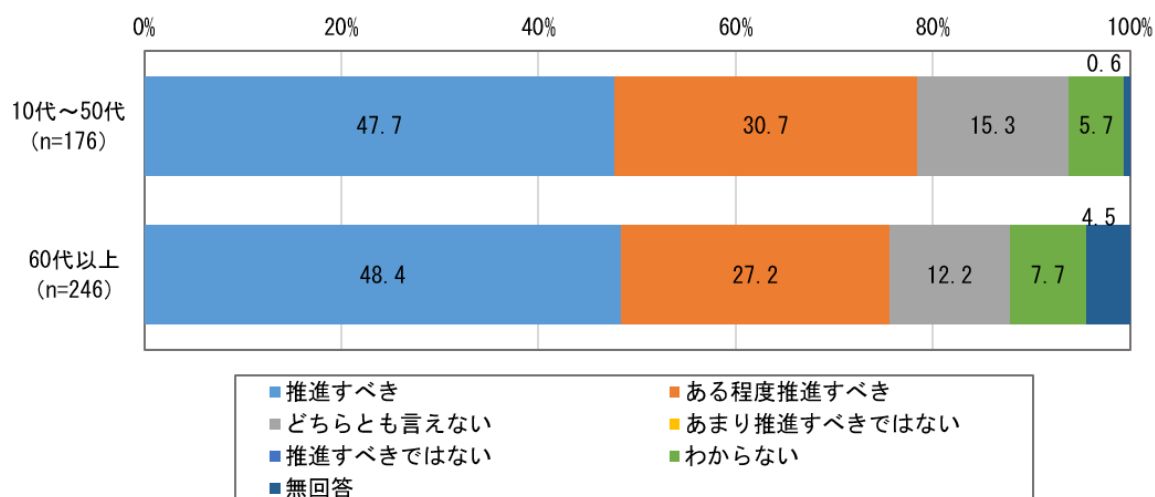
N=424



問 16×年代

市民みんなで目標達成のために取り組むことについて年代別に見ると、「推進すべき」と「ある程度推進すべき」と答えた方は、「10代～50代」で78.4%、「60代以上」で75.6%となっています。

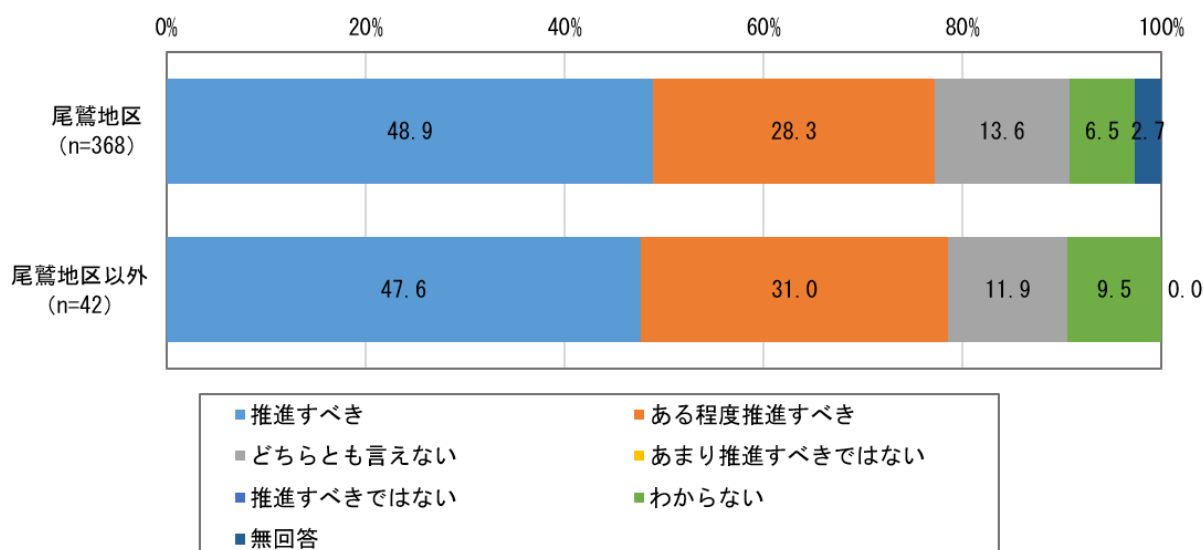
過去2か年の調査結果でも、「推進すべき」が、「10代～50代」で、前回(77.1%)、前々回(75.8%)、「60代以上」で、前回(72.1%)、前々回(77%)となっており、「10代～50代」の割合が高くなっています。



問 16×居住地区

市民みんなで目標達成のために取り組むことについて地区別に見ると、「推進すべき」と「ある程度推進すべき」の両者の合計は、「尾鷲地区」で77.2%、「尾鷲地区以外」で78.6%であり、「尾鷲地区以外」の方が若干高くなっています。

過去2か年の調査結果でも、「推進すべき」が、「尾鷲地区」で前回(73.6%)、前々回(76.3%)、「尾鷲地区以外」で前回(77.5%)、前々回(77.3%)となっており、僅かながら「尾鷲地区以外」の方が高くなっています。

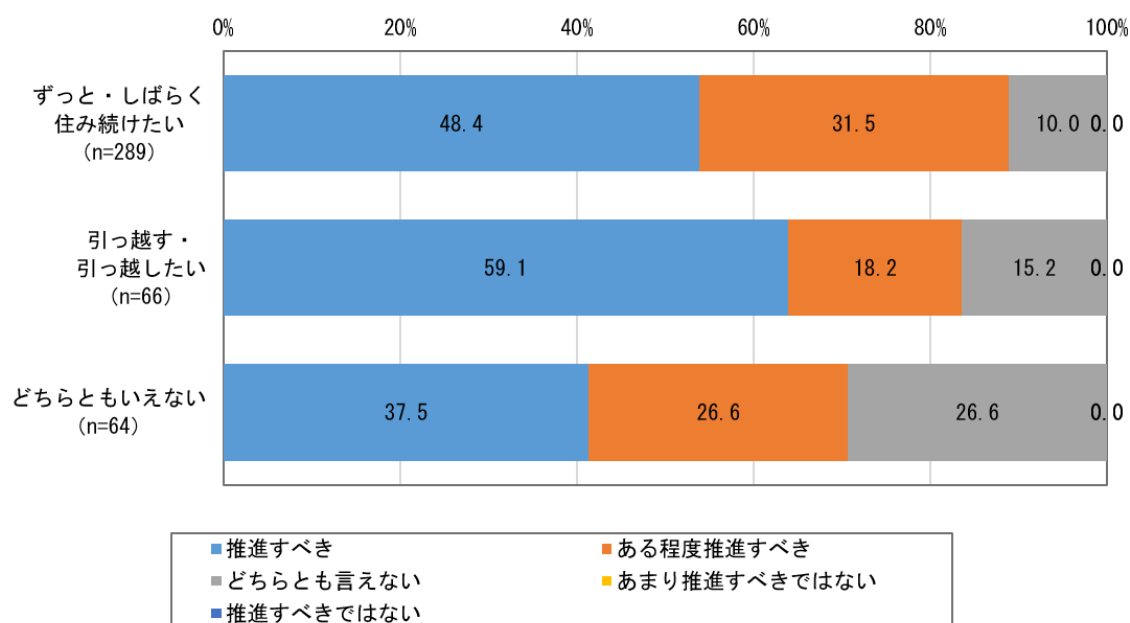


問 16×定住意向

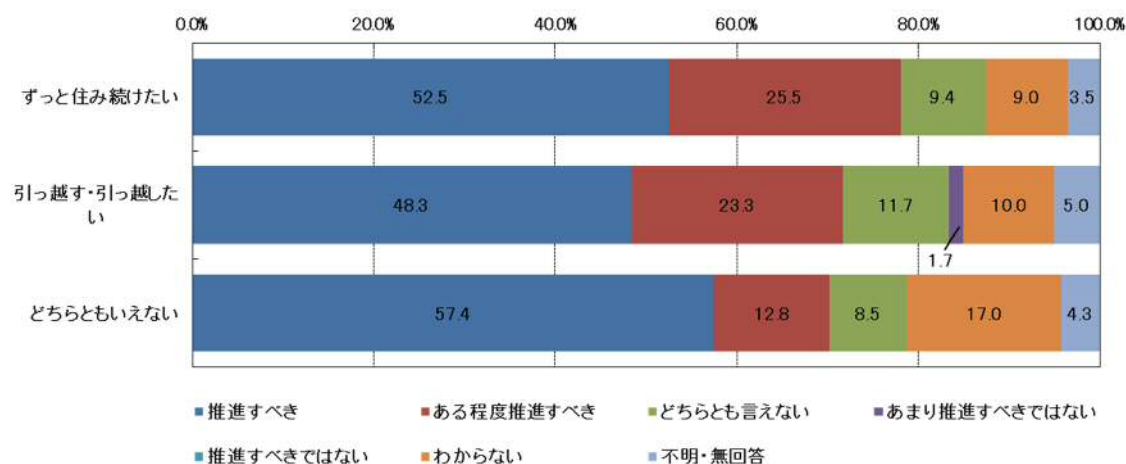
市民みんなで目標達成のために取り組むことについて定住意向別に見ると、「ずっと・しばらく住み続けたい」と答えた人では「推進すべき」が 48.4%、「引っ越す・引っ越したい」と答えた人では、「推進すべき」が 59.1%となっています。転居意向のある人では、目標達成のために取り組むことに積極的な考えを持っていることが分かります。

また、「推進すべき」と「ある程度推進すべき」の両者を合計では、「ずっと・しばらく住み続けたい」と答えた人の方が高くなっています。

過去2か年の調査結果でも、「ずっと住み続けたい」、「引っ越す・引っ越したい」といずれの答えをした方においても「推進すべき」の割合が高くなっています。



<参考> 前々回

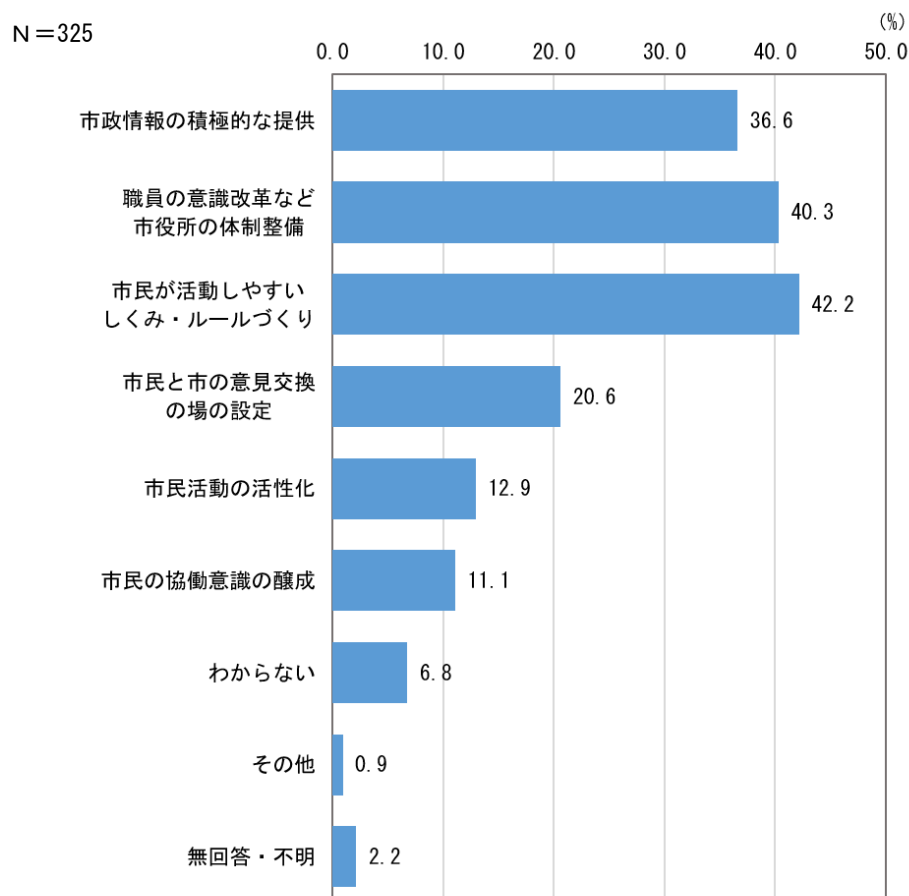


問 17 【問 16 で「推進すべき」または「ある程度推進すべき」とお答えになった方におうかがいします。】市民との協働のまちづくりを進めるうえで、あなたは、市がどのようなことに取り組むべきだと思いますか。（複数回答）

市民との協働のまちづくりを進めるうえで市が取り組むべきこととして、「市民が活動しやすいしくみ・ルールづくり」が 42.2%で最も高く、次に、「職員の意識改革など市役所の体制整備」が 40.3%、「市政情報の積極的な提供」が 36.6%となっています。

過去 2 か年の調査結果では、「職員の意識改革など市役所の体制整備」で前回 (42.0%)、前々回 (46.2%) と最も高く、次に、「市民が活動しやすいしくみ・ルールづくり」で前回 (40.6%)、前々回 (37.3%)、「市政情報の積極的な提供」で前回 (37.0%)、前々回 (33.2%) となっています。

今回は、前回、前々回とは異なり、「市民が活動しやすいしくみ・ルールづくり」が最も高くなっています。



「その他」の回答（抜粋）

市長や病院、市役所内、議員だけでなく、(外部が難しい場合は市内の)有識者を募った話し合い。市内在住の、有能な資格や見識のある人材の積極的な活用を。

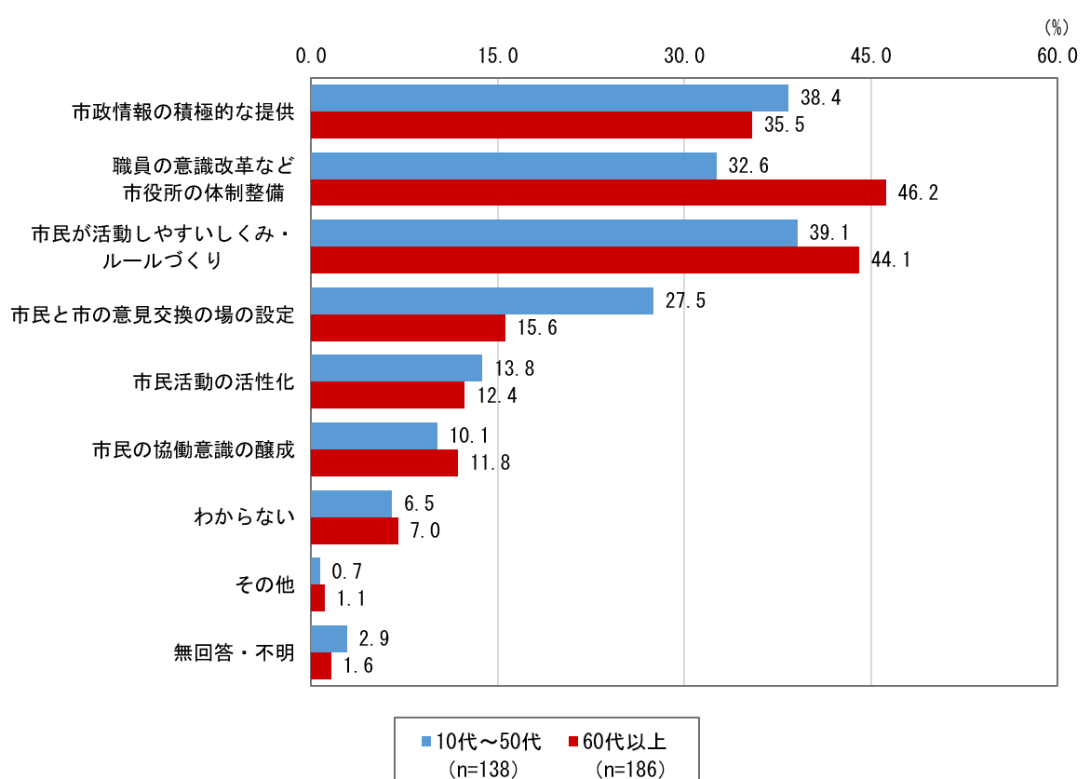
子ども達に尾鷲が大好きになるように自分が生まれ育った町を大切にしたいという思いを育む。

リーダーシップ・やる気

問 17×年代

市民との協働のまちづくりを進めるうえで市が取り組むべきことを年代別に見ると、「10代～50代」は、「市民が活動しやすいしくみ・ルールづくり」が39.1%と最も高く、次に、「市政情報の積極的な提供」が38.4%となっています。「60代以上」は、「職員の意識改革など市役所の体制整備」が46.2%と最も高く、「市民が活動しやすいしくみ・ルールづくり」が44.1%となっています。

過去2か年の調査結果と比較し、「60代以上」は上位の選択肢は変わっていませんが、「10代～50代」では、前々回において「職員の意識改革など市役所の体制整備」が(44.0%)で最も高く、今回と前回は、「市民が活動しやすいしくみ・ルールづくり」が最も高くなっています。



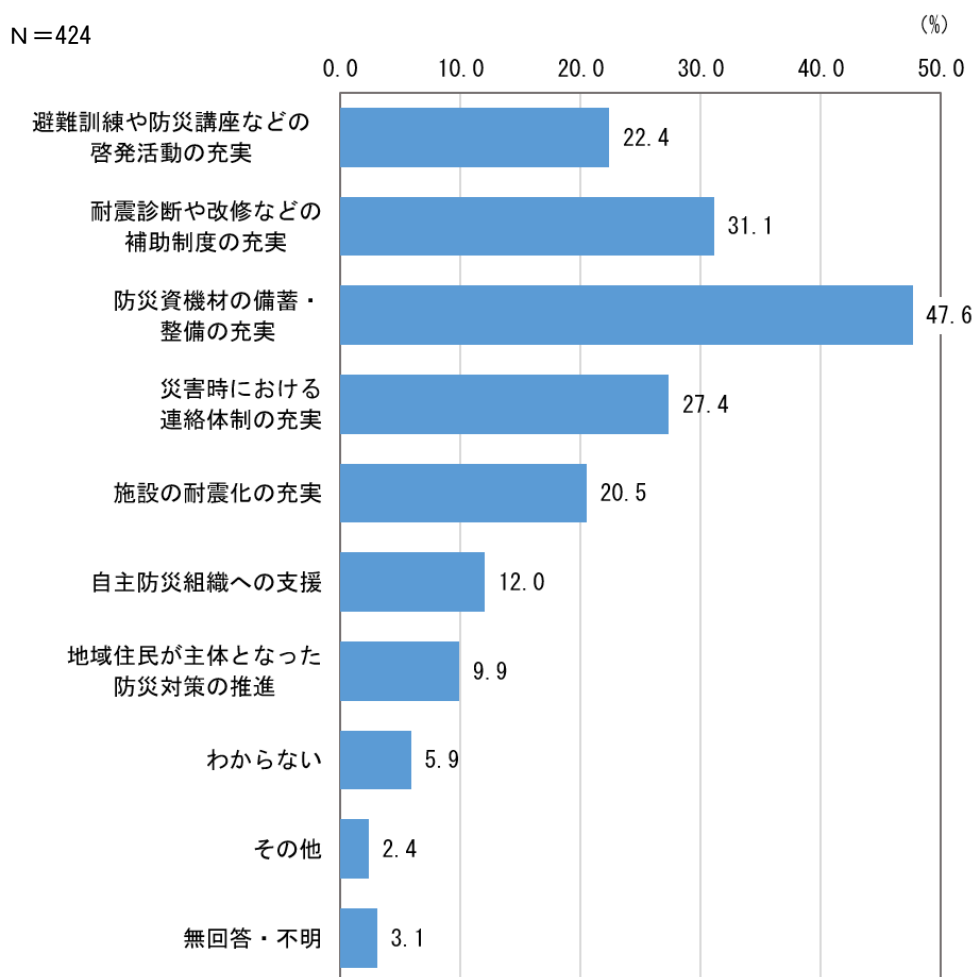
【安全】

問 18 あなたは、地震や台風など災害による被害を防ぐ取り組みとして、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。（複数回答）

地震や台風など災害による被害を防ぐ取り組みとして、「防災資機材の備蓄・整備の充実」が47.6%と最も高く、次に、「耐震診断や改修などの補助制度の充実」が31.1%、「災害時における連絡体制の充実」が27.4%となっています。

過去2か年の調査結果では、「防災資機材の備蓄・整備の充実」が前回(38.2%)、前々回(40.9%)、「耐震診断や改修などの補助制度の充実」が前回(28.8%)、前々回(33.4%)、「災害時における連絡体制の充実」が前回(29.0%)、前々回(25.9%)と「施設の耐震化の充実」と同じになっています。

今回の特徴として、「耐震診断や改修などの補助制度の充実」が増え、「災害時における連絡体制の充実」が減っています。



※複数回答があったため、合計が100%を超えています。

「その他」の回答（抜粋）

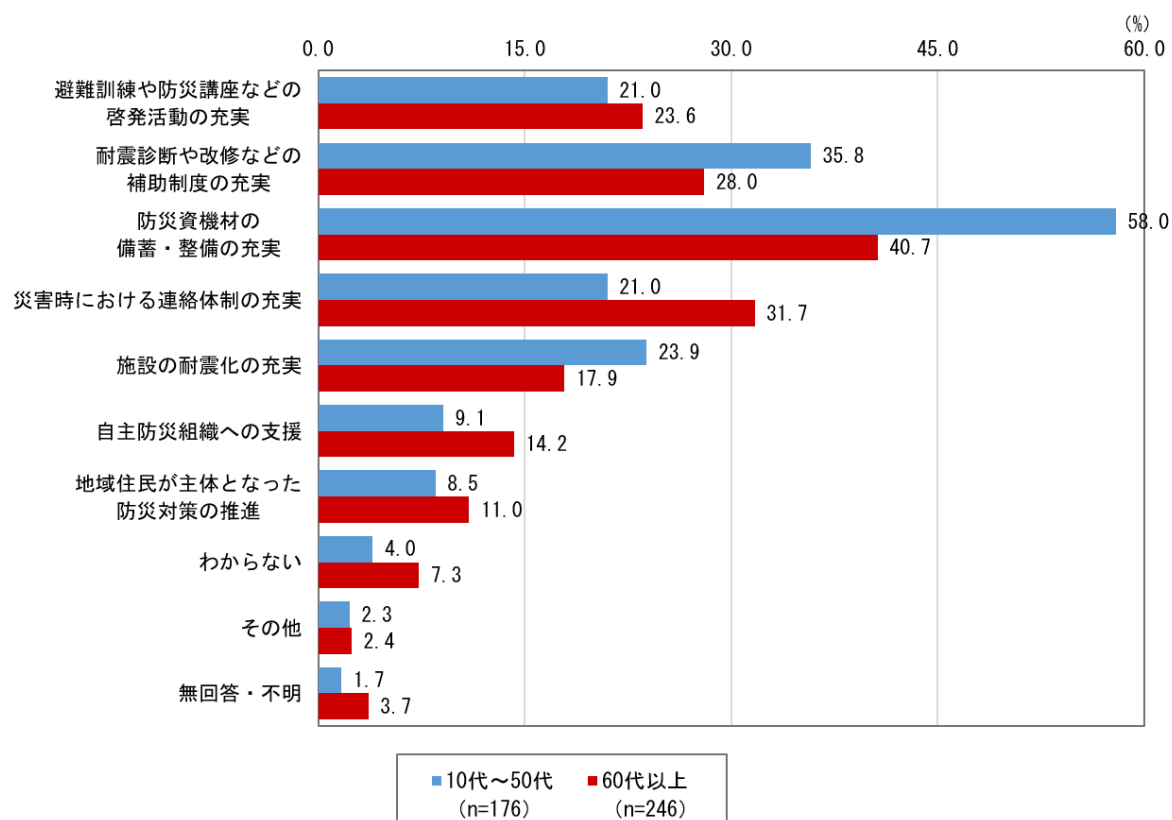
旧市内と呼ばれる地区に住む人が避難する場所が少ない遠い。高台まで時間がかかる。

避難路にブロック、あるいは瓦が落ちかけた空き家で困っています。

問 18×年代

災害による被害防止策を年代別に見ると、「10代～50代」で「防災資器材の備蓄・整備の充実」が58.0%と最も高く、次に、「耐震診断や改修などの補助制度の充実」が35.8%となっています。「60代以上」では、「防災資器材の備蓄・整備の充実」が40.7%と最も高く、次に、「災害時における連絡体制の充実」が31.7%となっています。

過去2か年の調査結果と比較をすると、全世代で順位の変動はありませんが、「10代～50代」では、「防災資器材の備蓄・整備の充実」を挙げた人が前回(40.3%)、前々回(45.5%)だったのに対して、今回58.0%と10ポイント以上大幅に高くなっています。

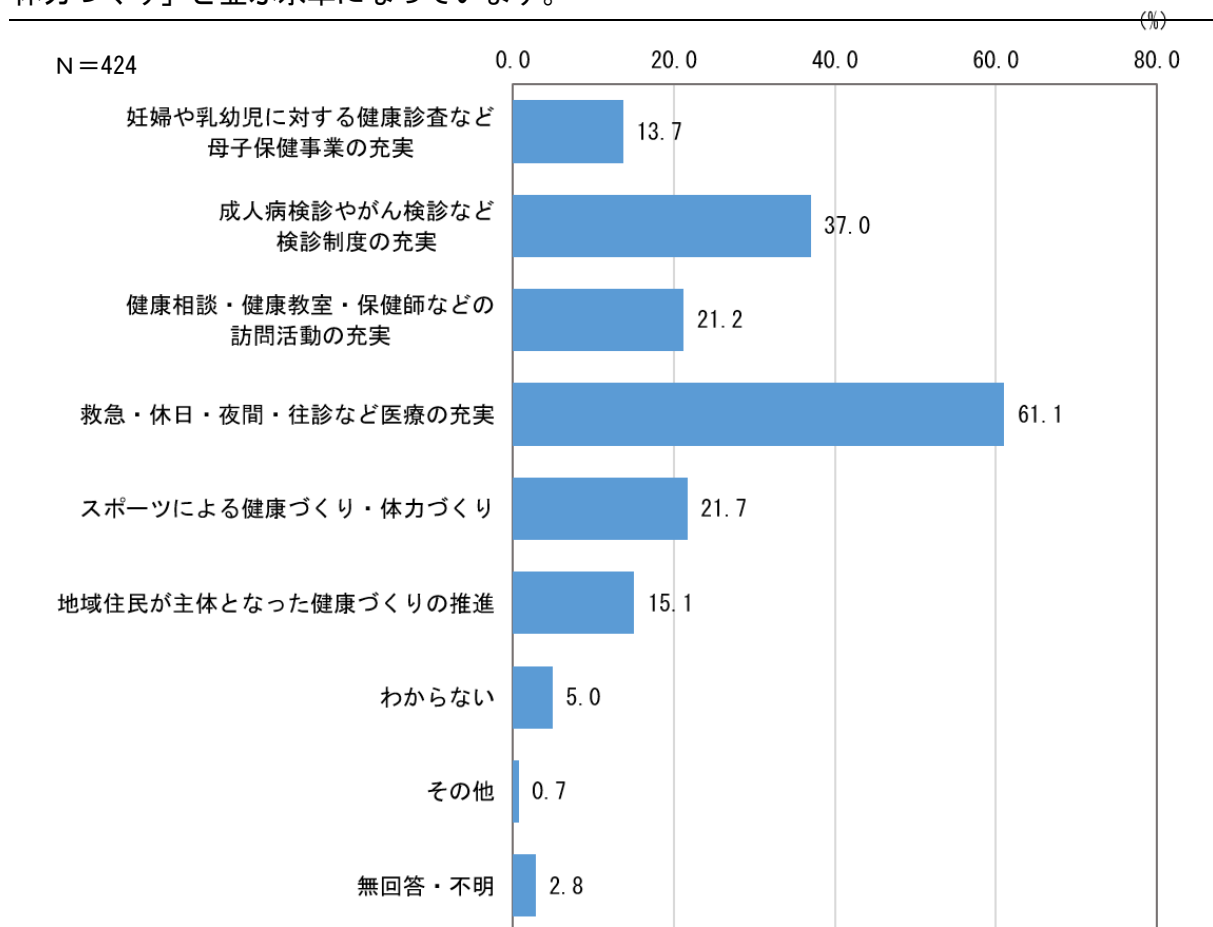


【健康づくり】

問 19 あなたは、健康づくりを充実させるためには、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。（複数回答）

健康づくりの充実策として、「救急・休日・夜間・往診など医療の充実」が 61.1%と最も高く、次に、「成人病検診やがん検診など検診制度の充実」が 37.0%、「スポーツによる健康づくり・体力づくり」が 21.7%、「健康相談・健康教室・保健師などの訪問活動の充実」21.2%となっています。

過去2か年の調査結果も同じような傾向となっていますが、「健康相談・健康教室・保健師などの訪問活動の充実」が前回(17.7%)より高くなっており、「スポーツによる健康づくり・体力づくり」と並ぶ水準になっています。



※複数回答があったため、合計が 100%を超えています。

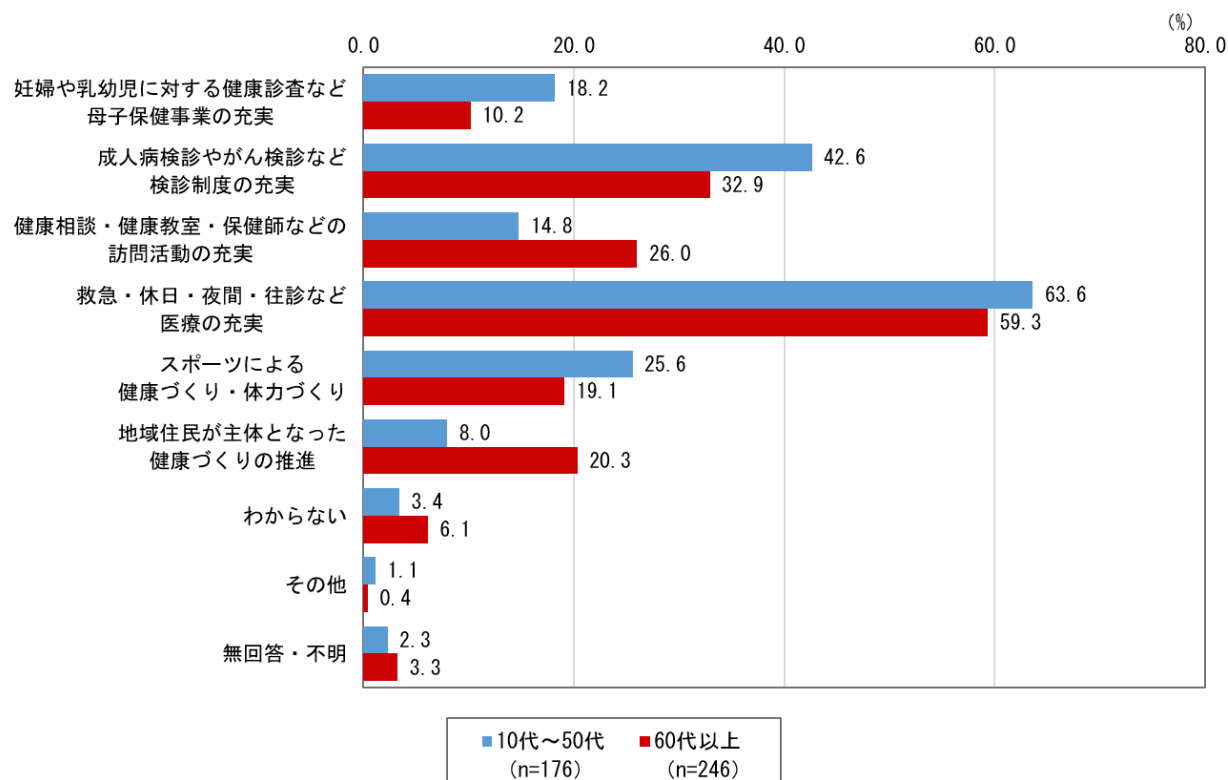
「その他」の回答（抜粋）
・保育園や学校の給食をケチらない。（今無償なのでありがたいです！）食べた物で体はできる！！ ・プールを造る！！
中電跡地に遊歩道とフィールドアスレチック
ジムやプールを作ろうよ。海山まで行くのがめんどうです。

問 19×年代

健康づくりの充実策を年代別に見ると、「10代～50代」では、「救急・休日・夜間・往診など医療の充実」が 63.6%と最も高く、次に、「成人病検診やがん検診など検診制度の充実」が 42.6%となっています。「60代以上」では、「救急・休日・夜間・往診など医療の充実」が 59.3%と最も高く、次に、「成人病検診やがん検診など検診制度の充実」が 32.9%となっています。

過去2か年の調査結果でも、全世代で上位2つの選択肢の順位に変動はなく、数値も大きく変化していません。

「10代～50代」の3位は、「スポーツによる健康づくり・体力づくり」で、今回 25.6%、前回(29.9%)、前々回(30.3%)、「60代以上」の3位は、「健康相談・健康教室・保健師などの訪問活動の充実」で、今回 26.0%、前回(19.9%)、前々回(24.9%)で、こちらも同様な傾向が続いています。

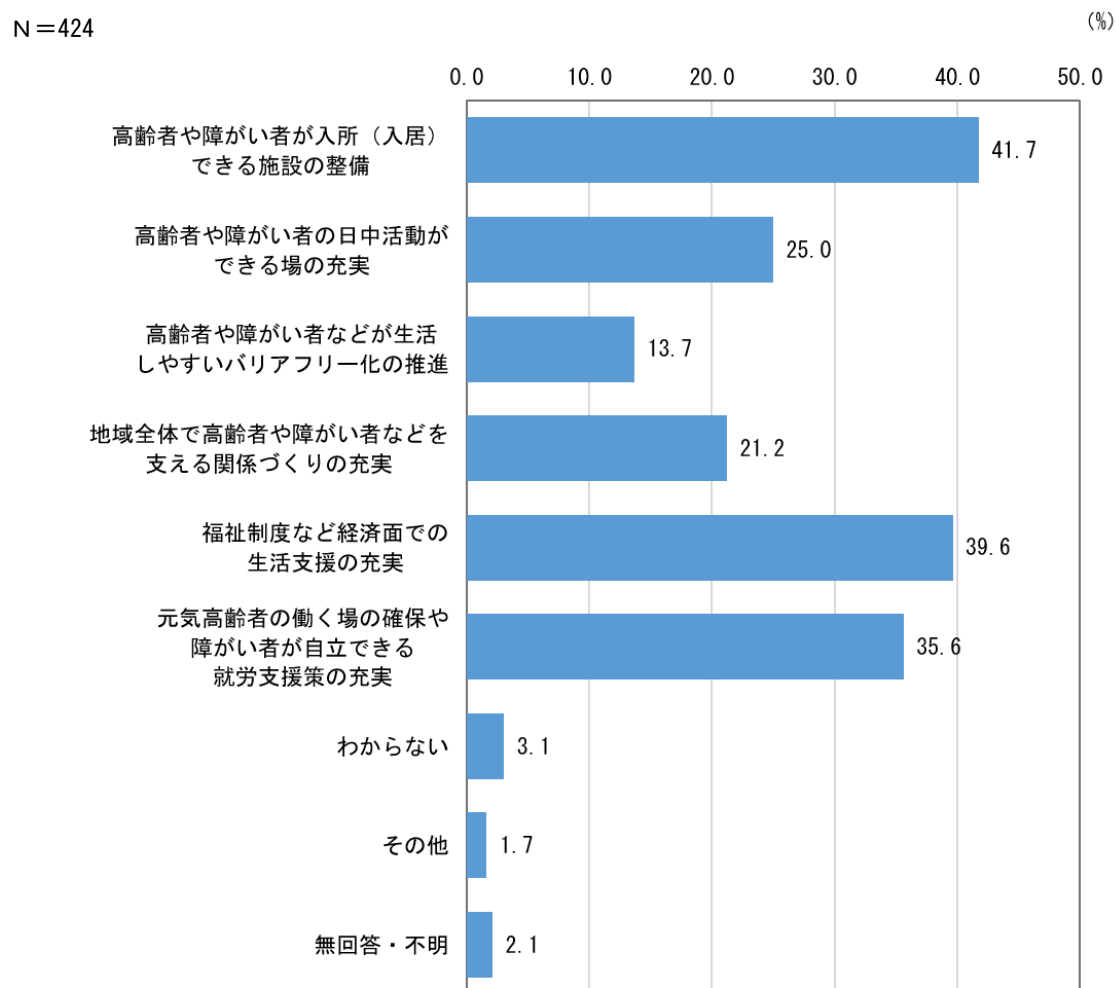


【福祉】

問 20 あなたは、福祉を充実させるためには、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。（複数回答）

福祉の充実策として、「高齢者や障害者が入所（入居）できる施設の整備」が 41.7%と最も高く、次に、「福祉制度など経済面での生活支援の充実」が 39.6%、「元気高齢者の働く場の確保や障害者が自立できる就労支援策の充実」が 35.6%となっています。

過去2か年の調査結果でも、上位にある選択肢に変動はありません。特に、「高齢者や障害者が入所（入居）できる施設の整備」で、前回(42.2%)、前々回(43.3%)、「福祉制度など経済面での生活支援の充実」で、前回(40.1%)、前々回(43.0%)となっています。



※複数回答があったため、合計が 100%を超えています。

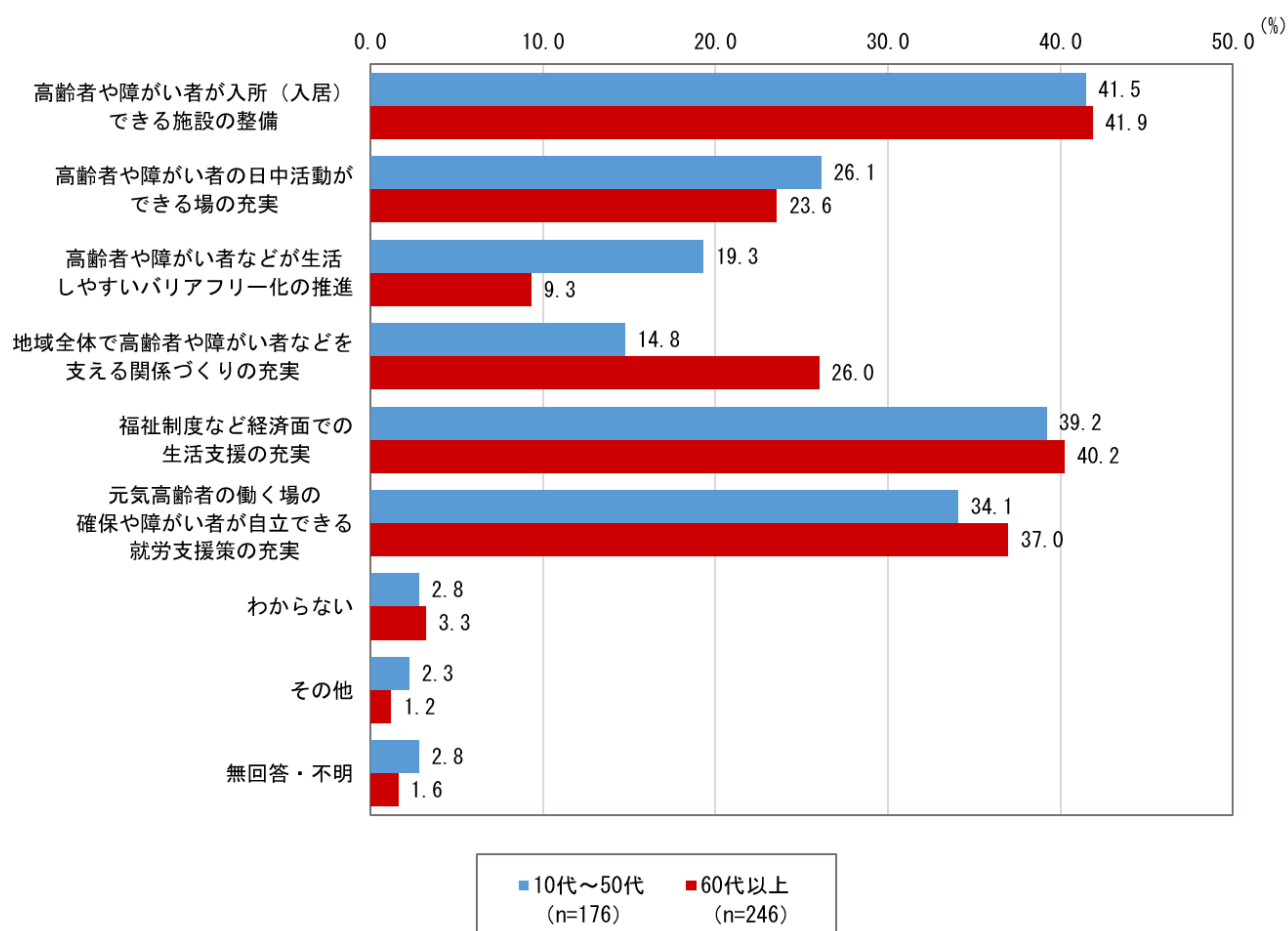
「その他」の回答（抜粋）
森林公園とか。
高齢者は基本的に親族が面倒をみるべきです（施設へ入れるにしても）。
介護職・医療職・保育士等の充実。
公共施設のバリアフリー、手すり・エレベーター、車イスの為の道路整備。
生産性がなく充実させる必要はない。
年金で入所できる施設の整備。

問 20×年代

福祉の充実策を年代別に見ると、「10代～50代」では、「高齢者や障害者が入所（入居）できる施設の整備」が41.5%と最も高く、次に、「福祉制度など経済面での生活支援の充実」が39.2%、「元気高齢者の働く場の確保や障害者が自立できる就労支援策の充実」が34.1%となっています。「60代以上」では、「高齢者や障害者が入所（入居）できる施設の整備」が41.9%と最も高く、次に、「福祉制度など経済面での生活支援の充実」が40.2%、「元気高齢者の働く場の確保や障害者が自立できる就労支援策の充実」が37.0%となっています。

過去2か年の調査結果では、「10代～50代」において、「福祉制度など経済面での生活支援の充実」が最も高く、前回(35.4%)、前々回(43.0%)となっています。また、「60代以上」では、今回の結果と同じく、「高齢者や障害者が入所（入居）できる施設の整備」が最も高く、前回(47.3%)、前々回(49.8%)で、次に、「福祉制度など経済面での生活支援の充実」で、前回(42.5%)、前々回(43.1%)となっています。

全世代において、上位3つの選択肢が似た傾向を示しています。



【産業振興】

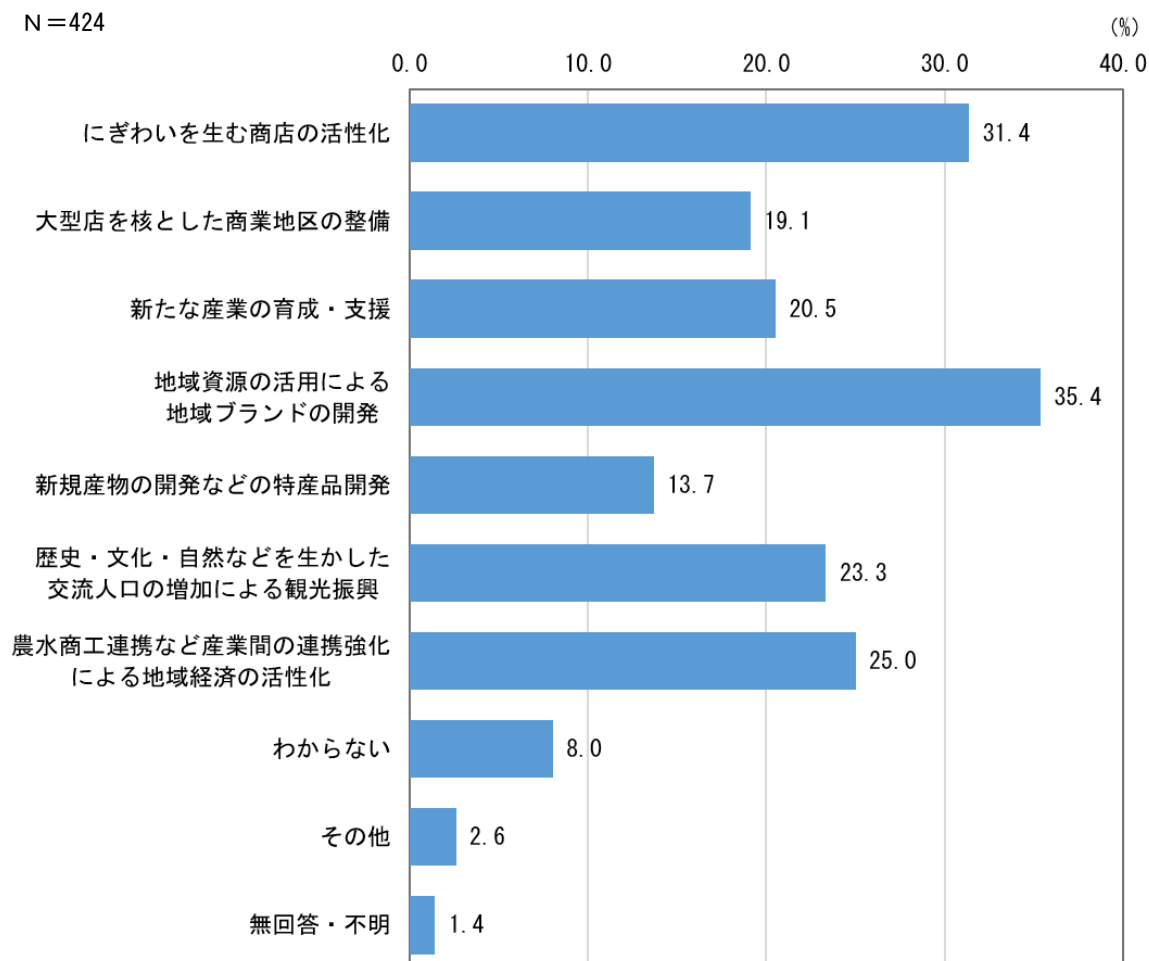
問 21 あなたは、産業振興・活性化のためには、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。（複数回答）

産業振興・活性化策として、「地域資源の活用による地域ブランドの開発」が 35.4%と最も高く、次に、「にぎわいを生む商店の活性化」が 31.4%、「農水商工連携など産業間の連携強化による地域経済の活性化」が 25.0%、「歴史・文化・自然などを生かした交流人口の増加による観光振興」が 23.3%となっています。

過去2か年の調査結果では、「にぎわいを生む商店の活性化」が前回(29.8%)、前々回(28.9%)で最も高く、次に、「地域資源の活用による地域ブランドの開発」が前回(29.6%)、前々回(28.1%)、「農水商工連携など産業間の連携強化による地域経済の活性化」が前回(23.9%)、前々回(26.5%)、「新たな産業の育成・支援」が前回(22.3%)、前々回(24.9%)となっています。

上位3つの選択肢の順位に変動はあるものの、同じような傾向となっています。4位以下の選択肢は、今回、「歴史・文化・自然などを生かした交流人口の増加による観光振興」に変わっています。

N=424



※複数回答があったため、合計が 100%を超えています。

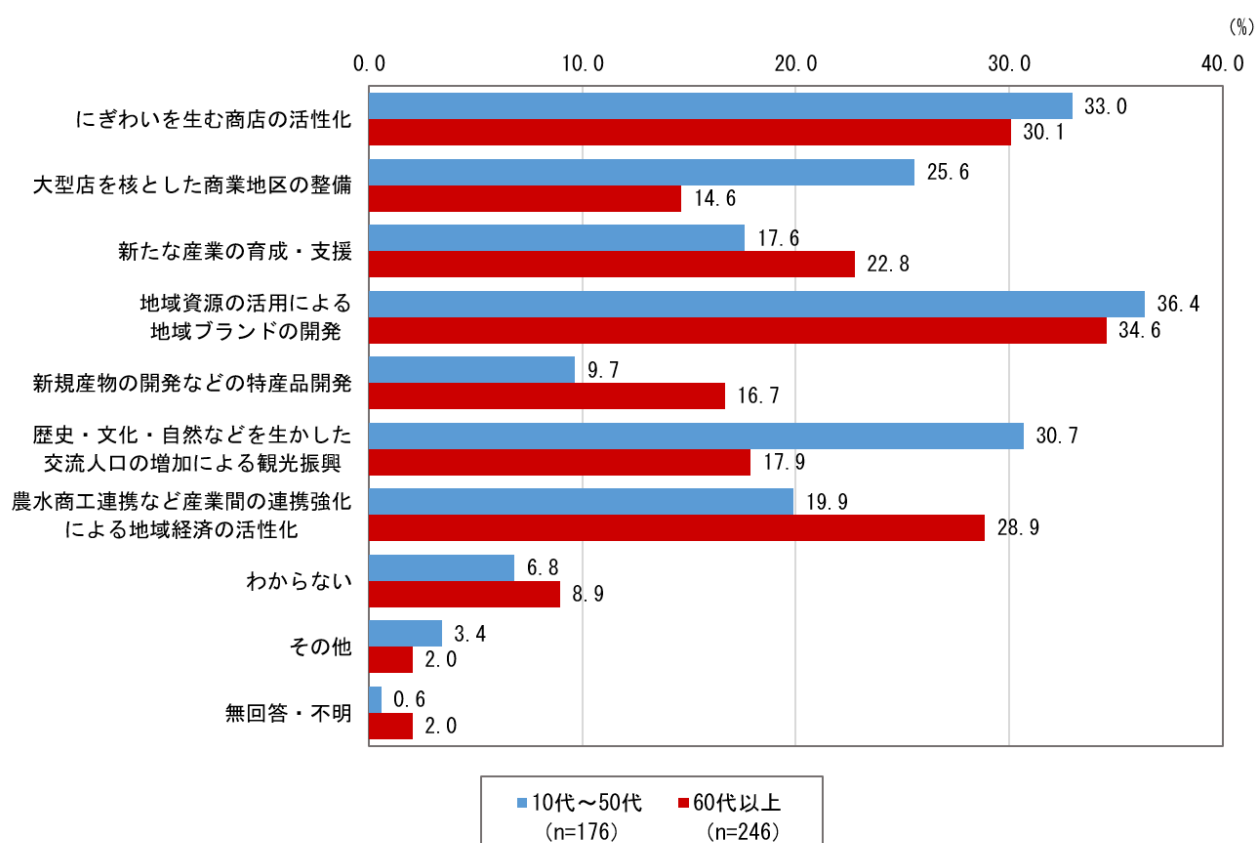
「その他」の回答（抜粋）
尾鷲市の祭りやイベントなどで、例えば尾鷲市の港祭りは過去に有名人を呼んだり、各チームによるダンスここ最近は盆踊りが行なわれてましたが、それだと県外から来てもらうためには少し弱いと思います。尾鷲市で見れる尾鷲市の花火はこうだぞという何か目玉を作った方がいいと思います。例えば港祭りの盆踊りの参加型も市民の人だったら踊りわかるからある程度参加すると思いますが、それを例えばカラオケ大会とかコスプレ大会的なものを取り入れれば、どんな方でも参加しやすいと思います。花火も尾鷲でしか見られない独自の花火を作るのも良いと思います。熊野は三尺玉があり、紀伊長島の灯籠祭は花火も綺麗ですが灯籠がメインのイベントです。ですから尾鷲市でしか出来ないとか見れないとか独自の目玉イベントや目玉となるものを作るべきだと思います。ヤーヤ祭りなども万博のショーである程度宣伝にはなったかと思いますが、SNS で宣伝をしてらっしゃいますがもっと他の何かで宣伝を行い、そして県外の方も気軽に参加できるような体制を作って欲しいです。
一次産業への支援
尾鷲市に人、物、金が流れ込む活動たとえば尾鷲で取れたもの作ったもの外で売って、お金を稼ぐ尾鷲にお金を持ってくると● 継続 お金の流れに着目した企画、政策
自然に恵まれた町だから、塩（天然の）とか特産物にどうでしょうか？あと、クロモジや桑などでお茶を作る。
企業の誘致
市外の人に来てもらえる観光。中電跡地利用。（野外コンサート、大噴水の設置。）
新たな産業も育成しつつ、交流人口を増やし地域の良さを有効に活用し、地元を活性化させる 映画の聖地にしたり、野外コンサートをしたりして若者を呼びよせる 空き家を活用した移住促進、移住者向けの住宅・子育て支援の組み合わせ（人口を増やす）。
大企業や大型店に依存しない尾鷲市の体制づくり。
人口増加対策（子育て支援の充実）
まず、海を元気にしてほしいです。海を元気にするには、山が元気ではないと。山を、未来に残せる様な手入れをしてほしいです。
道の駅 城・寺院

問 21×年代

産業振興・活性化策を年代別に見ると、「10代～50代」では、「地域資源の活用による地域ブランドの開発」が36.4%と最も高く、次に、「にぎわいを生む商店の活性化」が33.0%、「歴史・文化・自然などを生かした交流人口の増加による観光振興」が30.7%となっています。「60代以上」では、「地域資源の活用による地域ブランドの開発」が34.6%と最も高く、次に、「にぎわいを生む商店の活性化」が30.1%、「農水商工連携など産業間の連携強化による地域経済の活性化」が28.9%となっています。

上位2つは全世代共通となっており、3位以下が分かれたという結果になっています。

過去2か年の調査結果では、「10代～50代」では、「大型店を核とした商業地区の整備」が前回(36.1%)、前々回(34.5%)で最も高くなっています。「60代以上」では、「にぎわいを生む商店の活性化」が前回(31.4%)最も高く、「農水商工連携など産業間の連携強化による地域経済の活性化」が、前々回(32.5%)最も高くなっています。

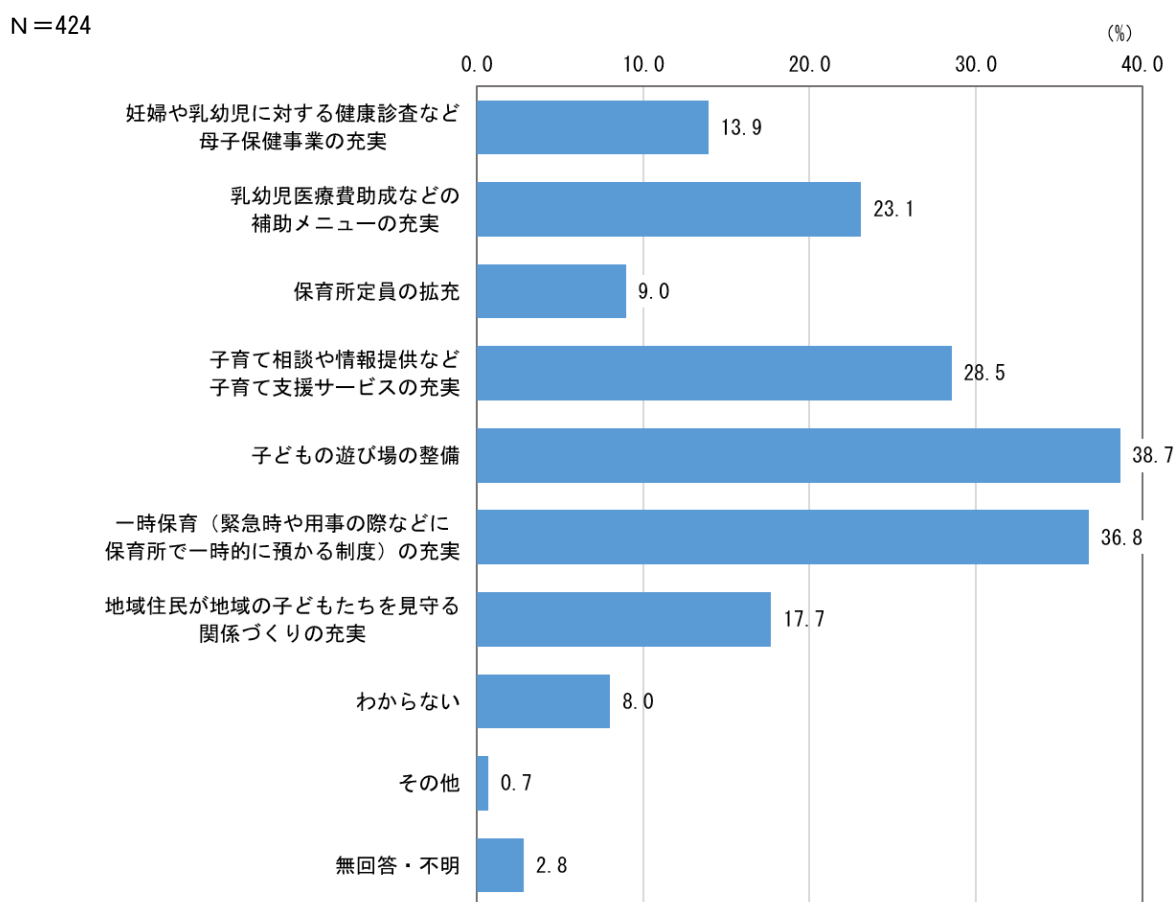


【子育て環境】

問 22 尾鷲市も少子化が重要な課題となっています。あなたは、少子化に対応するにはどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。（複数回答）

少子化への対応として、「子どもの遊び場の整備」が 38.7%と最も高く、次に、「一時保育（緊急時や用事の際などに保育所で一時的に預かる制度）の充実」が 36.8%、「子育て相談や情報提供など子育て支援サービスの充実」が 28.5%となっています。

過去2か年の調査結果では、「一時保育（緊急時や用事の際などに保育所で一時的に預かる制度）の充実」が前回(32.8%)、前々回(32.1%)、「子どもの遊び場の整備」が、前回(30.6%)、前々回(29.1%)、「乳幼児医療費助成などの補助メニューの充実」が、前回(29.0%)、前々回(33.7%)で、上位の選択肢に大きな変化はないものの、「乳幼児医療費助成などの補助メニューの充実」の割合が徐々に減っています。



※複数回答があったため、合計が 100%を超えています。

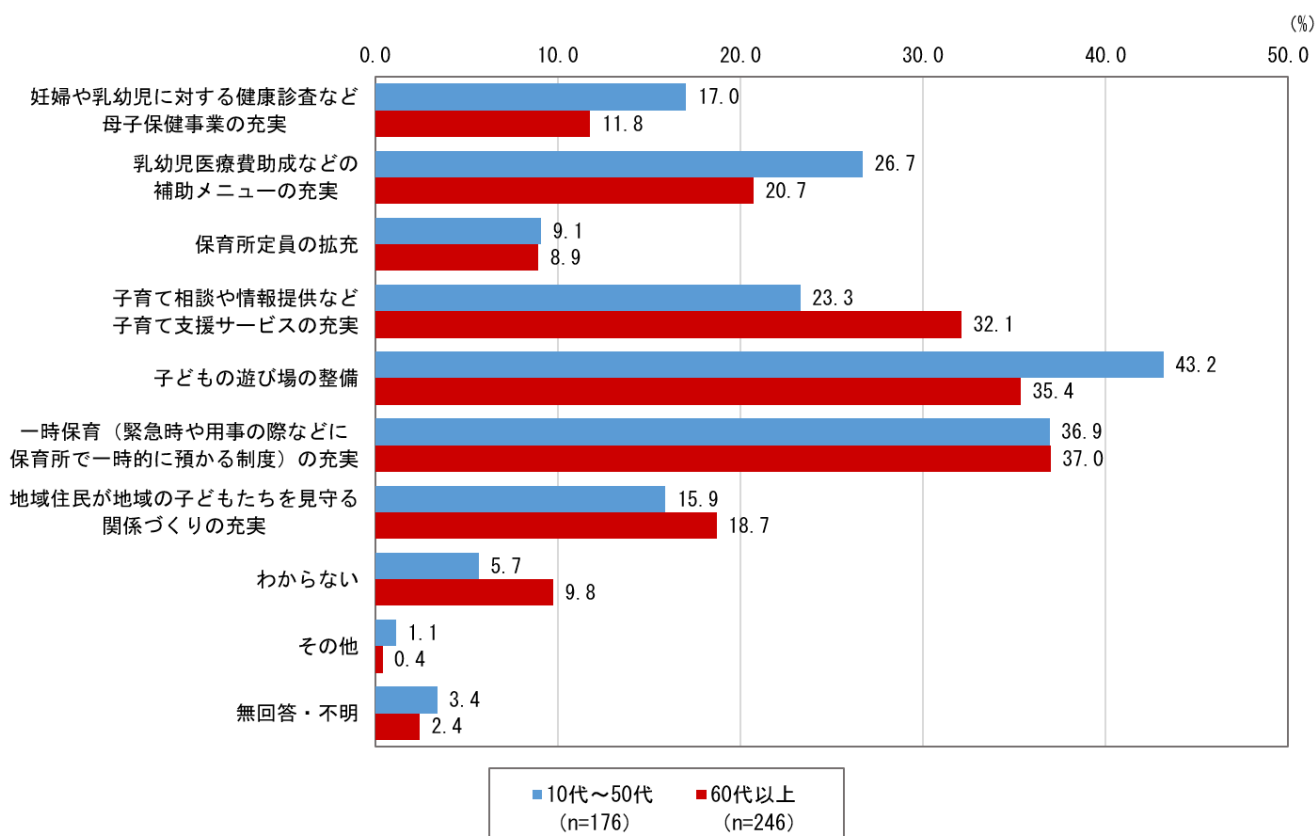
「その他」の回答（抜粋）
放課後サポートの充実、保育環境の整備。
第一に私の町では、子どもの姿は見えません。
子育て一時金を定期的に。

問 22×年代

少子化への対応を年代別に見ると、「10代～50代」で「子どもの遊び場の整備」が43.2%と最も高く、次に、「一時保育（緊急時や用事の際などに保育所で一時的に預かる制度）の充実」が36.9%、「乳幼児医療費助成などの補助メニューの充実」26.7%となっています。

「60代以上」では、「一時保育（緊急時や用事の際などに保育所で一時的に預かる制度）の充実」が37.0%と最も高く、次に、「子どもの遊び場の整備」が35.4%、「子育て相談や情報提供など子育て支援サービスの充実」が32.1%となっています。

過去2か年の調査結果と比較して、全世代で「子どもの遊び場の整備」の割合が高まっています。また、「10代～50代」では、「一時保育（緊急時や用事の際などに保育所で一時的に預かる制度）の充実」が前回(29.9%)、前々回(27.3%)となっており、「60代以上」では、「子育て相談や情報提供など子育て支援サービスの充実」が前回(28.3%)、前々回(27.8%)と高まっています。



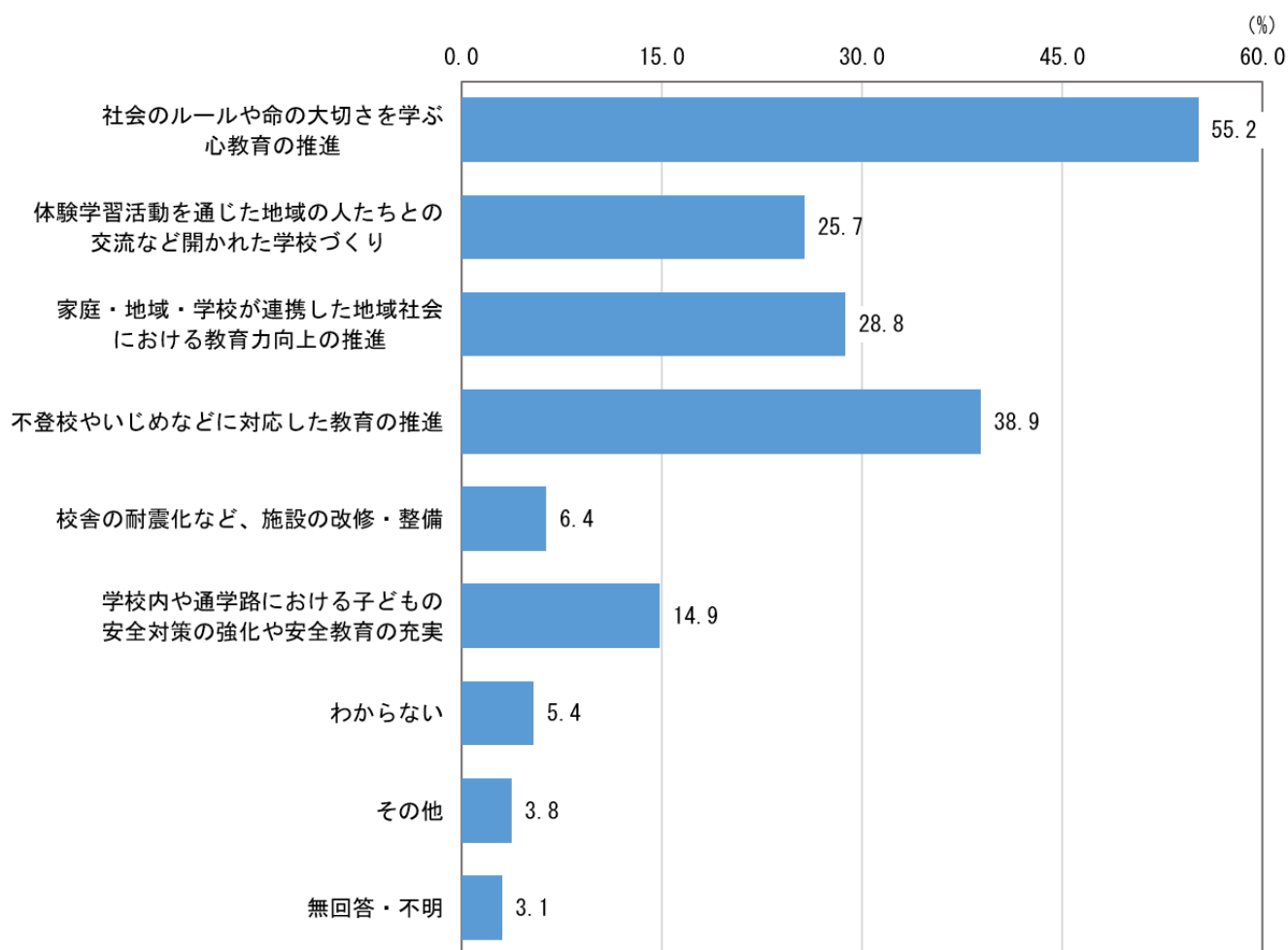
【学校教育】

問 23 あなたは、学校教育を充実させるためには、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。（複数回答）

学校教育の充実策として、「社会のルールや命の大切さを学ぶ心教育の推進」が 55.2%と最も高く、次に、「不登校やいじめなどに対応した教育の推進」が 38.9%、「家庭・地域・学校が連携した地域社会における教育力向上の推進」が 28.8%となっています。

過去 2 か年の調査結果では、「社会のルールや命の大切さを学ぶ心教育の推進」が前回 (48.9%)、前々回 (50.3%) と最も高く、「不登校やいじめなどに対応した教育の推進」が前回 (36.6%)、前々回 (35.6%)、「家庭・地域・学校が連携した地域社会における教育力向上の推進」が前回 (32.0%)、前々回 (36.6%) と順位の変動はあるものの、上位の選択肢は同じとなっています。

N=424



※複数回答があったため、合計が 100%を超えています。

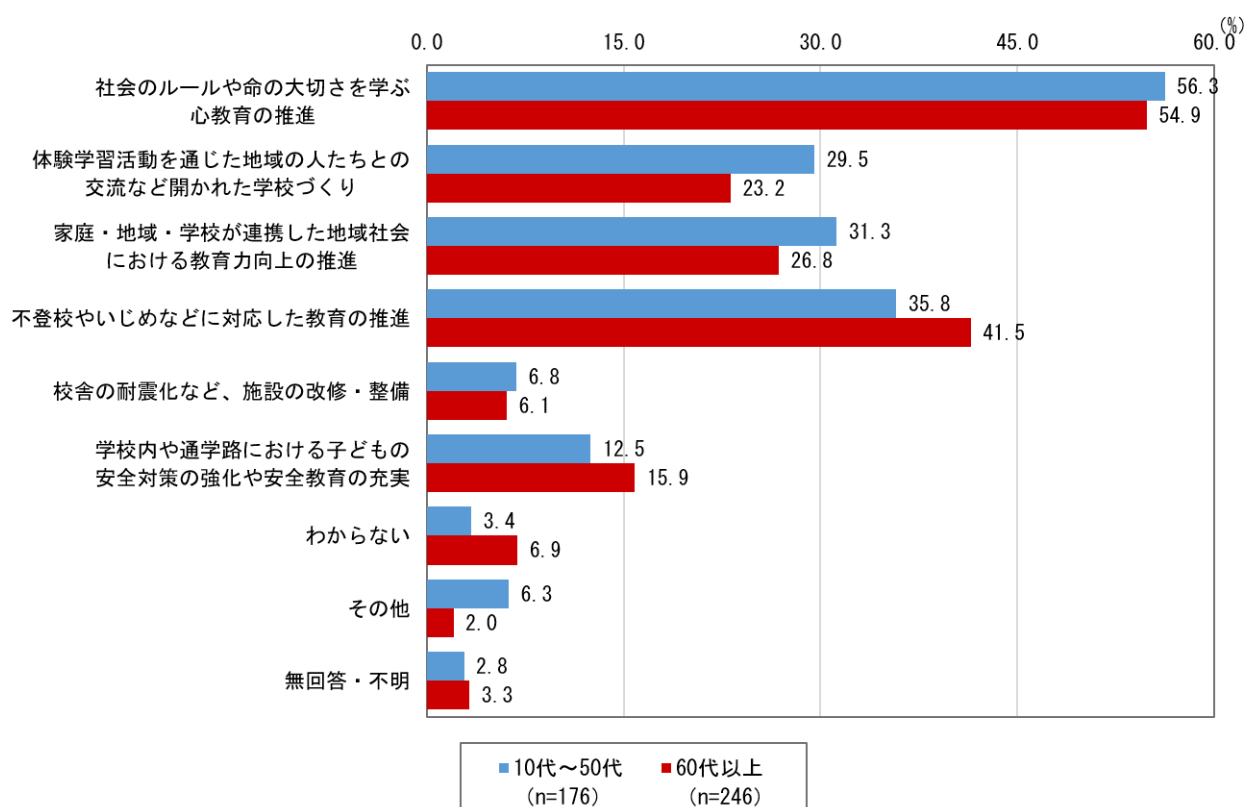
「その他」の回答（抜粋）
都心部と比較した尾鷲の教育格差理解に向けた保護者教育。
良いも悪いも含めてその子らしさを認めてあげ、お互いに互いのらしさを尊重し合う人格否定のない一人一人の個性を尊重し高め合う教育。ただ言われることをやるのではなく自ら問いを立て行動するような教育。もっとクリエイティブな授業などを精力的に行う。音楽や美術、物作りなど。後々尾鷲の町の活性化に繋がる可能性を育てていく。この現代社会、かなり生きづらい世の中ですので、授業に心理学や哲学をメインに入れるのもアリだと思います。
生きる力をつける教育
SNS や AI などの使い方や危険性などの教育
寺子屋が読み書きそろばん以上に仏法を教えたように、人の道を教えることが大事だと思います。口頭で教えることは難しく、できる人は限られているので、茶道書道華道等の日本文化、剣道弓道柔道、合気道空手道等の日本武道を通して教えるのが良いと思います。
・尾鷲を好きになってくれるような授業。 ・尾鷲育はすごくいいと思います。 ・助け合うことの大切さを教える ・心を育む（自己肯定感を上げる）生きていくうえで大事だと思う！！
学用品や制服のリユース活動
携帯（ケータイ）歩きスマホを止めるようにしてほしい。

問 23×年代

学校教育の充実策を年代別に見ると、「10代～50代」では、「社会のルールや命の大切さを学ぶ心教育の推進」が56.3%と最も高く、次に、「不登校やいじめなどに対応した教育の推進」が35.8%、「家庭・地域・学校が連携した地域社会における教育力向上の推進」31.3%となっています。「60代以上」では、「社会のルールや命の大切さを学ぶ心教育の推進」が54.9%と最も高く、「不登校やいじめなどに対応した教育の推進」が41.5%、「家庭・地域・学校が連携した地域社会における教育力向上の推進」が26.8%となっています。

全世代とも上位3つの選択肢が同じ傾向となっています。

過去2か年の調査結果でも、全世代において「社会のルールや命の大切さを学ぶ心教育の推進」が最も高くなっています。また、「体験学習活動を通じた地域の人たちとの交流など開かれた学校づくり」は、「10代～50代」で、前回(31.3%)、前々回(40.0%)と低下傾向にあります。上位3つの選択肢については、順位の変動はあるものの、おおむね傾向は変わりません。



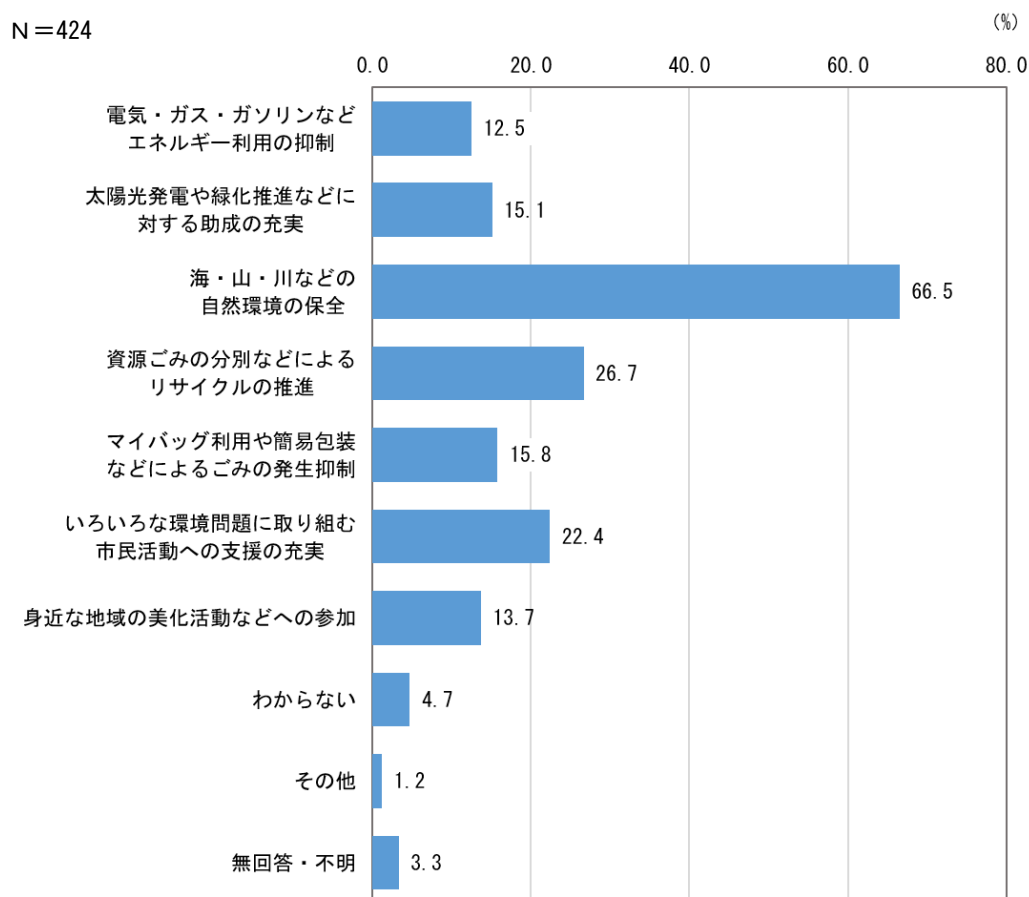
【環境】

問 24 あなたは、環境を良くするためには、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。
(複数回答)

環境を良くする方策として、「海・山・川などの自然環境の保全」が 66.5%と最も高く、次に、「資源ごみの分別などによるリサイクルの推進」が 26.7%、「いろいろな環境問題に取り組む市民活動への支援の充実」が 22.4%となっています。

過去2か年の調査結果でも、「海・山・川などの自然環境の保全」が前回(60.2%)、前々回(59.1%)と最も高く、次に、「資源ごみの分別などによるリサイクルの推進」が前回(24.7%)、前々回(25.9%)となっています。

「太陽光発電や緑化推進などに対する助成の充実」は、今回 15.1%、前回(18.5%)、前々回(24.1%)と低下傾向にあります。



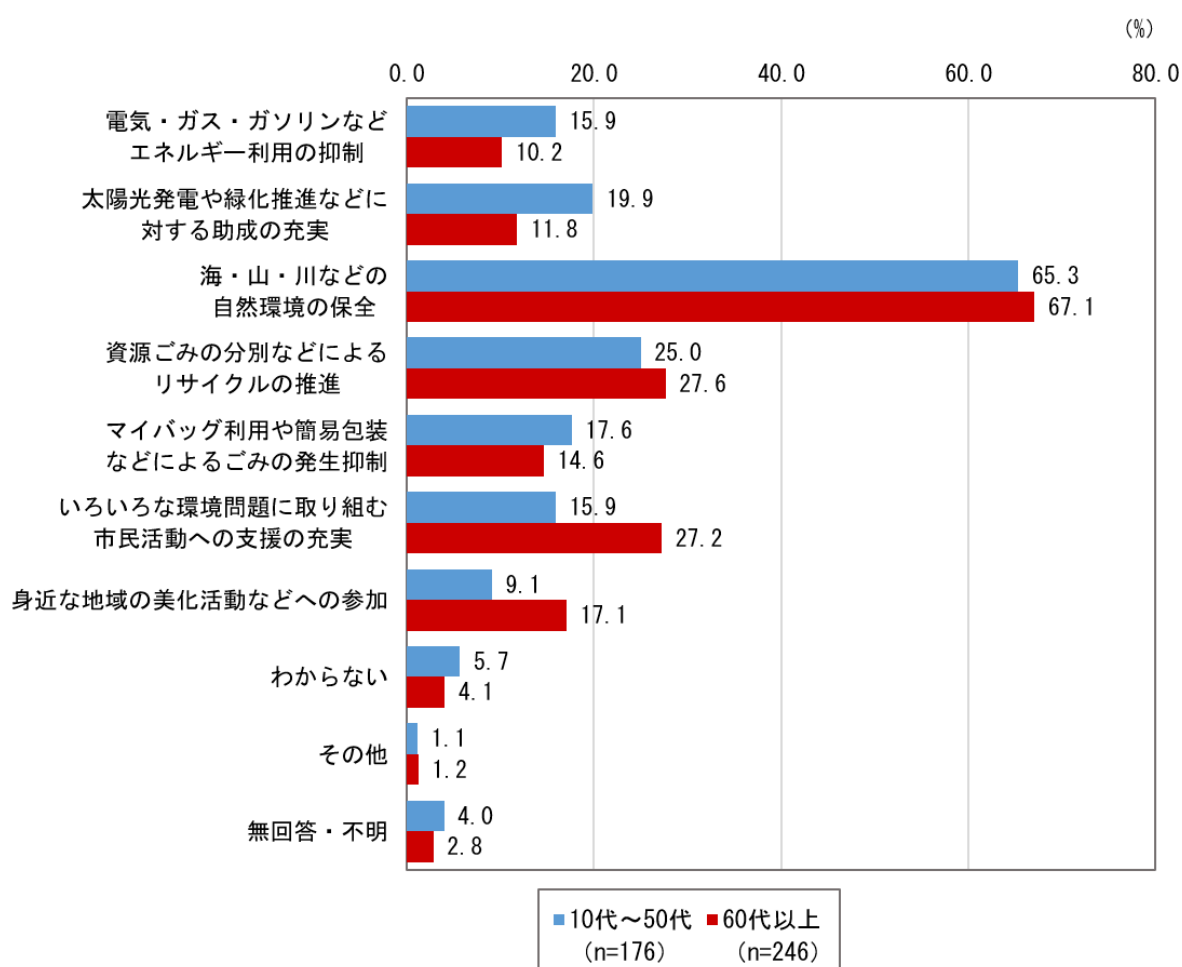
※複数回答があったため、合計が 100%を超えています。

「その他」の回答（抜粋）
道路などの草刈りなど、もう少し回数が増やせるよう予算を増やす。
1人1人がゴミが落ちてたら拾う気持ち。
ソーラーパネルはこれ以上いらない。

問 24×年代

環境を良くする方策としては、「10代～50代」では、「海・山・川などの自然環境の保全」が65.3%と最も高く、次に、「資源ごみの分別などによるリサイクルの推進」が25.0%、「太陽光発電や緑化推進などに対する助成の充実」が19.9%となっています。「60代以上」では、「海・山・川などの自然環境の保全」が67.1%と最も高く、次に、「資源ごみの分別などによるリサイクルの推進」が27.6%、「いろいろな環境問題に取り組む市民活動への支援の充実」が27.2%となっています。

過去2か年の調査結果では、全年代において「海・山・川などの自然環境の保全」が最も高く、その他の選択肢もほぼ同じ傾向となっています。

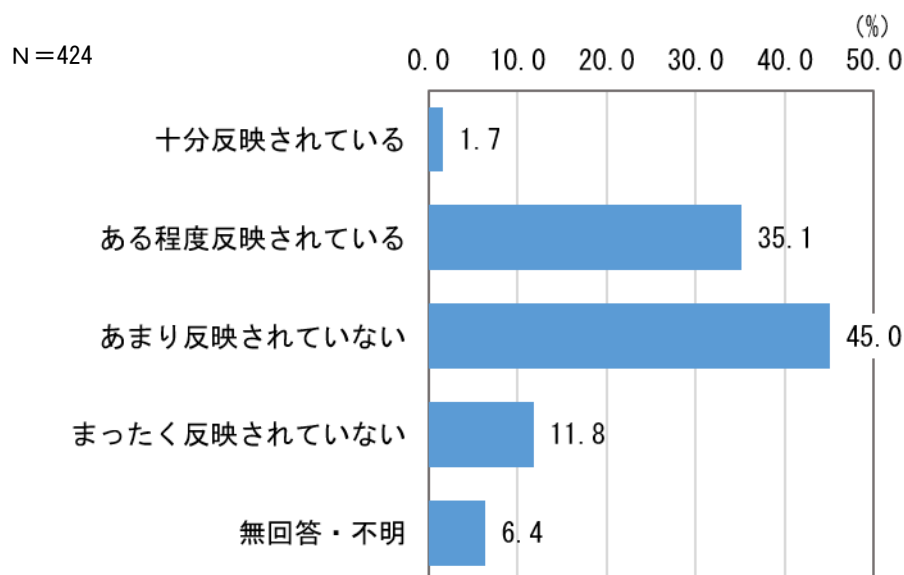


【市民意見の反映】

問 25 あなたは、現在の市政に市民の意向がどの程度反映されていると考えていますか。

市政への市民意向の反映状況として、「あまり反映されていない」が 45.0%と最も高く、次に、「まったく反映されていない」が 11.8%となっており、両者の合計で 56.8%が「反映されていない」となっています。

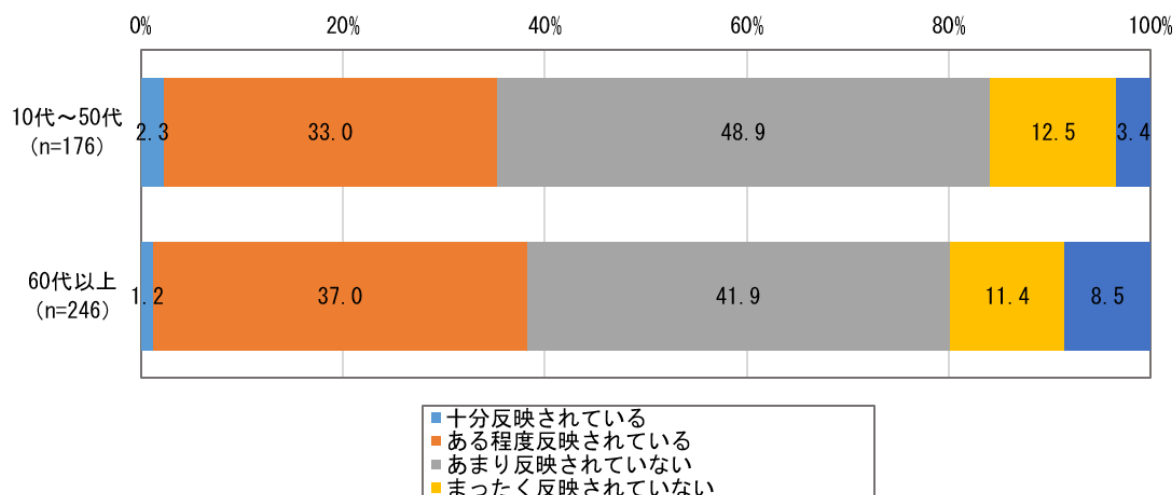
過去2か年の調査結果からは、前回(60.0%)、前々回(62.0%)と徐々に減少しています。



問 25×年代

市政への市民意向の反映状況を年代別に見ると、「あまり反映されていない」「まったく反映されていない」の合計が、「10代～50代」では 61.4%、「60代以上」では 53.3%となっています。

過去2か年の調査結果では、「反映されていない」の割合は、「10代～50代」で、前回(68.8%)、前々回(70.9%)、「60代以上」で、前回(54.4%)、前々回(55.0%)と徐々に減少しています。

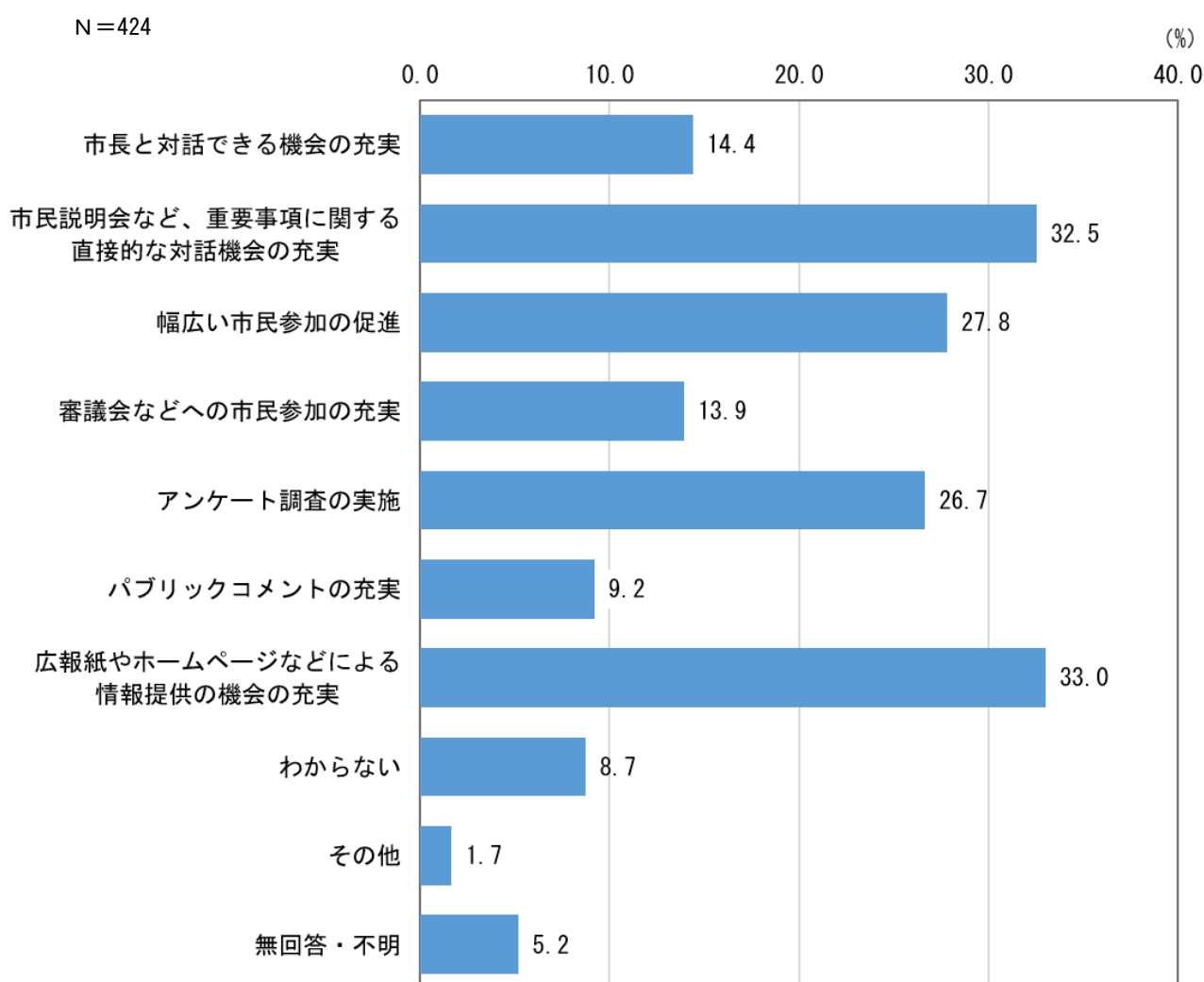


問 26 あなたは、できるだけ多くの市民の意向を市政に反映させるためには、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。（複数回答）

市民意向を市政に反映させる方策として、「広報誌やホームページなどによる情報提供の機会の充実」が 33.0%と最も高く、次に、「市民説明会など、重要事項に関する直接的な対話機会の充実」が 32.5%、「幅広い市民参加の促進」が 27.8%となっています。

過去2か年の調査結果では、「広報誌やホームページなどによる情報提供の機会の充実」が前回(40.3%)、前々回(29.1%)と大幅に高くなっています。また、「幅広い市民参加の促進」が前回(32.3%)、前々回(31.3%)、「市民説明会など、重要事項に関する直接的な対話機会の充実」が前回(29.0%)、前々回(29.1%)となっています。

上位3つの選択肢については、順位の変動はあるものの、おおむね傾向は変わりません。



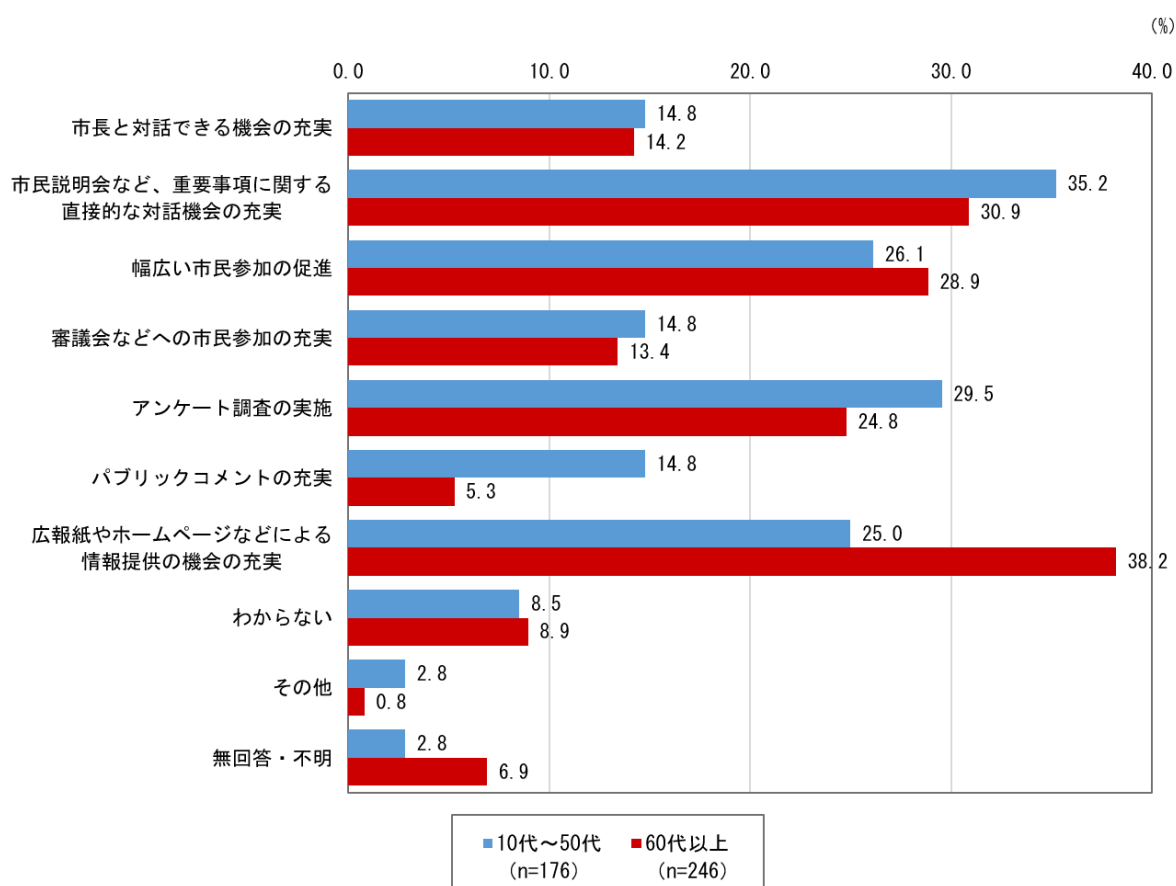
※複数回答があったため、合計が 100%を超えています。

「その他」の回答（抜粋）
財源の確保
月一で、市長さんと意見交換ができる場を設ける。定期的に尾鷲市の新聞や雑誌、チラシでアンケート用紙を各家庭に配布する。
市民と直接対応している、現場のあるいは窓口の職員さんが知っていると思います。
市民の意見をちゃんと聞いたり、市民と向き合う　市長への手紙に書いても全然相手にされなかったと聞きました。
職員による市内への聞きとり
幹部の方々の勉強（近隣の現状を探る。）
パブリックコメントの意味をどの程度の人が理解しているでしょうか。
もっと、市民の声を聞いた方が良い。今回のこのアンケートは良かったと思うよ。

問 26×年代

市民意向を市政に反映させる方策を年代別に見ると、「10代～50代」では、「市民説明会など、重要事項に関する直接的な対話機会の充実」が35.2%と最も高く、次に、「アンケート調査の実施」が29.5%、「幅広い市民参加の促進」が26.1%となっています。「60代以上」では、「広報紙やホームページなどによる情報提供の機会の充実」が38.2%と最も高く、「市民説明会など、重要事項に関する直接的な対話機会の充実」が30.9%、「幅広い市民参加の促進」が28.9%となっています。

過去2か年の調査結果では、「10代～50代」で「幅広い市民参加の促進」、「市民説明会など、重要事項に関する直接的な対話機会の充実」、「アンケート調査の実施」が高くなっています。「60代以上」では、「広報紙やホームページなどによる情報提供の機会の充実」、「幅広い市民参加の促進」、「市民説明会など、重要事項に関する直接的な対話機会の充実」が高くなっています。

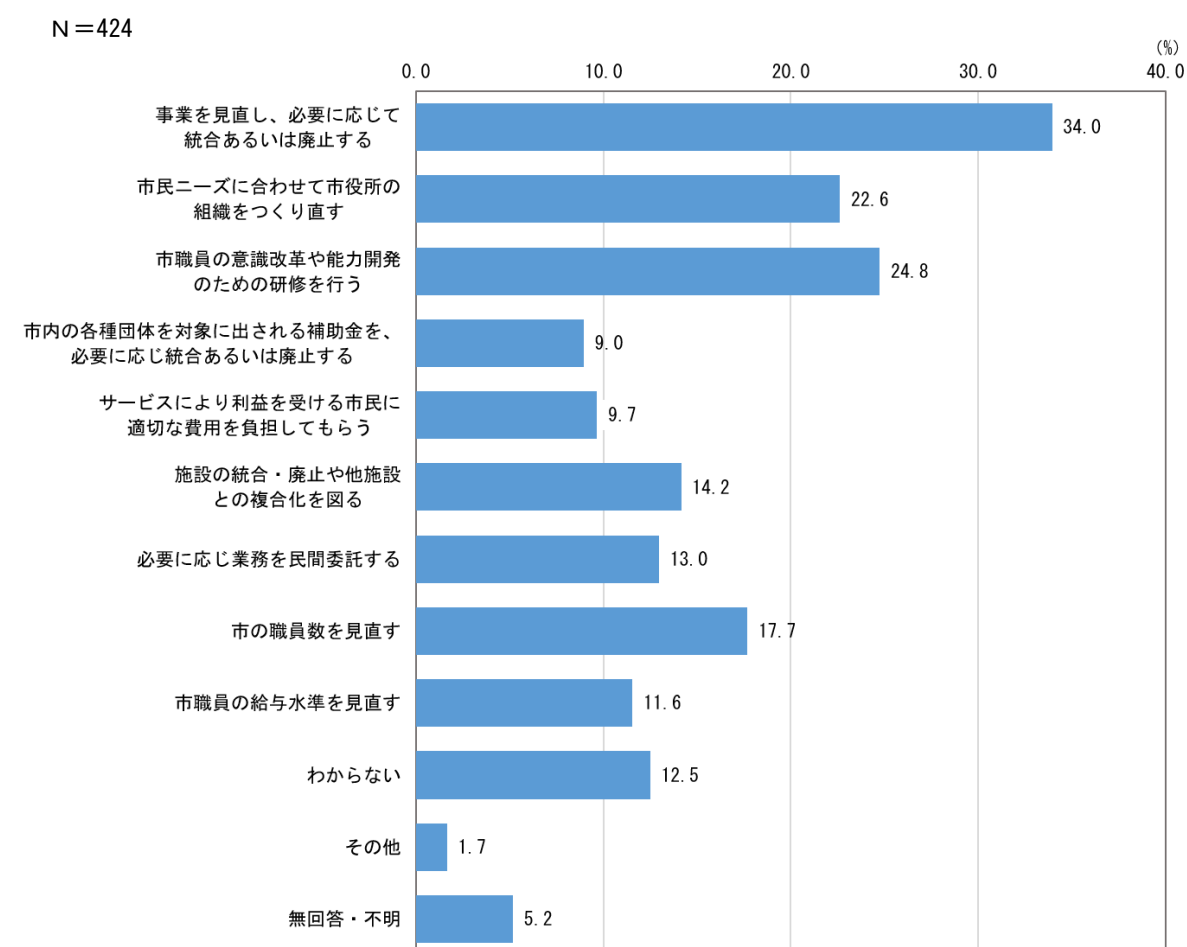


【行政改革】

問27 あなたは、効果的かつ効率的な行政サービスを提供するためには、どのような方策が必要だと考えますか。(複数回答)

効率的かつ効果的な行政サービスの提供方策として、「事業を見直し、必要に応じて統合あるいは廃止する」が 34.0%と最も高く、次に、「市職員の意識改革や能力開発のための研修を行う」が 24.8%、「市民ニーズに合わせて市役所の組織をつくり直す」が 22.6%となっています。

過去2か年の調査結果では、上位3つの選択肢については、順位の変動はあるものの、おおむね傾向は変わりません。



※複数回答があったため、合計が 100%を超えています。

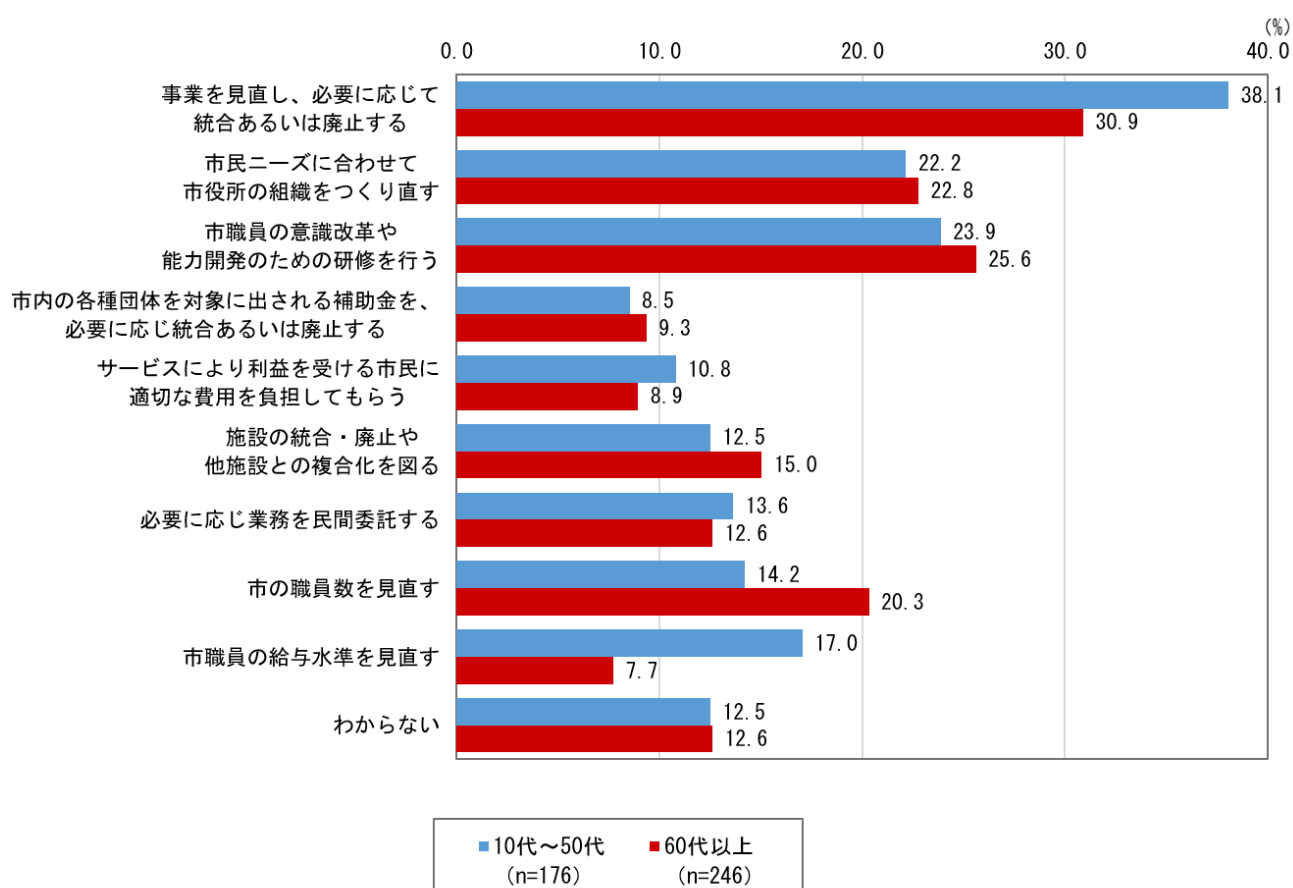
「その他」の回答（抜粋）
市民と直接対応している現場、あるいは窓口の職員さんがわかっていると思います。
市の職員だけでなく市民も一丸となって住みやすい町に！
議員の給料を日給にする。
運営費補助の廃止
市民活動のボランティア等市の職員さんに手当がつくと聞く？
トップの意識改革。（市民優先）
特に建設関係において、専門の経験者をアルバイトとして採用し、建設コンサルタントへの委託打合せに同席させる。
8、9、等は、現場で働いている方々が一番よく分かっていると思います。
市職員の増加 男女共各年代層の増加。

問27×年代

効率的かつ効果的な行政サービスの提供方策を年代別に見ると、「10代～50代」では、「事業を見直し、必要に応じて統合あるいは廃止する」が38.1%と最も高く、次に、「市職員の意識改革や能力開発のための研修を行う」が23.9%、「市民ニーズに合わせて市役所の組織をつくり直す」が22.2%となっています。「60代以上」では、「事業を見直し、必要に応じて統合あるいは廃止する」が30.9%と最も高く、次に、「市職員の意識改革や能力開発のための研修を行う」が25.6%、「市民ニーズに合わせて市役所の組織をつくり直す」が22.8%となっています。

全世代にわたり上位3つ選択肢について同じとなっています。

過去2か年の調査結果と比べ、「10代～50代」では、「市職員の意識改革や能力開発のための研修を行う」が前回(17.4%)、前々回(17.6%)から大きく増えています。また、「必要に応じ業務を民間委託する」が前回(23.6%)、前々回(22.4%)から低くなっています。「60代以上」では、「事業を見直し、必要に応じて統合あるいは廃止する」が前回(29.2%)、前々回(27.3%)と徐々に高くなってきています。

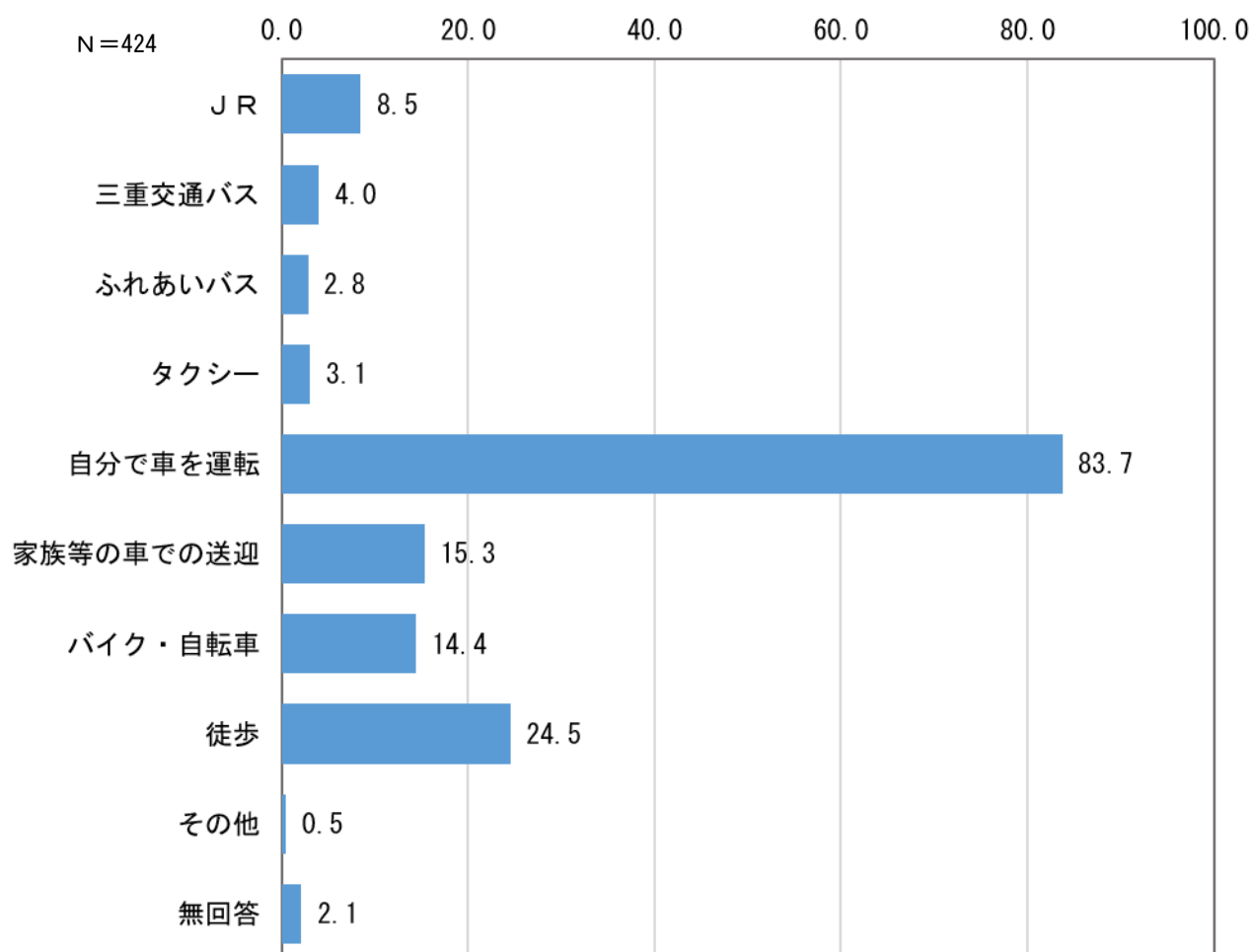


【公共交通】

問28 通勤通学、買い物、通院など、普段外出する際の交通手段はどれですか。あてはまるものすべてお答えください。（複数回答）

普段外出する際の交通手段として、「自分で車を運転」が 83.7%と最も高く、次に、「徒歩」が 24.5%、「家族等の車での送迎」が 15.3%となっています。

過去2か年の調査結果でも、上位4つの選択肢については、順位の変動はあるものの、おおむね傾向は変わりません。



※複数回答があったため、合計が 100%を超えています。

4. 暮らしの満足度と今後の重要度について

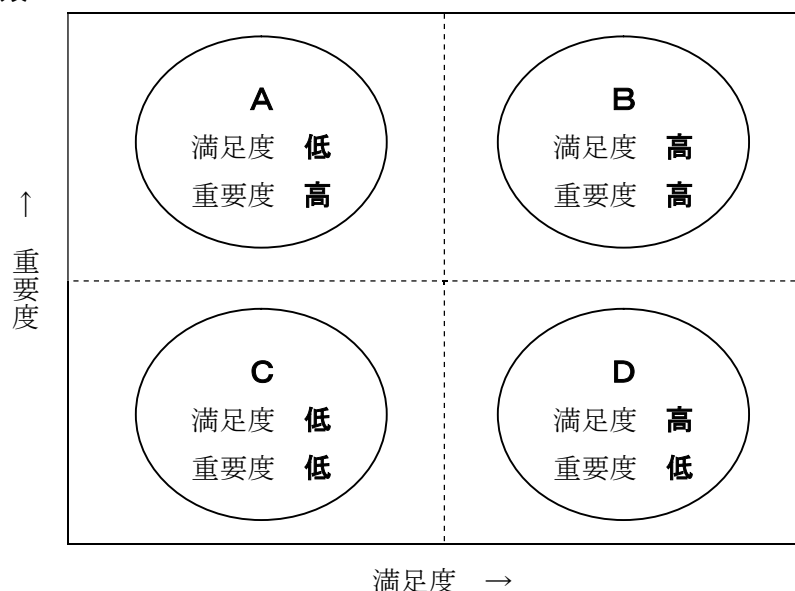
問29 市が実施している取り組みやサービスについて、現在の「満足度」と今後の「重要度」をお聞かせください。

満足度の点数化については、「満足」＝5点、「どちらかといえば満足」＝4点、「普通」＝3点、「どちらかといえば不満」＝2点、「不満」＝1点として、「わからない」「不明・無回答」を除く件数で除したものです。

重要度の点数化については、「重要」＝5点、「どちらかといえば重要」＝4点、「普通」＝3点、「どちらかといえば重要でない」＝2点、「重要でない」＝1点として、「わからない」「不明・無回答」を除く件数で除したものです。

市の取り組みやサービスの分野 39 項目について、上記の基準で点数化し、散布図に落とし込みました。

■結果の分類



領 域	説 明
A	重要度が高いにも関わらず、満足度が低く、優先して充実が求められている項目
B	満足度も重要度も高いため、継続して充実する必要がある項目
C	満足度も重要度も低いため、他の項目の優先順位を勘案しながら、満足度を向上していくべき項目
D	満足度は高く、重要度が低いため、今後場合によっては満足度の低い他の項目へ優先順位をシフトしていくことを検討する必要がある項目

※上記の領域については、あくまで 39 項目の中の相対的な位置関係を示すために便宜上設定した分類であるため、A～Dは絶対的な区分ではありません。

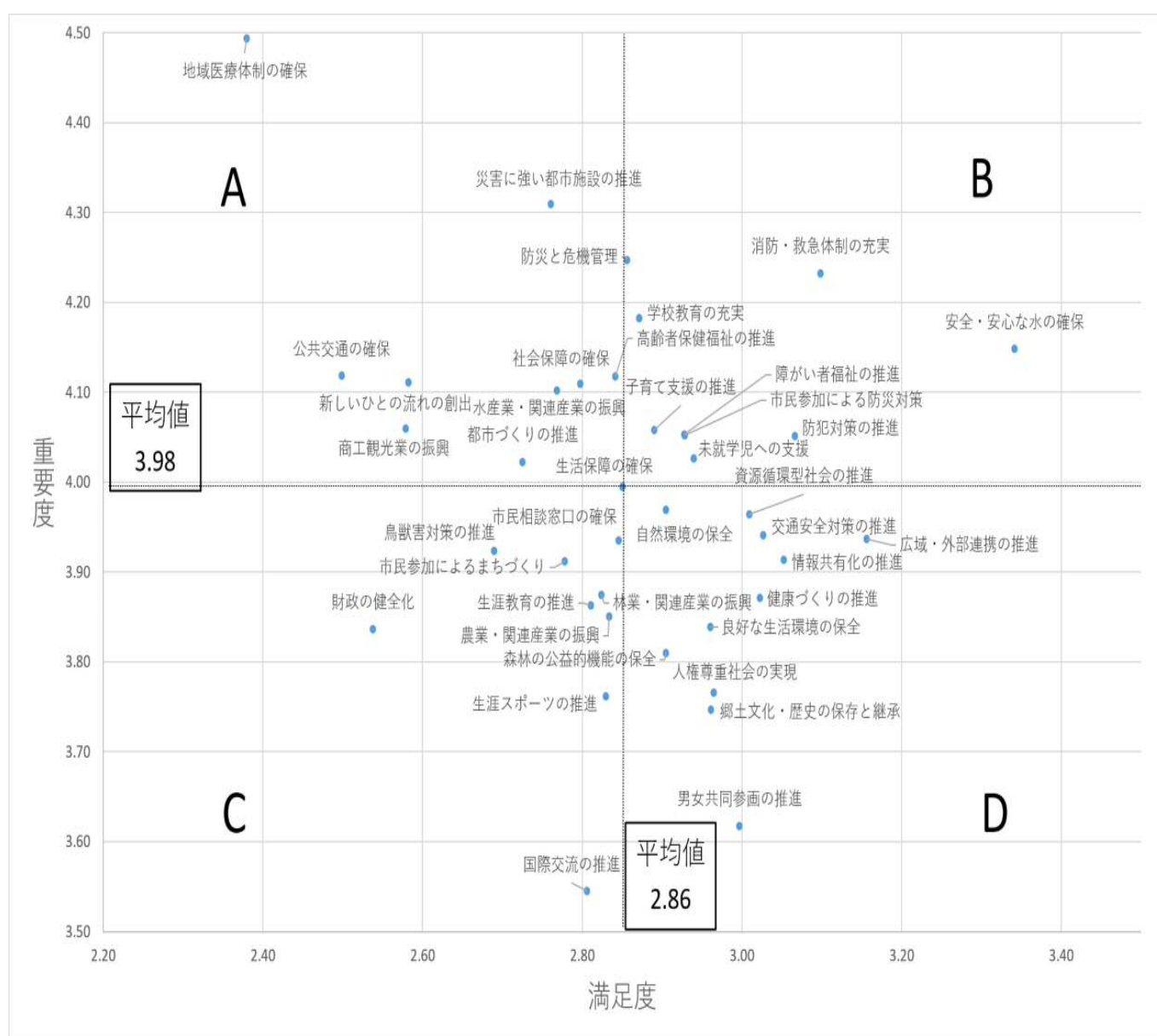
■満足度・重要度の散布図

満足度と重要度の散布図について、「地域医療体制の確保」「公共交通の確保」「商工観光業の振興」「新しい人の流れの創出」などがAの領域に分類され、今後優先して充実することが求められている項目となります。

また、「消防・救急体制の充実」「安全・安心な水の確保」「障がい者福祉の推進」「市民参加による防災対策」などがBの領域に分類されています。

一方で、「郷土文化・歴史の保存と継承」「男女共同参画の推進」「人権尊重社会の実現」などがDの領域に分類されています。

また、「財政の健全化」「鳥獣害対策の推進」「市民参加によるまちづくり」などがCの領域に分類されています。



■満足度・重要度一覧

	満足度	重要度
(1) 市民参加によるまちづくり 地域課題を解決するため、共に話し合い、活動している取り組みなど	2.78	3.91
(2) 情報共有化 広報紙、市ホームページなどによる行政情報の提供など	3.05	3.91
(3) 市民参加による防災対策 防災体制づくりの自立的・持続的な取り組みや、安全で安心な取り組みなど	2.93	4.05
(4) 防災と危機管理 土砂災害や雨水浸水などに対応できる都市基盤、避難場所、防災情報の提供、自主防災組織の整備、広域自治体間協力など	2.86	4.25
(5) 消防・救急体制 火災や地震災害等における消火・救急・救助活動確保のための人員体制及び車両・資機材の整備、また、応急手当の普及講習、消防団との連携など	3.10	4.23
(6) 防犯対策 犯罪の不安を感じることはない安全で安心な取り組みなど	3.07	4.05
(7) 交通安全 交通安全意識が高まり、交通事故に遭わない、交通事故が起きない取り組みなど	3.03	3.94
(8) 人権尊重社会 人権に関する学習会や人権相談など、一人ひとりが互いに人権を尊重し合う取り組みなど	2.96	3.77
(9) 男女共同参画の推進 性別にとらわれず、それぞれのライフスタイルや価値観を尊重し合う取り組みなど	3.00	3.62
(10) 健康づくり ライフステージに応じた健康づくり事業、母子保健事業・介護予防事業など	3.02	3.87
(11) 地域医療体制 尾鷲総合病院の診療体制や設備、地域内の医院・診療所など	2.38	4.49
(12) 高齢者保健福祉 いつまでも元気に社会のなかで活躍し、介護が必要となっても住み慣れた地域で暮らすことができる取り組みなど	2.84	4.12
(13) 障がい者福祉 自立支援などの福祉サービスにより、住み慣れた地域で暮らせる取り組みなど	2.93	4.05
(14) 社会保障の確保 安心して生活ができる、社会保障制度が健全に運営される取り組みなど	2.80	4.11
(15) 市民相談窓口の確保 必要ときに適切な相談を受けることができる取り組みなど	2.85	3.93
(16) 生活保障の確保 必要ときに適切な支援を受けることができる取り組みなど	2.85	3.99
(17) 農業振興 さまざまな形態の農業活動が行われ、農地の保全・管理、活用がされる取り組みなど	2.83	3.85
(18) 林業振興 経営基盤が強化され、施業を継続的に実施できる取り組みなど	2.82	3.88
(19) 水産業振興 水揚げ量の拡大、生産体系の見直しや生産性及び付加価値の向上により、水産業が持続できる取り組みなど	2.77	4.10
(20) 商工観光業振興 活発な産業活動により、魅力ある雇用の場が創出される取り組みなど	2.58	4.06
(21) 子育て支援 保育サービス、子育てに関する相談体制や情報提供、放課後の子どもの安全な活動場所などの環境づくりなど	2.89	4.06
(22) 未就学児支援 未就学児が健やかに成長できる取り組みなど	2.94	4.03
(23) 学校教育 一人ひとりの個性や能力を伸ばし、確かな学力、豊かな心、健康な体づくりにより、笑顔いっぱいの子どもを育む取り組みなど	2.87	4.18
(24) 生涯教育の推進 文化・生涯学習を行うための設備の管理、その指導者の育成支援など	2.81	3.86
(25) 生涯スポーツの推進 年齢、体力、好みに応じて多くのスポーツに触れ、楽しくスポーツが親しめる取り組みなど	2.83	3.76
(26) 国際交流の推進 多様な交流ができ、国際感覚豊かな人づくりがされる取り組みなど	2.81	3.54
(27) 森林の公益的機能 適正に管理・保全され、森林の公益的機能が確保される取り組みなど	2.90	3.81

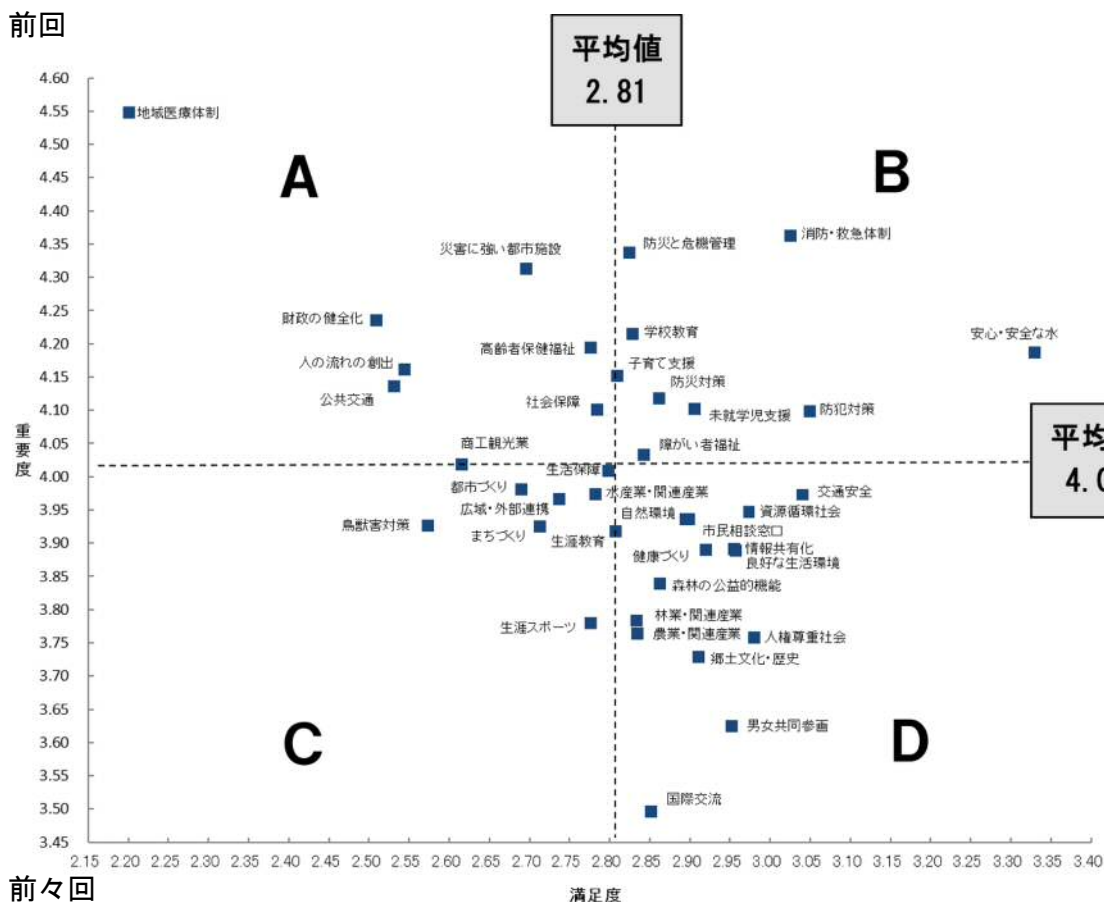
(28)鳥獣害対策の推進 野生鳥獣との共生を図り、鳥獣害が発生しない取り組みなど	2.69	3.92
(29)自然環境 自然環境や生態系に配慮し、良好な自然が残る取り組みなど	2.91	3.97
(30)資源循環型社会の推進 ごみの発生抑制・再利用・再生利用が進んだ、環境に負荷をかけない取り組みなど	3.01	3.96
(31)良好な生活環境の保全 環境負荷を低減し、快適な生活が営める取り組みなど	2.96	3.84
(32)安全・安心な水の確保 安全で安心な水が安定供給される取り組みなど	3.34	4.15
(33)都市づくり 安心して暮らせる都市基盤が整備される取り組みなど	2.73	4.02
(34)災害に強い都市施設 災害に強い都市施設により、安心して快適に暮らせる取り組みなど	2.76	4.31
(35)公共交通 安全で利便性が高く、環境にやさしい公共交通により快適に暮らし、移動ができる取り組みなど	2.50	4.12
(36)財政の健全化 行政組織のスリム化などの構造改革、財政運営の見直し、職員の意識改革を行い、持続可能な行政体質への変革を図るなど	2.54	3.84
(37)広域・外部連携の推進 近隣市町や産学官の連携、共創による新たなまちづくりがされる取り組みなど	3.16	3.94
(38)人の流れの創出 多くの市民が住み続けたいと思い、市外の人も住み続けたいと思えるまちとなるような定住移住に対する取り組みなど	2.58	4.11
(39)郷土文化・歴史の保存と継承 文化財の適切な保存・管理や、次世代への文化継承に対する取り組みなど	2.96	3.75
平 均	2.86	3.98

前回は「地域医療体制の確保」「財政の健全化」「新しい人の流れの創出」などがAの領域に、「消防・救急体制」「安心・安全な水の確保」「防災と危機管理」などがBの領域に、「男女共同参画の推進」「情報共有化」「人権尊重社会」などがDの領域に、「鳥獣害対策の推進」「広域外部連携の推進」「市民参加によるまちづくり」などがCの領域に分類されていました。

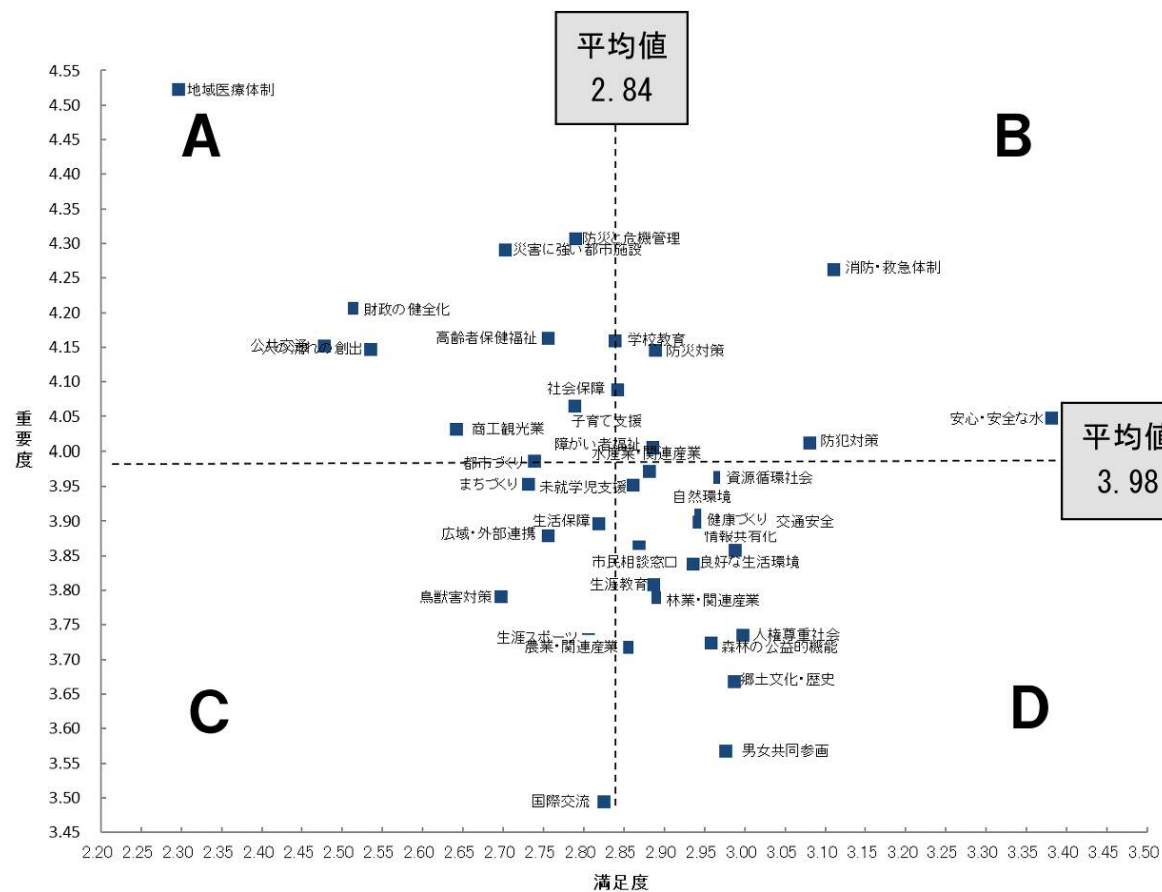
前々回は「地域医療体制の確保」「財政の健全化」「新しい人の流れの創出」などがAの領域に、「消防・救急体制」「安心・安全な水の確保」「防災と危機管理」などがBの領域に、「男女共同参画の推進」「郷土文化・歴史の保存と継承」「森林の公益的機能」などがDの領域に、「鳥獣害対策の推進」「広域外部連携の推進」などがCの領域に分類されていました。

<参考> 前回、前々回の散布図

前回

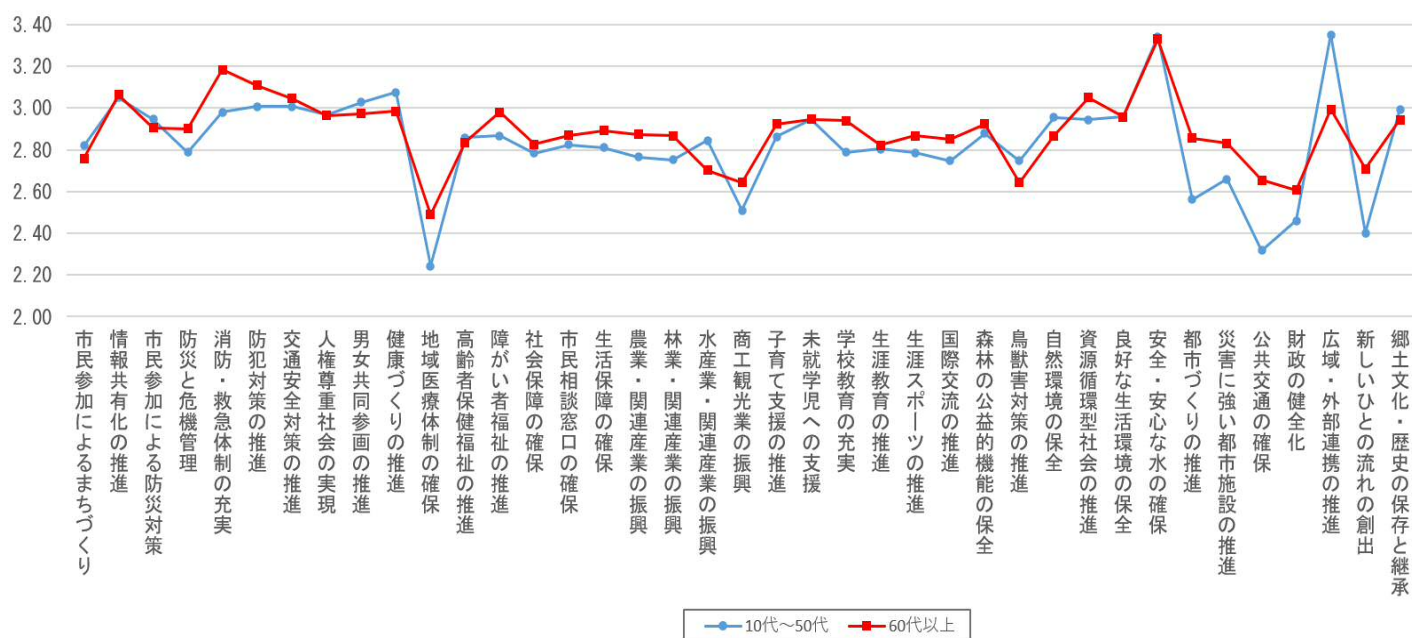


前々回



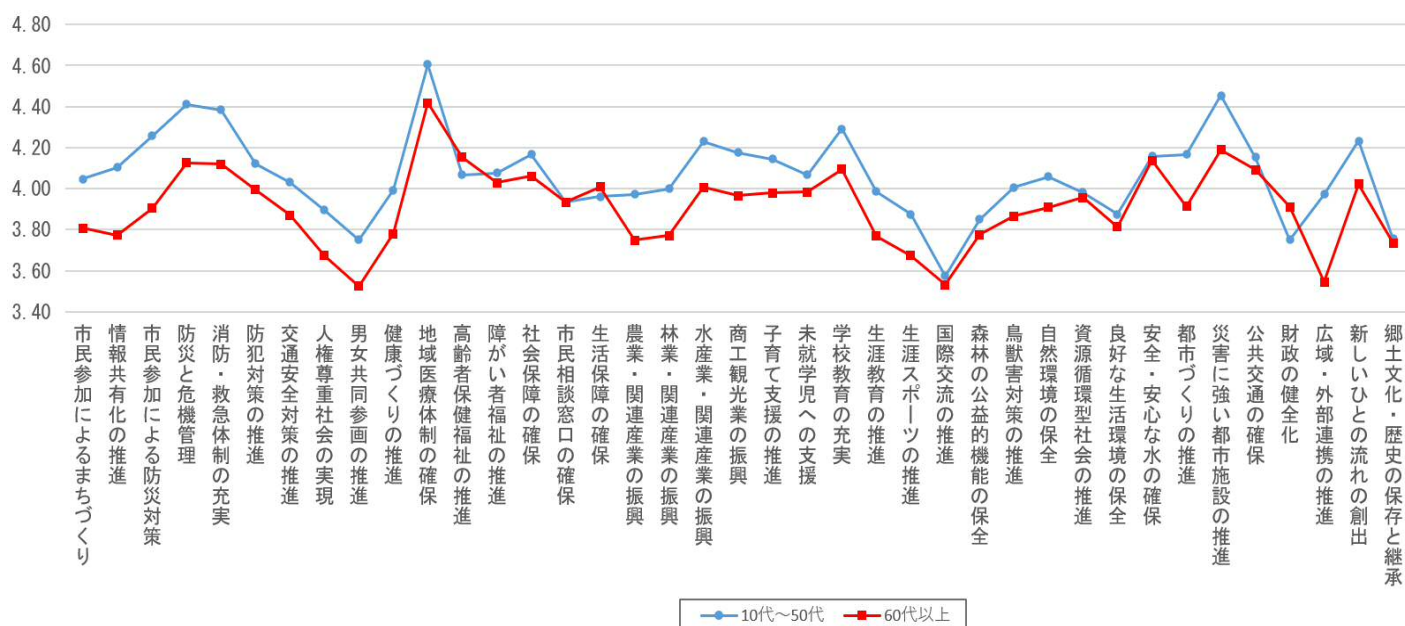
■満足度×年代

満足度について年代別に見ると、「10代～50代」では、「広域・外部連携の推進」が高く、「60代以上」では「安全・安心な水の確保」が高くなっています。「10代～50代」と「60代以上」ともに「地域医療体制の確保」が低くなっています。



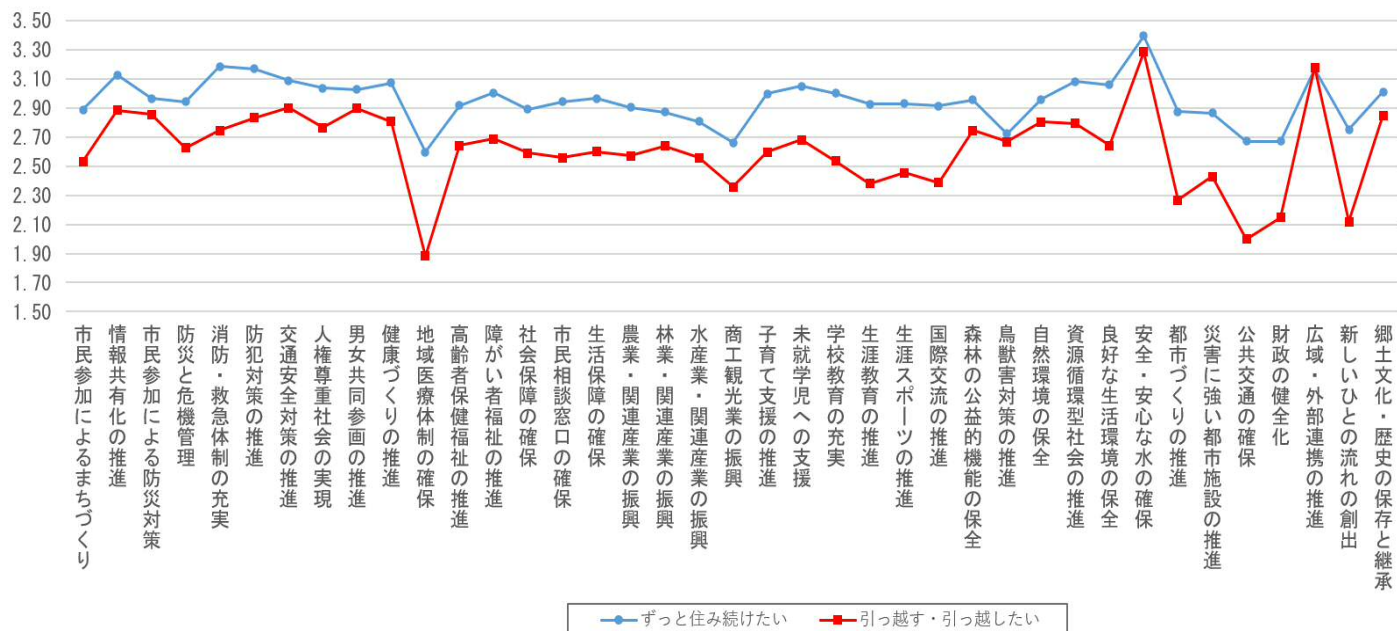
■重要度×年代

重要度について年代別に見ると、「10代～50代」と「60代以上」ともに「地域医療体制の確保」が高くなっています。「10代～50代」では、「国際交流の推進」が低く、「60代以上」では、「男女共同参画の推進」「国際交流の推進」「広域・外部連携の推進」が低くなっています。



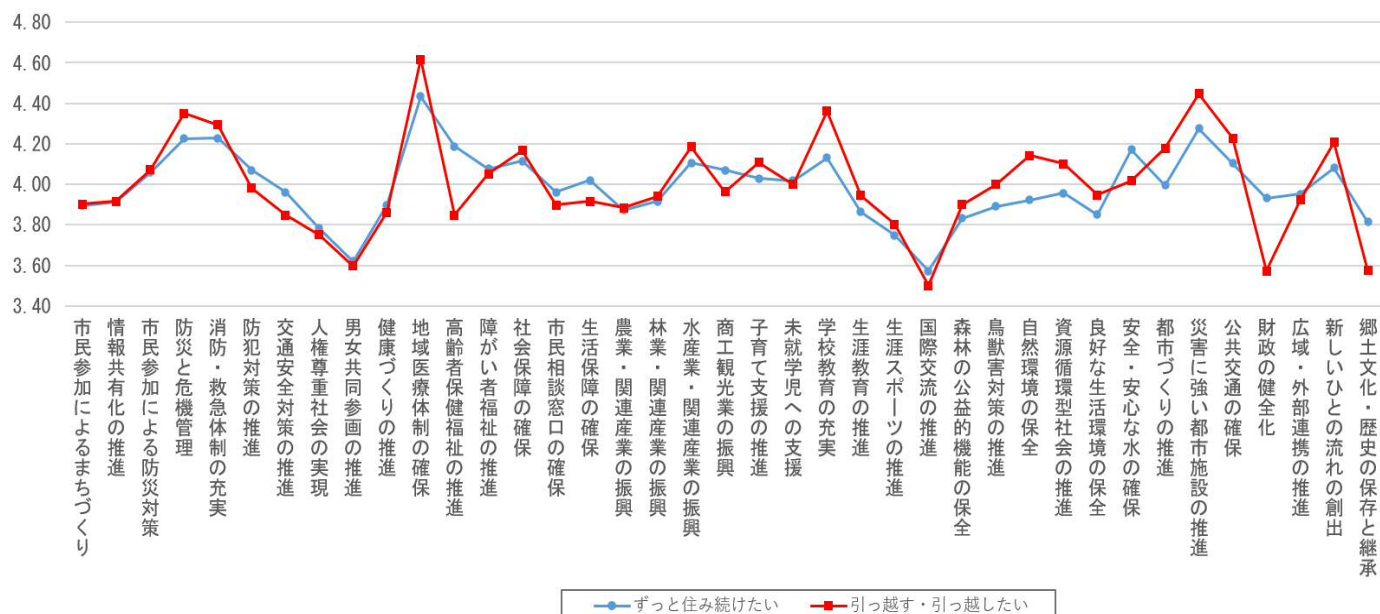
■満足度×定住意向

満足度について定住意向別に見ると、「住み続けたい」方、「引っ越す・引っ越したい」方ともに「安全・安心な水の確保」が高く、「地域医療体制の確保」が低くなっています。



■重要度×定住意向

重要度について定住意向別に見ると、定住意向に関係なく「地域医療体制の確保」の数値が高くなっており、次いで「住み続けたい」方「引っ越す・引っ越したい」方いずれも「地域医療体制の確保」が高く、「国際交流の推進」「男女共同参画の推進」が低くなっています。



5. 市民の Well-Being について

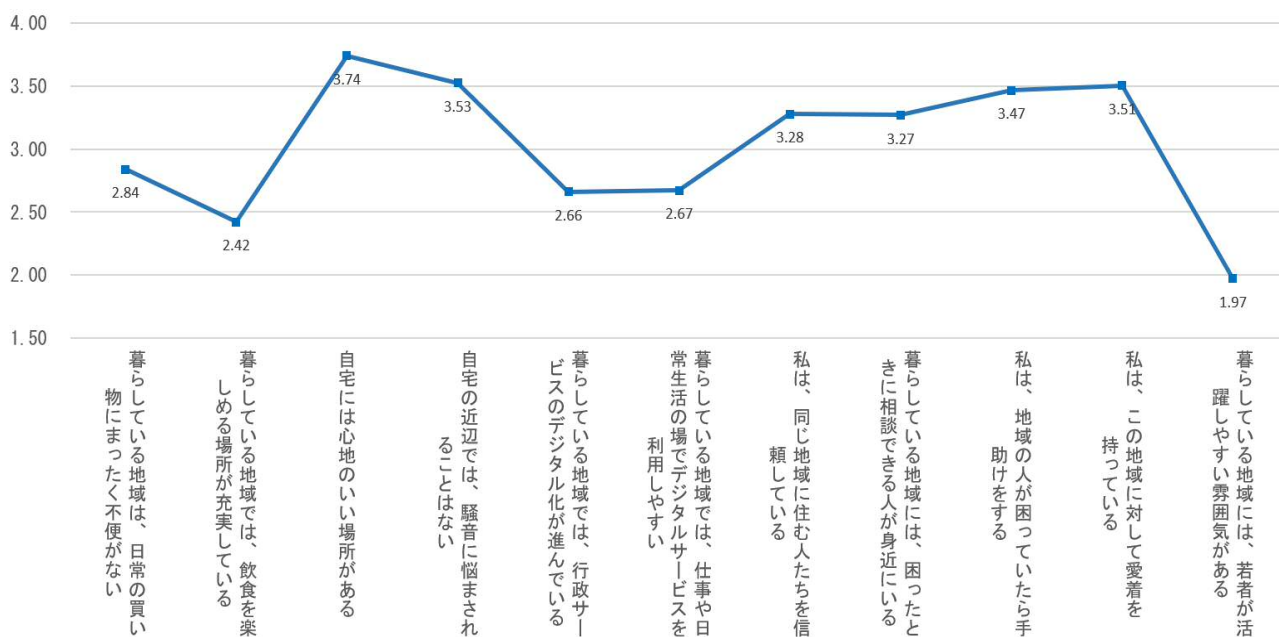
問30 市では市民の Well-Being(ウェルビーイング:個人の権利や自己実現が保証され、身体的、精神的、社会的に良好な状態であること)を目指してさまざまな取組を行おうと考えています。地域幸福度(Well-Being 指標)について、現在の「満足度」をお聞かせください。次の各項目について、あなたの考えに近いものを1つずつ数字に○をお書きください。

今回、市民のウェルビーイング向上を目指し、国の定めるウェルビーイング指標を参考に、11項目について5段階で満足度を聞きました（1が最も満足、5が最も不満足という選択肢の内容であったため、数値調整を行い、1が低く、5が高くなるようにしています）。

最も高いのが「自宅には心地のいい場所がある」で 3.74 となっており、次に、「自宅の近辺では、騒音に悩まされることはない」と「私は、この地域に対して愛着を持っている」が 3.53 となっています。

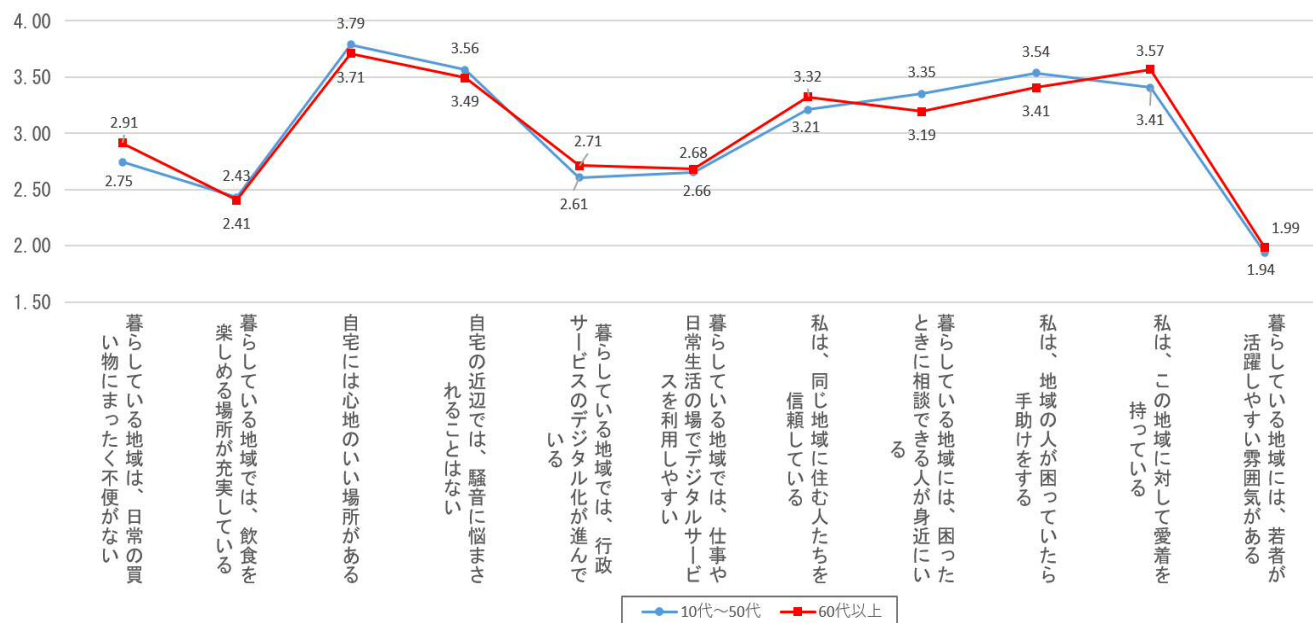
最も低いのが「暮らしている地域には、若者が活躍しやすい雰囲気がある」で 1.97 となっており、次に、「暮らしている地域では、飲食を楽しめる場所が充実している」が 2.42 となっています。

N=424



問30×年代

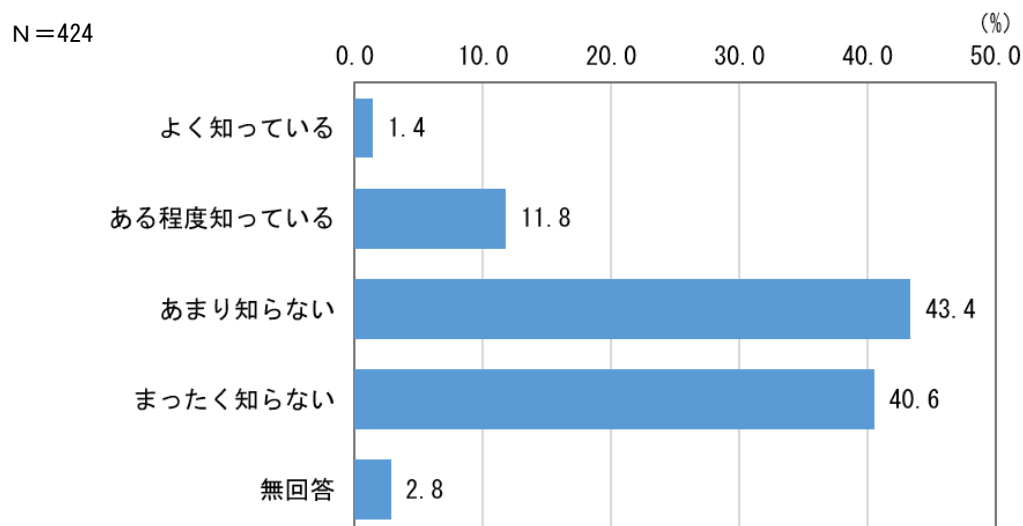
ウェルビーイング指標の満足度を年代別に見ると、「10代～50代」と「60代以上」でほぼ同じ傾向があります。どちらも「自宅には心地のいい場所がある」が高く（「10代～50代」3.79、「60代以上」3.71）、「暮らしている地域には、若者が活躍しやすい雰囲気がある」が低い（「10代～50代」1.94、「60代以上」1.99）となっています。



6. 総合計画について

問31 尾鷲市は第7次総合計画として「住みたいまち 住み続けたいまち おわせ」という将来像を設定し、多くの人が尾鷲に住んだり、訪れたりし、よりよいまちにしていくなための方策を立案しています。第7次総合計画の内容をご存じですか。

総合計画の認知度について、「よく知っている」と「ある程度知っている」の合計が13.2%、「あまり知らない」が43.4%、「まったく知らない」40.6%となっています。8割以上の方が総合計画の存在について知らない、と答えています。



問31×年代

総合計画の認知度を年代別に見ると、「10代～50代」では、「よく知っている」が2.3%、「ある程度知っている」が11.4%、「あまり知らない」が38.1%、「まったく知らない」が46.0%となっています。「60代以上」では、「よく知っている」が0.8%、「ある程度知っている」が12.2%、「あまり知らない」が47.6%、「まったく知らない」が36.2%となっています。

